

日野 レインボー バス

P-RH160型車

取扱説明書

B07

日野自動車工業株式会社
日野自動車販売株式会社

Scm.
E/B

Hino RH-160A engine / service / maintenance

Engine oil: Castrol RX Super - Valvoline diesel extra.	Change every 7,500 klms.
Transmission oil: Gear oil.	“ “ 30,000 “
Differential: “ “	“ “ 24,000 “
Power steering fluid: Castrol Dextron 3	“ “ 60,000 “
Clutch fluid:	“ “ 12 months
Break fluid:	“ “ 24 months
Engine oil filter: Part number 156071480	“ “ 15,000 klms
Fuel filter: “ “ 23401113	“ “ 20,000 “
Air filter: Donaldson P182080 – Replaced P127314.	“ “ 48,000 “



は し が き

このたびは日野車をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、車両の性能を最大限に発揮させて戴くため、運転操作方法と簡単な点検、手入れおよび定期点検などについてまとめたものであります。

車両はいかにすぐれていても取り扱い方法や点検、整備などが不十分ですと、本来の実力を発揮できないばかりでなく、安全面、排出ガス、騒音などで社会環境にも迷惑を及ぼしかねません。

したがって、本車両の性能を十分発揮して戴くため、必ず熟読くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご使用にあたり分かりにくい点がございましたら最寄りの日野サービス工場までお問い合わせください。今後共一層のご愛顧のほどよろしく願いいたします。

- 本書は、P-RH160AA型車について説明しその他の車型については異なる点のみ記載してあります。また、仕様の相違により多少異なる点がありますので、あらかじめご了承ください。なお、異なる点については、車型表示など特別な記載説明がしてあります。
- 車両の諸元については本書巻末の主要諸元表をを参照ください。
なお、本書に記載されている車両は次の通りです。

車型マーク	車 型	エンジン形式
Rainbow 7W	P-RH160AA	W04C-TI型

- ボデー関係の取り扱いおよび点検整備などについては、ボデー・メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。
お願い● 取扱説明書は、必ず車内に保管して常時携帯してください。
 - 使用者が変更となる時は、お車と共に「整備手帳」と「取扱説明書」を、車両につけてお渡してください。

本書をお読みになる前に

本書の本文中に、色刷りの枠取りがしてありますが、これは車両性能維持はもとより、お車をより安全に、より快適にご使用戴くためにもぜひお守り戴きたい事柄について記載してあります。

なお、次のような使い分けを行っていますので、特にご熟読のうえ、ご理解戴き、ぜひお守りくださいますようお願いいたします。



事故防止並びに安全上、ぜひ守って戴きたい事項について記載してあります。



車両の取り扱い、運転方法、点検整備などに関しての一般的な注意事項について記載してあります。

To jump start vehicle with flat battery.

1. Turn off ignition on both vehicles.
2. Connect jumper leads in the following order.
 - (a) + connection on flat battery
 - (b) + “ “ full battery
 - (c) -- “ “ “
 - (d) -- “ to chassis or body of vehicle with flat battery.

はじめに 1

運転に必要な装置 2

運行前点検 3

正しい運転操作 4

点検および手入れ 5

給油および給脂 6

不調に対する処置 7

付図・付表 8

English translated contents:

- Pages 10 – 11. Drivers instruments and controls.
- 12. Instrument cluster.
 - 14. Air tank pressure guage and low pressure warning.
 - 15. Water temperature guage and low coolant warning.
 - 16. Engine overheating warning.
 - 17. Intercooler overheat warning.
 - 18. Fuel and oil pressure gauges.
 - 19. Battery charging and battery charging warning light.
 - 20. Brake warning light and rear stop lamp warning light.
 - 21. Instrument cluster warning lights.
 - 22. High beam indicator light.
 - 23. Exhaust break and engine pre-heat indicator lights.
 - 24. Drivers control switches.
 - 26. Battery relay switch.
 - 27. Ignition switch inc. pre-heat.
 - 28. Heating switch and engine idle speed control.
 - 29. Parking lamp switch and hazard light switch.
 - 30. Fog lamp switch.
 - 31. Exhaust break control and windscreen wiper/washer control.
 - 32. Rear window demisting switch, windscreen washer switch, bus interior light switch.
 - 33. Air dryer switch, Warning lights, check switch, dashboard illumination switch.
 - 34. Steering wheel adjustment control.
 - 38. Emergency control locations – passengers door.
 - 53. Secondary engine starting controls – engine bay.

English translated contents:

Pages. 57	Break pedal.
58	Hydraulic brake reservoir.
61	Radiator warning light.
62	V belt tensions.
63	Vehicle air break tanks.
85	Oil filter.
86	Fuel filter, air cleaner.
87 – 89	Air cleaner.
90	Fuel line air bleed & adjustment pump, fuel strainer cleaning.
91	Main fuel tank drain, alternator V belt tension adjustment.
92	Main V belt tension adjustment. x
93	Vehicle radiator drain cock.
95	“ “ air bleed valve.
98	Intercooler.
100	Break drum linings & gaps.
102	Air dryer.
104	Clutch.
108	Tyre rotation.
113	Steering wheel free play.
119	Window washer reservoir tank.
120	Warning light globe wattages.
125-126	Main fuse box & fuse box layout. Fusible links.

整備手帳/保証書
日野ディーゼルス



保証書



保証について

純正品について



部品、油脂類などを購入する際は、「日野純正部品」をご指定ください。

「日野純正部品」は弊社がその品質を保証しておりますので安心してご使用戴けるものです。

なお「日野純正部品」には上記 *Hino* マークのラベルが貼付されているか、または *Hino* マーク入りの包装紙、化粧箱に入っております。

日野サービス網



別添の「日野自動車サービス網案内」には、全国の日野サービス工場の所在地が記載されています。

点検整備や一般整備は、最寄りの日野サービス工場をご利用ください。

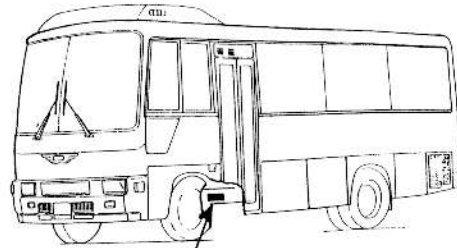
車台番号・エンジン番号

車台番号、エンジン番号は、お車の登録および車検時に必要です。

また、修理や部品注文などの際は、これらの番号を含めて販売店へご連絡戴ければスムーズな処理が行えます。

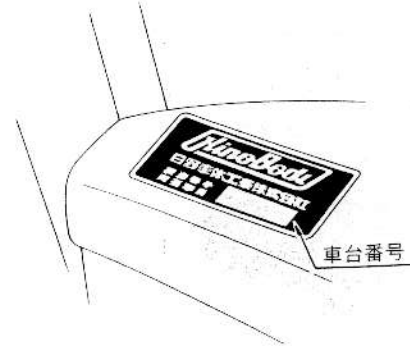
保証について

車台番号・エンジン番号

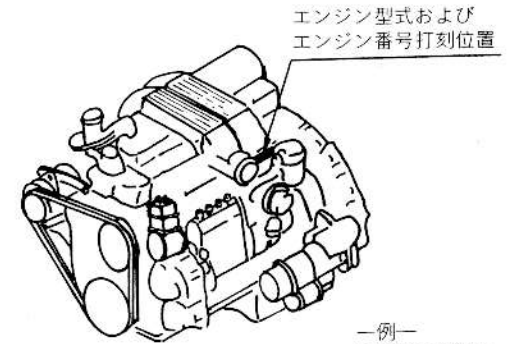


車両型式および車台番号打刻位置

—例— RH160A-40001



車台番号



エンジン型式および
エンジン番号打刻位置

—例—
W04C-TA10101

[車台番号]

車両左側フレームのフロント・ホイール付近に車両型式と車台番号が打刻してあります。

室内ダッシュボード左側にも車両型式と車台番号を打刻したプレートが取り付けられています。

[エンジン番号]

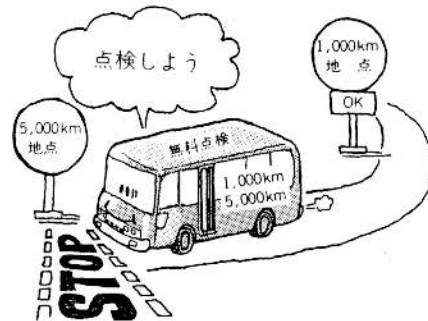
クーリング・ファン側より見て右側にエンジン型式とエンジン番号が打刻してあります。

車の点検について

お車の性能を十分に発揮させ、寿命をのばすためには、点検整備が必要です。

また、安全確保と公害防止を図るために、自動車を保有する者、およびその使用者は、「自動車点検基準」に定められている運行前点検および定期点検の実施が法律で義務付けられています。

新車点検



1,000km, 5,000km時には整備手帳持参のうえ、最寄りの日野サービス工場にお申し付けください。

定期点検整備記録票に基づき無料（油脂、部品代は有料）で点検，調整をいたします。

運行前点検

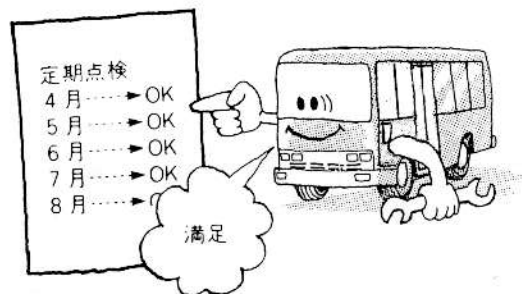


いつでも安全かつ快適な運行をしていただくうえで、1日1回運行開始前に運行前点検を行ってください。

なお、運行前点検は法律でその実施が義務付けられています。

※点検要領は55ページ参照

定期点検



定期点検整備は法律で定められた期間（事業用など1ヵ月ごと、3ヵ月ごと、12ヵ月ごと）の実施が義務付けられています。

別冊の整備手帳の点検整備方式にしたがって実施してください。

新車時の整備

1,000km, 5,000km時には整備手帳持参のうえ、最寄りの日野サービス工場にお申し付けください。

なお、車両の性能維持のためにも、上記新車整備時に、次のオイル交換をお奨めします。

[1,000km時]

- エンジン・オイル
- トランスミッション・ギヤ・オイル
- デファレンシャル・ギヤ・オイル

[5,000km時]

- パワー・ステアリング・オイル

※交換要領は129ページ参照

新車時の最高速度

1,000km位、走行するまでは速度をおさえ、(エンジン最高回転の75%)走行してください。

その後は、徐々に低速から高速までならし運転を行ってください。

新車時のエンジン最高回転使用範囲(rpm)

エンジン型式	回 転 数
WO4C-TI型	2,400~2,500

定期交換部品について

安全性をより高め、安全運転を確保して戴くために、弊社では特に次の部品については定期的に交換することを推奨しております。

これらの部品は長期間の使用中に劣化することがあり通常の定期点検では寿命の判断がむずかしいものです。指定の時期になりましたら定期交換をお奨めします。

交換にあたっては弊社販売店のフロント・マンとよくご相談のうえ交換してください。

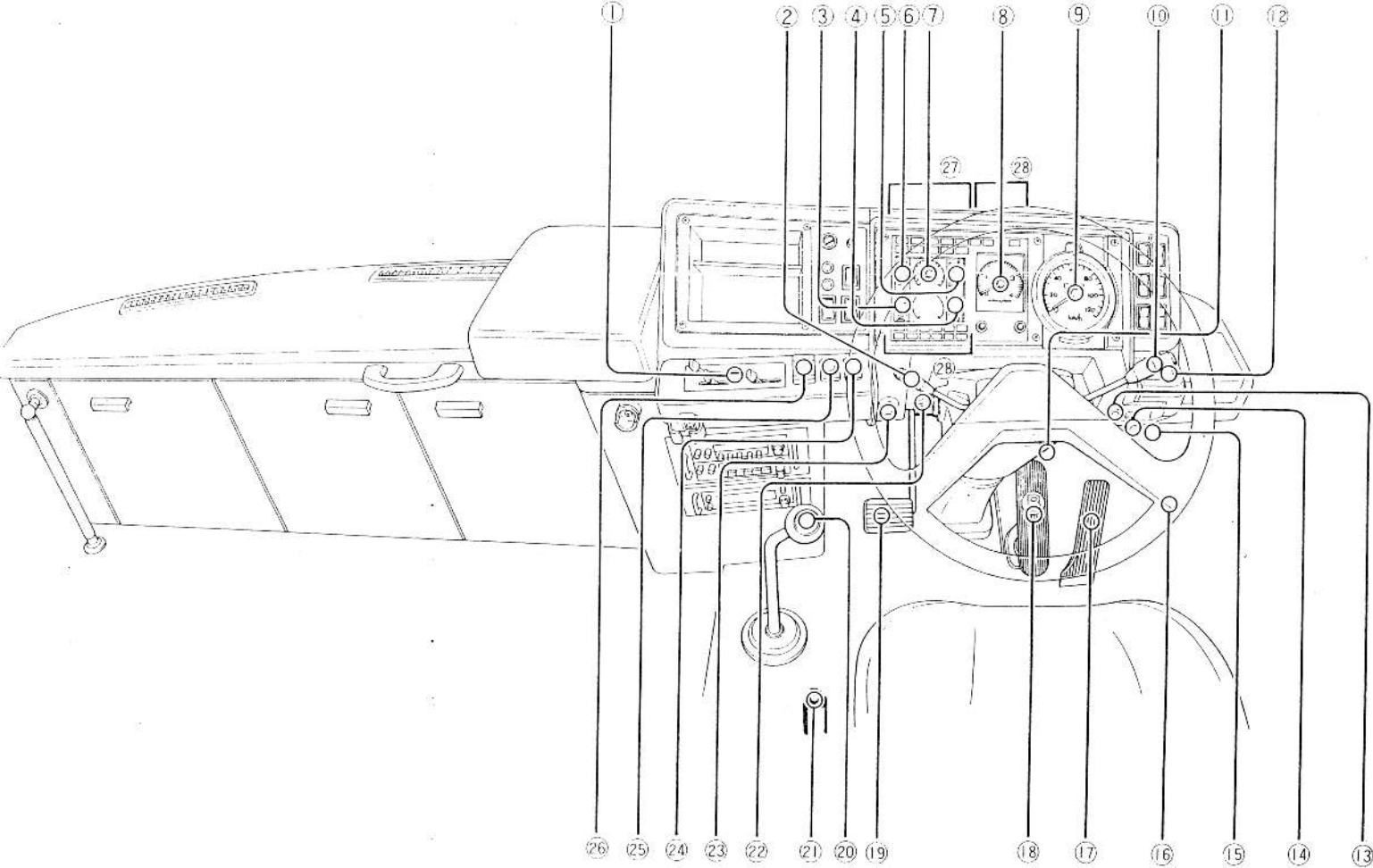
なお、この交換部品はお客様の責任と費用のご負担により実施して戴くもので保証修理とは別ですのでご了承ください。

	定期交換保安部品	交換期間	備 考
1	ホイール・シリンダのカップおよびダスト・シール	1 年ごと	
2	バルブ類のゴム部品(ブレーキ・バルブ)	1 年ごと	
3	ブレーキ・ホース	1 年ごと	
4	ブレーキ液	1 年ごと	
5	ブレーキ倍力装置のゴム部品など	1 年ごと	
6	パワー・ステアリング用ゴム・ホース	2 年ごと	
7	パワー・ステアリング用内部ゴム部品	2 年ごと	
8	冷却系ラバー・ホースおよびヒータ・ホース	2 年ごと	
9	燃料ホース	3 年ごと	
10	リザーバ・タンク・チューブ	4 年ごと	
11	ラジエータ電動ファン・モータ	5 年ごと	

運転装置の名称.....	10	● 電圧計	19
メータ, ウォーニング・ランプ類.....	12	● チャージ・ウォーニング・ランプ ...	19
● メータ, ウォーニング・ランプ		● ブレーキ液レベルおよびブレーキ・	
配置.....	12	アジャスト・ウォーニング・ランプ...	20
● 速度計 (スピード・メータ)	13	● ストップ・ランプ球切れ・	
● 速度計(タコグラフ, オプション仕様)	13	ウォーニング・ランプ.....	20
● エンジン回転計 (タコメータ)	14	インジケータ・ランプ類.....	21
● 空気圧(エア・プレッシャ・ゲージ) ...	14	● インジケータ・ランプ配置	21
● エア・プレッシャ・ウォーニング		● パーキング・ブレーキ・	
● ランプ.....	14	インジケータ・ランプ.....	22
● 水温計	15	● ターン・シグナル・	
● ウォータ・レベル・ウォーニング		インジケータ・ランプ.....	22
● ランプ.....	15	● ハイビーム・インジケータ・ランプ ...	22
● オーバ・ヒート・ウォーニング・		● エキゾースト・ブレーキ・	
ランプ.....	16	インジケータ・ランプ.....	23
● インタクーラ・オーバ・ヒート・		● プレ・ヒート (予熱)	
ウォーニング・ランプ.....	17	インジケータ・ランプ.....	23
● 燃料計	18	● エアコン・インジケータ・ランプ	
● 油圧計	18	[エアコン装着車]	24
● オイル・プレッシャ・ウォーニング		● ドア・タンク・インジケータ・ランプ	
● ランプ.....	18	[自動扉装着車]	24

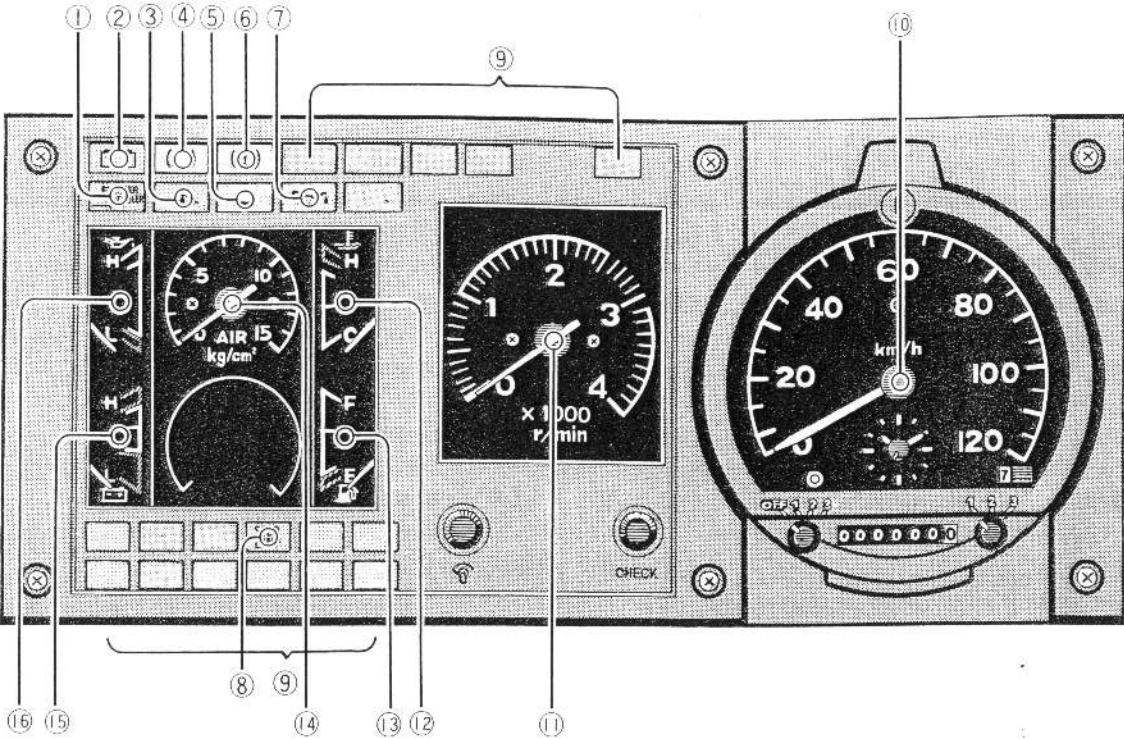
2. 運転に必要な装置

<ul style="list-style-type: none"> ● ステップ確認インジケータ・ランプ (オプション仕様) 24 	<ul style="list-style-type: none"> ● ステアリング・ホイール 34 	<ul style="list-style-type: none"> ● クーラ [クーラ装着車] 46 ● クーラの取り扱い 46
<ul style="list-style-type: none"> ● スイッチ類 25 	<ul style="list-style-type: none"> ● ペダル類 34 	<ul style="list-style-type: none"> ● 装備品の取り扱い 48
<ul style="list-style-type: none"> ● バッテリ・リレー・スイッチ 26 	<ul style="list-style-type: none"> ● チェンジ・レバー 35 	<ul style="list-style-type: none"> ● シガレット・ライター 48
<ul style="list-style-type: none"> ● スタータ・スイッチ 26 	<ul style="list-style-type: none"> ● パーキング・ブレーキ・レバー 35 	<ul style="list-style-type: none"> ● 灰皿 48
<ul style="list-style-type: none"> ● 暖機スイッチ 28 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前輪制動力切換装置 [ツー・ ウェイ・バルブ] (オプション仕様) 36 	<ul style="list-style-type: none"> ● ラジオ 49
<ul style="list-style-type: none"> ● スロットル・ボタン 28 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドア関係 37 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル時計 49
<ul style="list-style-type: none"> ● ハザード・スイッチ 29 	<ul style="list-style-type: none"> ● 手動式扉 [デラックス仕様車] 37 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンテナ 50
<ul style="list-style-type: none"> ● パーキング・ランプ・スイッチ 29 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動扉 [折戸式] 38 	<ul style="list-style-type: none"> ● サン・バイザ 50
<ul style="list-style-type: none"> ● コンビネーション・スイッチ 29 	<ul style="list-style-type: none"> ● シート関係 39 	<ul style="list-style-type: none"> ● インナ・リヤ・ビュー・ミラー 50
<ul style="list-style-type: none"> ● フォグ・ランプ・スイッチ 30 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドライバ・シート 39 	<ul style="list-style-type: none"> ● 収納 51
<ul style="list-style-type: none"> ● エキゾースト・ブレーキ・スイッチ 31 	<ul style="list-style-type: none"> ● ELR (緊急自動ロック式)付 シート・ベルト [運転席] 40 	<ul style="list-style-type: none"> ● 収納(運転席スイッチ・ボックス付車のみ) 51
<ul style="list-style-type: none"> ● ワイパおよびウォッシュ・スイッチ 31 	<ul style="list-style-type: none"> ● シート・ベルト [客席] 41 	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷蔵庫 (ロイヤル・サルーン車) 51
<ul style="list-style-type: none"> ● リヤ・ウインド・ワイパおよびウォッ シャ・スイッチ (オプション仕様) 32 	<ul style="list-style-type: none"> ● 換気および暖房 42 	<ul style="list-style-type: none"> ● バゲージ・ルーム 51
<ul style="list-style-type: none"> ● リヤ・ウインド・ディフォガ・スイッチ (オプション仕様) 32 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒータ・コントロール・パネル [運転席] 42 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボデー関係 52
<ul style="list-style-type: none"> ● 室内照明スイッチ 32 	<ul style="list-style-type: none"> ● リヤ・ヒータ [客席] 43 	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジン・ルーム点検扉 52
<ul style="list-style-type: none"> ● エア・ドライヤ・スイッチ 33 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予熱器付リヤ・ヒータ (寒冷地仕向地 以外オプション仕様) 44 	<ul style="list-style-type: none"> ● スタータ・サブ・スイッチ 53
<ul style="list-style-type: none"> ● ウォーニング・チェック・スイッチ 33 		<ul style="list-style-type: none"> ● スタータ・セフティ・スイッチ 54
<ul style="list-style-type: none"> ● メータ照明コントロール・ノブ 33 		<ul style="list-style-type: none"> ● バッテリ・スイッチ 54
		<ul style="list-style-type: none"> ● その他 54



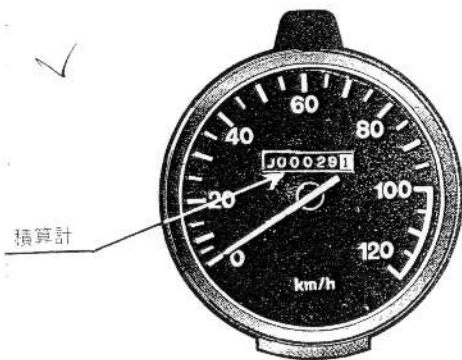
運転装置の名称

番号	名 称	記 載 ペー ジ	番号	名 称	記 載 ペー ジ
①	Heater control panel.	42	⑩	Spare options switch.	34
②	Exhaust brake switch.	31	⑪	Accelerator pedal.	34
③	Volt meter.	19	⑫	Brake pedal.	34
④	Fuel guage.	18	⑬	Clutch pedal.	34
⑤	Water temperature guage.	15	⑭	Gear stick.	35
⑥	Oil pressure guage.	18	⑮	Parking brake.	35
⑦	Air pressure guage.	14	⑯	Wiper / washer switch.	31
⑧	Tachometer.	14	⑰	Battery relay switch (Isolate).	26
⑨	Odometer.	13	⑱	Heating switch.	28
⑩	Combination switch panel.	29	⑲	Air dryer switch.	33
⑪	Starter switch.	26	⑳	Door opening / closing switch.	—
⑫	Fog lamp switch.	30	㉑	Indicator light.	12
⑬	Hazard warning light switch.	29	㉒	インジケータ・ランプ類	21
⑭	スロットル・ボタン	28			
⑮	Spare options switch. (オプション仕様)	36			



メータ、ウォーニング・ランプ類

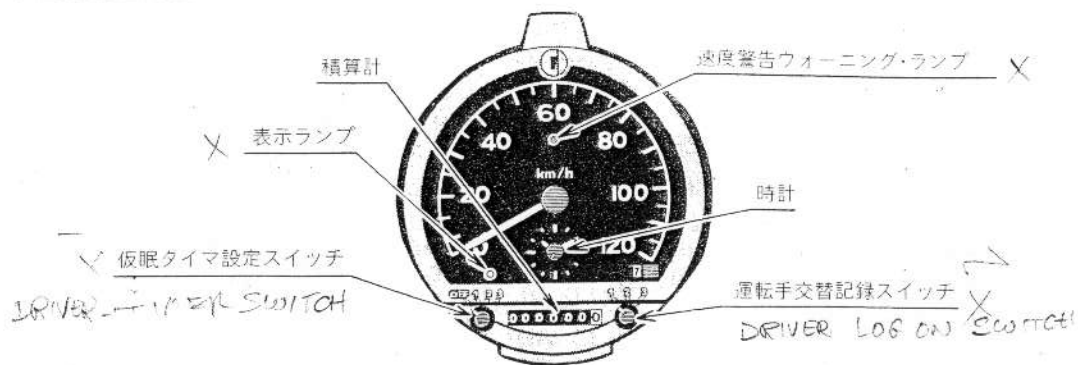
速度計 (スピード・メータ)



速度計は車速を「km/h」で表示し、中に組み込んである積算計は、累積走行距離をkmで表示します。

積算計の下1桁は、0.1kmの単位です。

速度計 (タコグラフ、オプション仕様)



速度計は車速を「km/h」で表示し、中に組み込んである積算計は、累積走行距離をkmで表示します。

積算計の下1桁は、0.1kmの単位です。

この速度計はタコグラフ (電気時計式運行記録計) 付で、車両管理が行えるようになっております。

〔仮眠タイマの取り扱い〕

仮眠タイマ・セット・ノブにより、設定時間を1, 2, 3時間のいずれかにセットすることができます。

タイマ作動中は表示ランプが点灯します。また、設定時間を経過するとブザーが鳴りだします。

- セット・ノブを「OFF」にするとブザーは鳴り止みますが表示ランプは約15分間点滅した後消灯します。これは休息直後の走行に際し、安全運転を警告するもので故障ではありません。

なお、タイマ・セット後、設定時間前に「OFF」した場合も表示ランプは約15分間点滅します。

〔速度ウォーニング・ランプ〕

設定速度を超えた時、ランプが点灯し、警告します。

設定速度は下記の範囲で任意に設定可能です。

120 km/h 用……50~100 km/h

タコグラフの詳細は、別添の「タコグラフ取扱説明書」をご覧ください。

エンジン回転計 (タコメータ)



MAXIMUM RPM 3200

エンジンの1分間の回転数を示します。

● **グリーン・ゾーン**

経済運転の目安です。

● **レッド・ゾーン**

危険回転域 (オーバ・ラン) ですので、このゾーンに入らないよう、注意して運転してください。

オーバ・ランとは

エンジンおよび動力伝達装置が最高回転数を超えて回転することをいい、このような状態にするとエンジン各部などに無理が生じてエンジンを破損させることになります。

Air tank pressure gauge.

Low Pressure.



エア・タンク内に充填されている空気圧を示します。

- 適正空気圧...6.5~7.5kg/cm²

When air pressure is Below 4.5kg a warning Buzzer will sound.

If parking brake is on the warning buzzer will not sound.

Low pressure warning lamp.

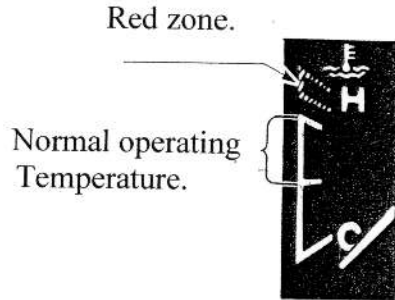


Important.

If low air pressure warning buzzer and warning light comes on you must pull over and wait until air pressure rises to normal.

If air pressure does not come back up quickly arrange for a service to be carried out as soon as possible.

Water temperature guage.



エンジンの冷却水温度を指示します。
適正温度域は上図に示す範囲です。

レッド・ゾーン(Hゾーン)はオーバ・ヒート状態を示します。

水温計がレッド・ゾーンを指示した場合は、直ちに安全な場所に停車してエンジン回転数をアイドリング時より若干高めにし、ファンの風量を増して、水温を下げてからエンジンを止め、冷却水量および冷却系統の水漏れの有無を点検してください。

水温が適量でかつ水漏れがない場合には点検が必要です。最寄りの日野サービス工場に連絡してください。

直ちにエンジンを止めると焼き付きの恐れがありますので注意してください。

Low coolant warning light.



リザーバ・タンクの冷却水量が不足すると点灯し、同時にブザーが鳴り異常があることを示します。

このランプが点灯した時は、冷却水をリザーバ・タンクより補給すると同時に冷却系統の水漏れの有無を点検してください。

給水口まで補給してもブザーが鳴り止まない時はレベル・スイッチなどの電気系統の点検が必要です。最寄りの日野サービス工場に連絡してください。

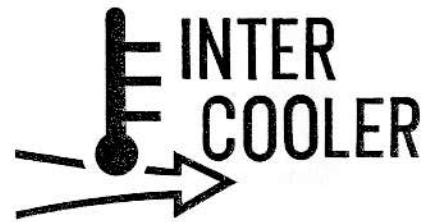
なお、パーキング・ブレーキ・レバーを引いた状態ではブザーは鳴りません。

You must stop the vehicle and check for water leaks 運転
ンジ
Do not turn engine off.

Top up reserve water tank after checking for water leaks on bus coolant system.

メータ, ウォーニング・ランプ類

Intercooler overheat warning light.



インタ・クーラ出口側の給気温度が異常に高くなるとランプが点灯し、同時にブザーが鳴り、異常があることを示します。

このランプが点灯した時は、速やかに安全な場所に停車させ、エンジンをアイドリング状態のまま、電動ファンが回転しているか、を点検してください。

If the intercooler light and warning buzzer comes on you must stop the vehicle, and turn off the engine.

Check that the main cooling fan is operating correctly.

してください。

- 電動ファンのヒューズが切れている場合は、ヒューズ (60Aヒューズ) を交換してください。また交換してもヒューズが切れてしまう場合には最寄りの日野サービス工場に連絡してください。
- 電動ファンのヒューズが切れていない場合には点検修理が必要です。

メータ, ウォーニング・ランプ類

Fuel gauge.



Reserve

燃料タンク内の燃料の量を示します。

- F満量
- レッド・ゾーン (E) ...空量

指針がレッド・ゾーン(E)に近づいたら早めに燃料(軽油)を補給してください。

軽油以外の燃料は絶対に使用しないでください。エンジン・トラブルの原因となります。

Oil pressure gauge.



レッド・ゾーン

エンジン・オイルの圧力を指示します。

- レッド・ゾーン (L)異常

指針がレッド・ゾーン(L)を示した場合、ウォーニング・ブザーが鳴り、またウォーニング・ランプが点灯して潤滑系統に異常があることを示します。

Low oil pressure warning light.



When low oil pressure light comes on a warning buzzer will also sound.

このランプが点灯し、同時にブザーが鳴ることを示します。

このランプが点灯しブザーが鳴った場合は停車させ、エンジンを止め、エンジン・オイル量およびエンジン・オイル漏れの有無を点検してください。

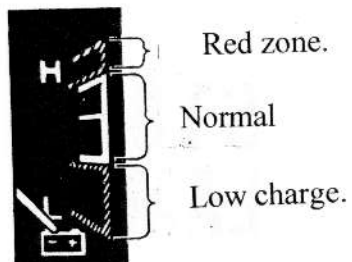
なお、パーキング・ブレーキ・レバーを引いた状態ではブザーが鳴りやみません。

油漏れがある場合や、その他異常が認められた場合には点検修理が必要です。最寄りの日野サービス工場に連絡してください。

このランプが点灯した時は走行しないでください。エンジン焼き付きの原因となります。

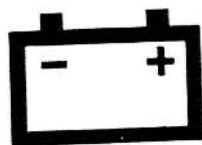
メータ, ウォーニング・ランプ類

電圧計



If battery charge meter is in the red zone, or low charge zone stop the vehicle and check for cause. If unable to locate the cause, have vehicle electrical system checked by an auto electrician.

Battery charging warning light.



If this light comes on you must stop the vehicle and check the tension of the engine V belt adjust to correct tension if required.

寄りの日野サービス工場に連絡してください。

このランプが点灯した時は走行しないでください
バッテリー上がりの原因となります。

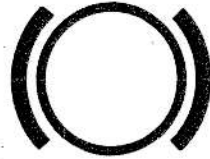
ブ

Brake warning light.

f・ランプ

ストップ・ランプ球切れ・
ウォーニング・ランプ

X



ブレーキ液リサ
少し、蒸
レーキ・
した時に
あること
ランプ
ちに安全
漏れの有
ングのす
なお、
グ・ラン
を踏んだ
また、
いた状態

If this light comes on along with a warning buzzer, you must immediately stop the vehicle and check the level of the brake hydraulic fluid in the reserve reservoir.

This lamp also indicates that you will also need to check the vehicle brake pads for wear.

ニングのす
修理・調整
ズ工場に

している
つき間が
行は危険
ださい
走行し
こめ危険

**STOP
LAMP**

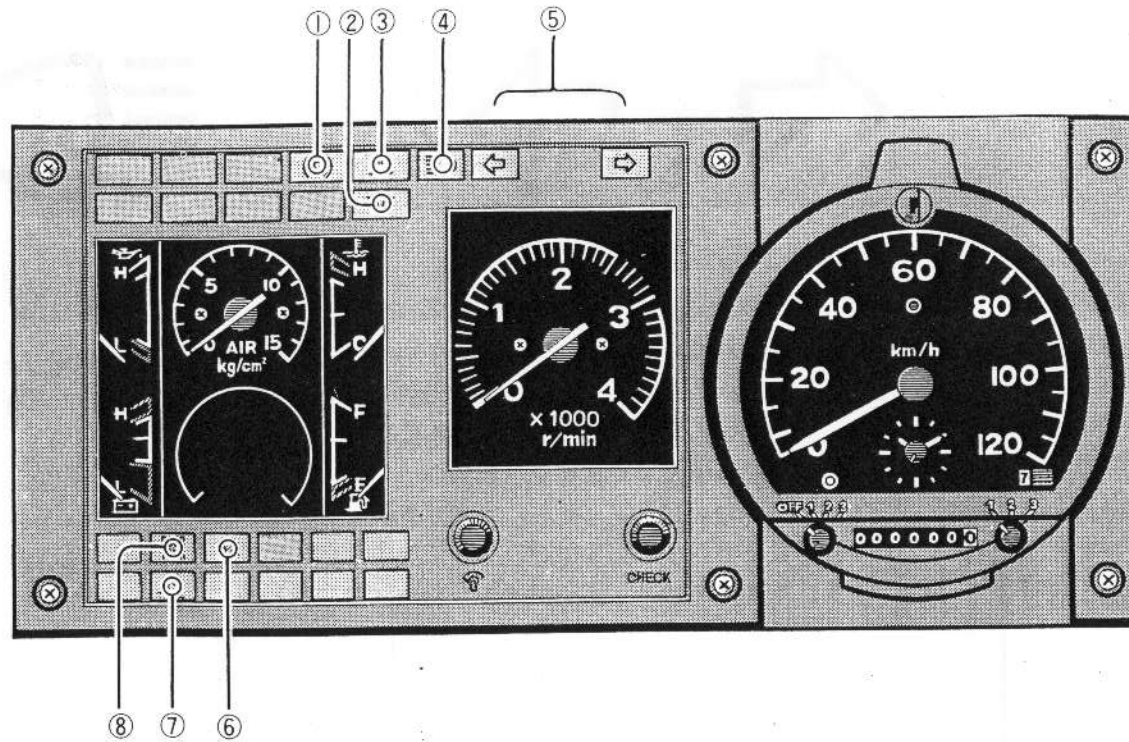
This light indicates that you have a faulty rear stop light globe.

ランプが点灯した時は、不灯のストップ・ランプを確かめ、断線の有無、電球の交換などの修理を行ってください。

ランプが点灯した状態での走行はしないでください。ストップ・ランプが点灯していないため後続車に追突される恐れがあります。

インジケータ・ランプ類

インジケータ・ランプ配置



番号	名称	記載ページ	番号	名称	記載ページ	番号	名称	記載ページ
①	Park break light.	22	④	High beam light.	22	⑦	Faulty indicator light.	24
②	Pre-heat light.	23	⑤	Turn indicators.	22	⑧	Door air tank light. [車]	24
③	Exhaust break light.	23	⑥	Air conditioning.	24	⑨		

インジケータ・ランプ類

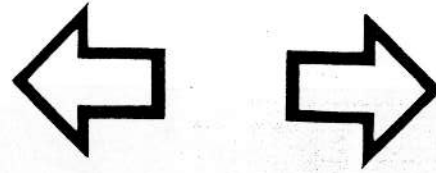
パーキング・ブレーキ・インジケータ・ランプ



パーキング・ブレーキ・レバーを引いた状態でスタータ・スイッチを「ON」にすると点灯し、パーキング・ブレーキが引かれていることを示します。

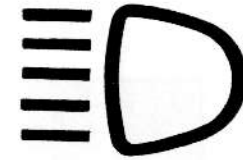
- インジケータ・ランプの点灯とパーキング・ブレーキの効きとは関係ありません。
- パーキング・ブレーキ・レバーを引いたまま走行しないようにしてください。

ターン・シグナル・インジケータ・ランプ



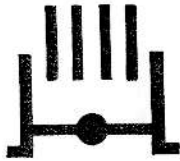
ウインカ・レバーを左右に作動させた時、およびハザード・スイッチを「ON」にした時にターン・シグナル・ランプと連動し点滅します。

Hi beam on indicator light. 7



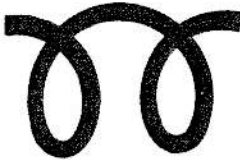
ヘッド・ランプの上向きおよびパッシング（追越し合図）時に点灯します。

インジケータ・ランプ類

Exhaust break on indicator light. 

エキゾースト・ブレーキ・レバーを「ON」にすると、ランプが点灯してエキゾースト・ブレーキ・スイッチが「ON」していることを示します。

なお、この時クラッチ・ペダルまたはアクセル・ペダルを踏み込むとエキゾースト・ブレーキが作動しなくなります。

Engine pre-heat on light. 

エンジン始動補助装置用のグロー・プラグの作動状態を示します。

スタータ・スイッチを「H」の位置にし、約2秒間保持しますとランプが点灯し、予熱が始まります。（ランプ点灯後は手を離しても予熱は続けられます。）その後5秒経過すると消灯して予熱が完了したことを示します。

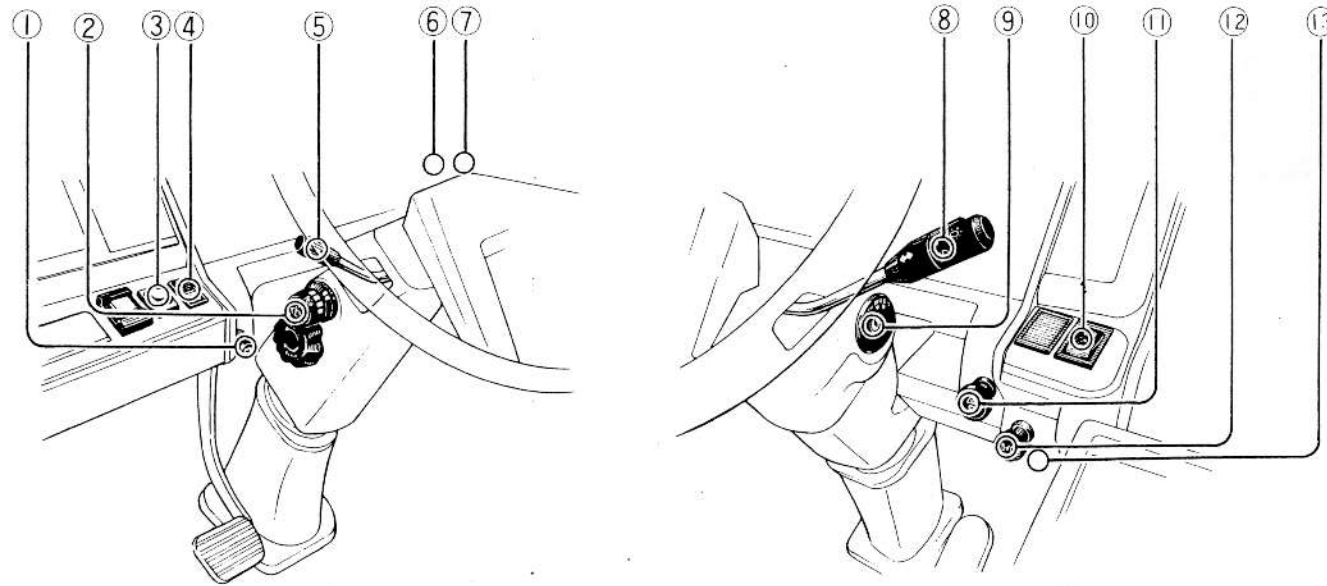
外気温が低い場合に使用してください。





扉開放中，乗客が乗降すると点灯します。

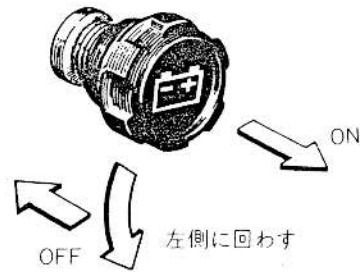
スイッチ類



番号	名称	記載ページ	番号	名称	記載ページ	番号	名称	記載ページ	番号	名称	記載ページ
①	Battery relay switch.	26	⑤	Exhaust break.	31	⑨	Ignition switch.	26	⑬	〔前輪制動力切換装置 ツー・ウェイ・バルブ (オプション仕様)〕	36
②	Wiper / washer control.		⑥	Dashboard light.	33	⑩	Fog lamp switch.	30			
③	Air dryer switch.	33	⑦	Warning check light.	33	⑪	Hazard switch.	29			
④	Heating switch.	28	⑧	Headlight switch.	29	⑫	Engine hand throttle.	28			

スイッチ類

Battery relay switch.

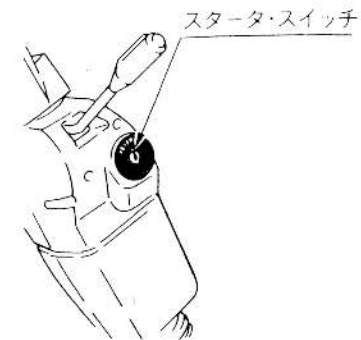


Note:

If vehicle is parked for extended Periods of time, turn switch off.

- エンジン回転中は、絶対にスイッチを「OFF」にしないでください。「OFF」にすると各電気装置が作動せず危険です。
- 長時間にわたり駐車する際は、必ずスイッチを「OFF」にしてください。「ON」の状態にしておくとバッテリーが放電してエンジン始動不能となることがありますので十分注意してください。

スタータ・スイッチ



スタータ・スイッチは、次の5段階に作動します。

〔「OFF」の位置〕

キーは、この位置以外では抜き差しできません。

- エンジンを停止した場合は必ず「OFF」にしてください。長時間「ON」の位置にしておきますとバッテリーが放電してエンジン始動不能となることがありますので、十分注意してください。

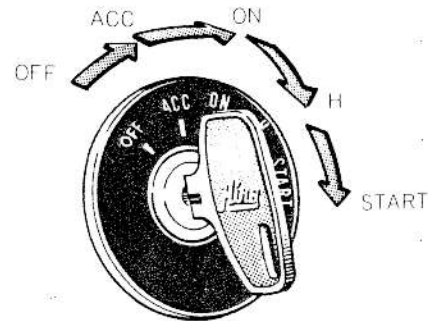
〔「ACC」の位置〕

エンジン停止時でもこの位置でラジオおよびシガレット・ライターが使用できます。

なお、「ACC」の位置にすることによりエンジンを停止させることができます。

スイッチ類

スタータ・スイッチ



〔「ON」の位置〕

エンジンの予熱と始動およびライト関係の回路を除く全ての電気回路が接続されメータ類が作動します。

走行中は、必ず「ON」の位置にしておいてください。

〔「OFF」の状態では、運転するのに必要なウォーニングおよびインジケータ・ランプ類をはじめ計器、ホーンその他全ての電気回路が切れ、作動せず危険です。また、オルタネータ（発電機）が発電せざればバッテリー上がりの原因にもなります。

〔「START」の位置〕

この位置でスタータ・モータが回転し、エンジンが始動できます。

また、キーから手を離せば、キーは自動的に「ON」の位置に戻ります。

エンジン始動後は絶対に「START」の位置に回さないでください。

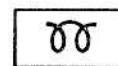
Note:

In cold conditions allow engine Pre-heat to activate by delaying engine start up briefly.

熱状態は保たれ、約5秒経過すると予熱が完了となりエンジン始動ができます。

また、その作動状態をインジケータ・ランプにより次のように表示します。

- インジケータ・ランプ

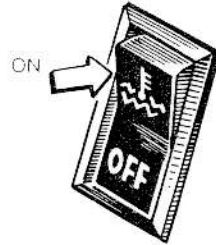


予熱中 : 点灯

予熱完了 : 消灯

スイッチ類

Heating switch.



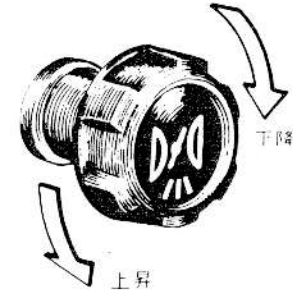
スイッチを押すと「ON」となり、同時にスイッチ部のインジケータ・ランプが点灯し、暖機システムが作動します。

なお、アクセル、クラッチ・ペダルを踏み込んでいたり、チェンジ・レバーがニュートラル位置以外にあるときは作動しません。

暖機スイッチは、厳寒時におけるエンジン始動直後の暖機運転時、ヒータ（暖房）およびデフロスタの効果を早めたい場合や、長時間アイドリング状態などで車両を止めている時に、ヒータ（暖房）の効果を高める場合にのみ使用します。

- 走行中は必ず当スイッチを「OFF」にしておいてください。
- 車庫内など風通しが悪いところでの使用は避けてください。

Engine idle speed control.



エンジンのアイドリング回転数をセットするボタンです。

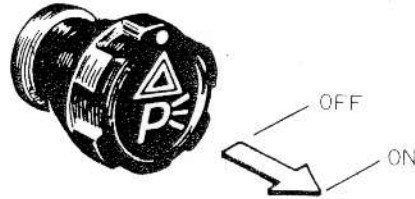
左に回すほどエンジン回転数が高くなります。

To increase engine idle speed turn knob clockwise. To decrease turn anti-clockwise.

SET AT 600-650 RPM.

スイッチ類

Parking hazard switch.



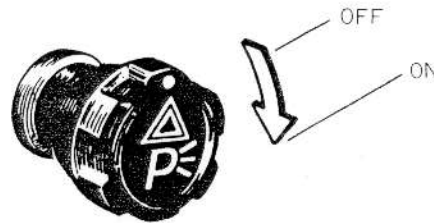
スイッチを引くとスタータ・スイッチの位置に関係なくターン・シグナル・ランプおよびターン・シグナル・インジケータ・ランプが同時に点滅します。

路上における緊急停車時以外は使用しないでください。

• インジケータ・ランプ



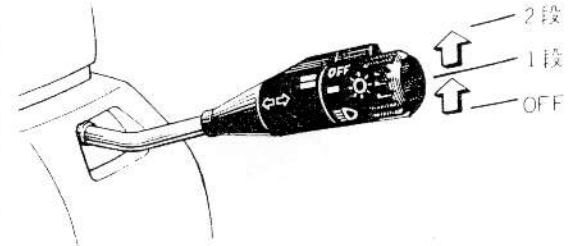
Parking lamp switch.



スイッチを引かずに右に回すと、パーキング・ランプが点灯します。
夜間、駐車時に使用してください。

長時間点灯したままにしておきますとバッテリー上がりの原因となりますので注意してください。

コンビネーション・スイッチ



〔ライティング・スイッチ〕

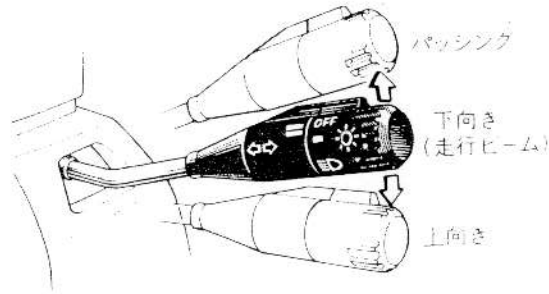
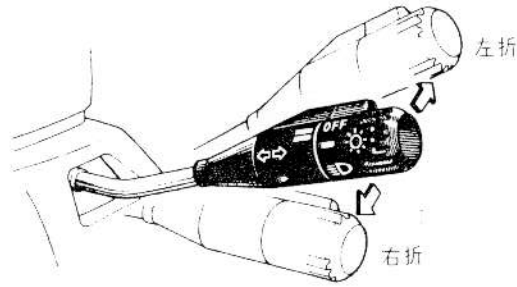
このスイッチを回すと次の各ランプが点灯します。

点灯ランプ	インストルメント・パネル, ナンバ・プレート, 車幅灯お よびテール・ランプ	ヘッド・ ランプ
右に1段回す	○	×
右に2段回す	○	○

(○印：点灯、×点灯なし)

スイッチ類

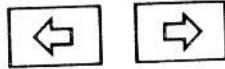
コンビネーション・スイッチ



[ターン・シグナル]

このレバーを前側に押すと左側、手前に引くと右側のターン・シグナル・ランプが点滅します。

● インジケータ・ランプ



[ハイ・ビーム、パッシング]

● ハイ・ビーム

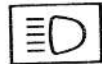
ヘッド・ランプを点灯させた状態で、このレバーを下げるとヘッド・ランプが上向きに、またレバーを上げるとヘッド・ランプが下向き（すれちがいビーム）になります。

● パッシング

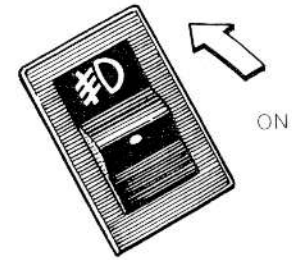
ヘッド・ランプの電源スイッチが「OFF」の時、レバーを上げるとその間だけ、パッシング、ランプ（ヘッド・ランプが上向き）が点灯します。

追越しなどを他車に知らせる時に使用してください。

● インジケータ・ランプ



Fog lamp switch. F

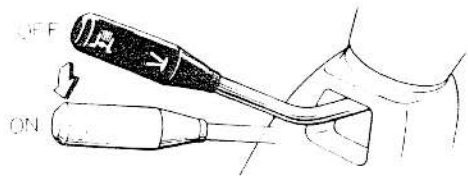


To operate fog lamp switch.

Turn main lighting switch to first position (parking lights) then switch on fog lamp switch.

スイッチ類

Exhaust break lever.



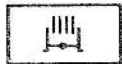
手前に引くとエキゾースト・ブレーキがかけられ、同時にインジケータ・ランプが点灯します。

なお、アクセルまたはクラッチ・ペダルを踏むとエキゾースト・ブレーキが一時的に解除されます。

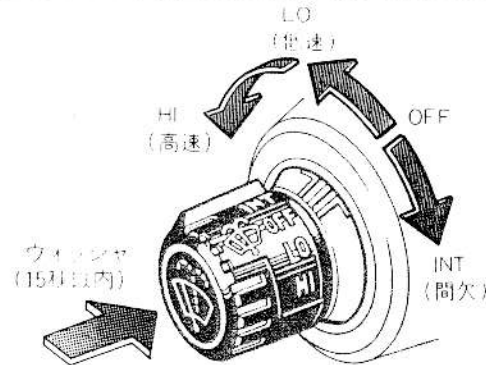
また、両方のペダルを離すと再びエキゾースト・ブレーキが作動します。

エキゾースト・ブレーキはエンジン・ブレーキの効果をさらに高めるものです。降坂や高速走行時などの補助ブレーキとしてご使用ください。

- インジケータ・ランプ



Windscreen wiper control switch.



[ワイパ・スイッチ]

スイッチを回すと、ワイパが作動します。

INT……間欠作動します。

LO……ゆっくりした速度で作動します。

HI……早い速度で作動します。

[ウォッシャ・スイッチ]

スイッチを押すとフロント・ガラスにウォッシャ液が噴射されます。なお、1回の使用時間は15秒以内にしてください。

Windscreen washer.

When operating do not run continuously for more than 30 seconds.

スイッチ類

ウインドシールドワイパースイッチ (様)



スイッチを押すと「ON」となりリヤ・ウインドに取り付けてあるリヤ・ワイパが作動します。

また、このスイッチはウォッシャ・スイッチを兼ねており、「ON」または「OFF」の位置からさらにスイッチを押すことにより、リヤ・ウインドにウォッシャ液が噴射されます。

- ワイパのからぶきは、ガラスやワイパ・ブレードを傷付けますので、必ずウォッシャ液を噴射させてからワイパ・スイッチを動かしてください。
- 洗浄液がない時にはウォッシャ・スイッチを作動させないでください。ウォッシャ・モータ焼き付きの原因となります。

リアウインドヒューズスイッチ



スイッチを押すとリヤ・ウインド・ガラスが熱せられて曇りを取り除きます。

なお、スイッチを「ON」にした時、スイッチ部のインジケータ・ランプが点灯（橙色）し、ディフォガが作動していることを示します。

消費電力が大きいため曇りが取れたらスイッチを切り長時間の使用は避けてください。

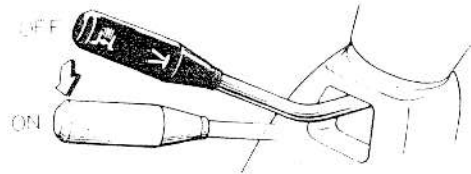
バス内照明スイッチ



スイッチ上部を押すと「ON」となり、室内照明灯が点灯します。

スイッチ類

Exhaust break lever.



手前に引くとエキゾースト・ブレーキがかけられ、同時にインジケータ・ランプが点灯します。

なお、アクセルまたはクラッチ・ペダルを踏むとエキゾースト・ブレーキが一時的に解除されます。

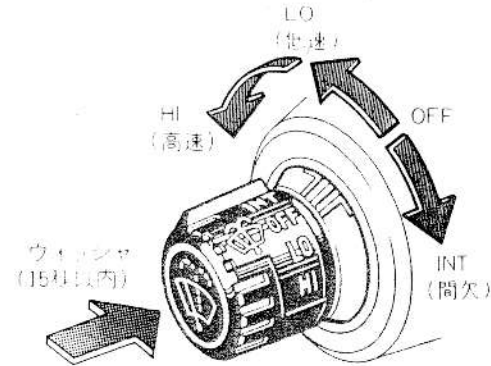
また、両方のペダルを離すと再びエキゾースト・ブレーキが作動します。

エキゾースト・ブレーキはエンジン・ブレーキの効果をさらに高めるものです。降坂や高速走行時などの補助ブレーキとしてご使用ください。

- インジケータ・ランプ



Windscreen wiper control switch.



〔ワイパ・スイッチ〕

スイッチを回すと、ワイパが作動します。

INT……間欠作動します。

LO……ゆっくりした速度で作動します。

HI……早い速度で作動します。

〔ウォッシャ・スイッチ〕

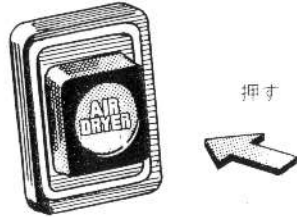
スイッチを押すとフロント・ガラスにウォッシャ液が噴射されます。なお、1回の使用時間は15秒以内にしてください。

Windscreen washer.

When operating do not run continuously for more than 30 seconds.

スイッチ類

Air dryer switch.



Note:

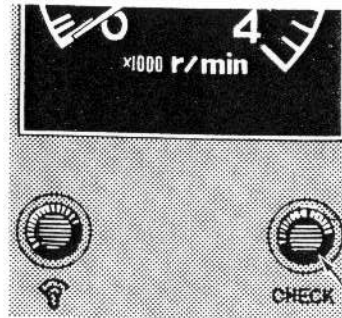
Air dryer only to be used in extreme cold conditions.

If used you must wait 10minutes before starting engine.

ツジゲータ・ランプも消灯します。

- 寒冷時以外、または走行しない時は、必ずスイッチを「OFF」にしてください。
- 寒冷時運行の際は、このスイッチを「ON」にした後、10分以上待ってから発進してください。

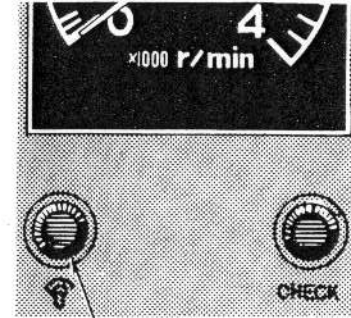
Warning lights check switch.



ウォーニング・ランプ・チェック・スイッチ

Push on to illuminate all warning lights. If a warning light fails to illuminate, replace bulb.

Dashboard illumination switch.



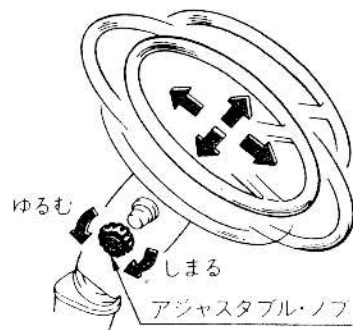
メータ照明コントロール・フ

右に回
お好みに
てください
Turn to lighten or dim
dashboard illumination.

す。
布し

操縦装置の操作方法

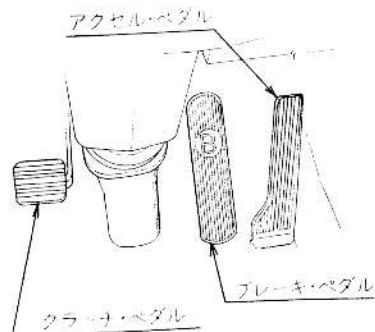
ステアリング・ホイール



アジャスタブル・ノブをゆるめるとステアリング・ホイールの高さや角度の調整ができます。運転しやすい位置に調整してください。

- 調整後は、アジャスタブル・ノブを十分に締め付けてください。締め付けが不十分だとステアリング・ホイールにガタが中じ、ステアリング・ホイール操作に支障をきたす恐れがあり大変危険です。
- 調整は、必ず停車時に行い走行中は絶対に行わないでください。

ペダル類



[アクセル・ペダル]

ペダルの踏み加減によって加速または減速を行います。

エンジンの空ぶかしは経済運転のためにもおやめください。

[ブレーキ・ペダル]

ブレーキ・ペダルを踏み込むと踏み代に応じてサービス・ブレーキが作動します。

ブレーキ・ペダルの下にはマットや砂利などがかみ込まないように注意してください。
ブレーキ引きずりの原因にもなります。

[クラッチ・ペダル]

クラッチ・ペダルを踏み込むと、エンジンからの動力が切り離せます。

クラッチ・ペダルには変速時以外は足をのせないでください。

スイッチ類

Air dryer switch.



Note:

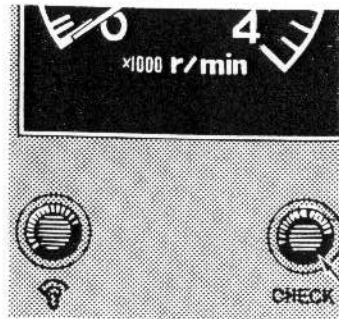
Air dryer only to be used in extreme cold conditions.

If used you must wait 10minutes before starting engine.

エンジン・ランプも消灯します。

- 寒冷時以外、または走行しない時は、必ずスイッチを「OFF」にしてください。
- 寒冷時運行の際は、このスイッチを「ON」にした後、10分以上待ってから発進してください。

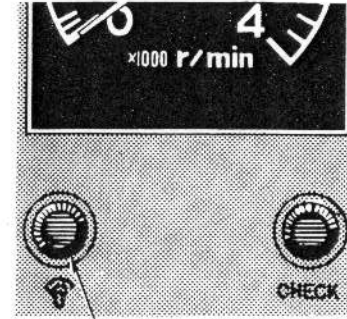
Warning lights check switch.



ウォーニング・ランプ・チェック・スイッチ

Push on to illuminate all warning lights. If a warning light fails to illuminate, replace bulb.

Dashboard illumination switch.

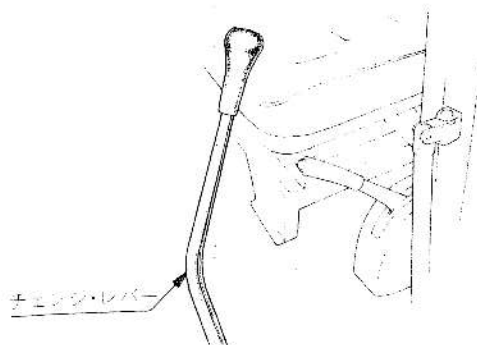


メータ照明コントロール・ノブ

Turn to lighten or dim dashboard illumination.

操縦装置の操作方法

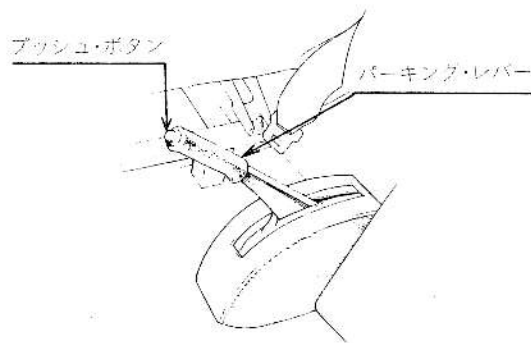
チェンジ・レバー



チェンジ・レバーのノブ上面に、各ギヤ位置を示すプレートが取り付けられています。走行条件に適した位置を選択してください。なお、変速する時は、クラッチ・ペダルをいっばいに踏み込んでから行ってください。後退(R)にシフトするとバック・ランプが点灯し、バック・ブザーが鳴ります。

前進から後進、後進から前進に変速する時は、車が完全に止まってから行ってください。

パーキング・ブレーキ・レバー

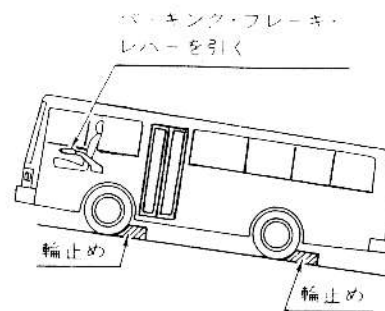
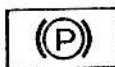


パーキング・ブレーキ・レバーを引き上げるとパーキング・ブレーキが作動し、同時にインジケータ・ランプが点灯します。

インジケータ・ランプの点灯と、パーキング・ブレーキの効きとは関係ありません。

パーキング・ブレーキを解除するには、レバー先端に付いているプッシュ・ボタンを押しながら元の位置に戻してください。

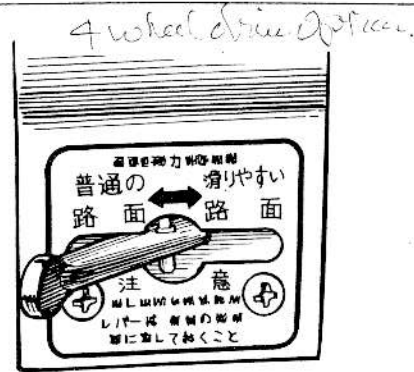
- インジケータ・ランプ



- 急急時以外に走行中の使用を避けてください。
- 駐車時以降、このレバーを一杯に引いて車両の停止状態を保持することを確認してください。
- 急急時以降の時は、各クイックに輪止めを締めてください。

操縦装置の操作方法

前輪制動力切換装置〔ツー・ウェイ・バルブ〕
(オプション仕様)



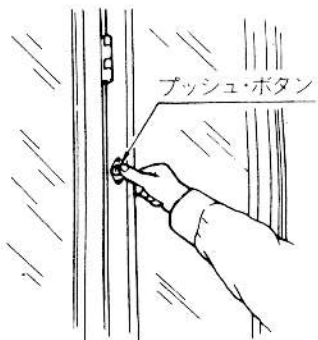
雨天時や積雪、凍結などの滑りやすい路面を走行する場合に前輪のタイヤ・ロックを軽減する装置です。

上記のような路面を走行する場合には、表示に従ってレバーを「滑りやすい路面」側に倒しますと、前輪のタイヤ・ロックが軽減されます。

「滑りやすい路面」側へのレバーの切り換え操作は上記のような滑りやすい路面を走行する前に行い、通過後は必ず「普通路面」側にレバーを戻しておいてください。普通路面走行時に、レバーを常時「滑りやすい路面」側へ倒したまま使用すると、リヤ・ブレーキへの負荷が過大となり、ライニング早期摩耗等を招くことがあります。

ドア関係

手動式扉〔デラックス仕様車〕



〔車外からの開閉〕

扉中央のプッシュ・ボタンを押し、内側に押すと開きます。

閉める時は、中央に設けてあるハンドルを外側に引くと閉まります。

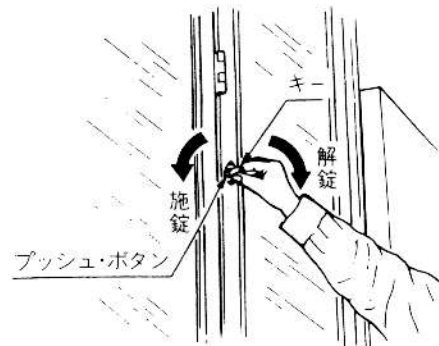


〔車内からの開閉〕

ロック・レバー引きハンドルを内側に引くと開きます。

閉める時は、ハンドルを外側に押すと閉まります。

- 閉じる装置を行った場合は、扉が完全にロックされたことを確認してください。



〔施錠〕

扉中央のプッシュ・ボタンに扉用キーを差し込み、左側に回せばロック、右側に回せば解錠します。

〔みなと式扉の施錠〕

室内のロック上部のストッパを外した後扉中央のプッシュ・ボタンにキーを差し込み、左側に廻せば施錠、右側に廻せば解錠します。

ドア関係

自動扉（折戸式）



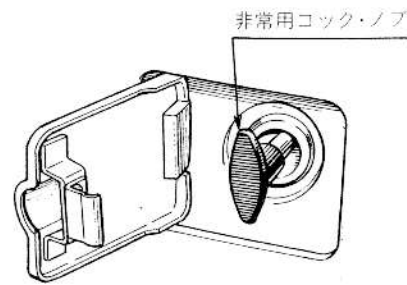
〔扉の開閉〕

「扉開閉スイッチ」を操作することにより開閉します。押すとスイッチ部のインジケータ・ランプが点灯し扉が開き、再度押すと扉が閉まりインジケータ・ランプも消灯します。

ドア開閉時は危険ですのでステップ上に人がいないことを確認してから操作してください。

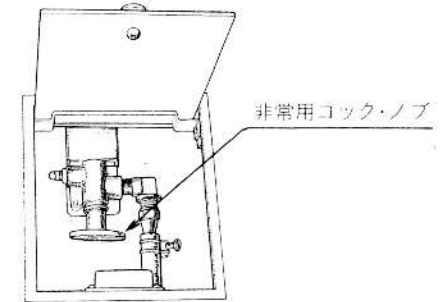
〔アクセル・インタ・ロック装着車の扉開閉時の注意〕

- 扉が開いている時は、アクセル・ペダル操作は行わないでください。
- アクセル・ペダルを操作したままの状態では扉の開閉を行わないでください。
- エンジン始動は扉を閉じた状態で行ってください。



External emergency door opening handle.

- 車外からの操作
非常コック・ノブを引くと扉は閉じ、押すと扉は手で開けることができます。
- 車内からの操作
非常コック・ノブを押すと扉は閉じ、引くと扉は手で開けることができます。



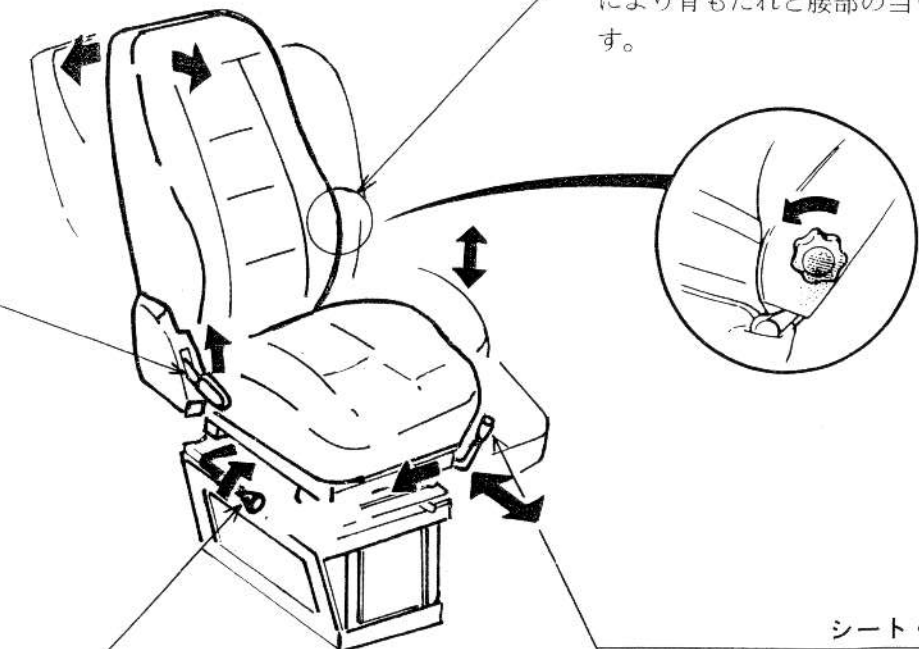
〔車内〕

Internal emergency door opening handle.

します。

車内から降りる時は、扉開の状態（インジケータ・ランプ点灯）で、バッテリー・リレー・スイッチを切って、その後非常コックを操作してください。乗車時に扉開閉スイッチが閉の状態（インジケータ・ランプ消灯）のまま非常コックを作動させると急に扉が閉まり危険ですから注意してください。

ランバ・サポートの調整（オプション仕様）
ランバ・サポート・ハンドルを左に回すこと
により背もたれと腰部の当りが調整できま
す。



背あて角度の調整

レバーを引き上げ、背あてを前後させるこ
とにより調整できます。

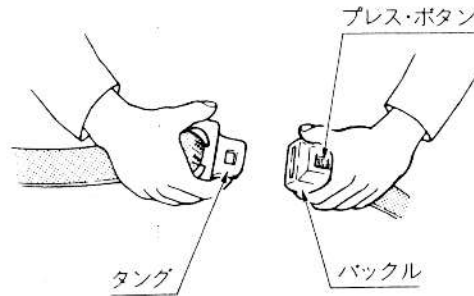
シートの高さ調整

シート・スライドの調整
レバーを右側に寄せ、シートを前後にスラ
イドさせることにより調整できます。

調整後、レバーから手を離し、シートを少

シート関係

ELR（緊急自動ロック式）付・シート・ベルト〔運転席〕



このシート・ベルトは運転中に身体が圧迫されないようにベルトの巻き込み力を低減させるテンション・レデューサ機構付きELRが装備されています。

- 確実に挿入しないとシート・ベルトとしての役割を果たしません。
- ベルトがねじれていると安全性が低下します。
- 1組のシート・ベルトを2人で着用しないでください。
- 万一のときは安全装置が働き、ベルトが固定されます。

〔装着および取り外し〕

- ① タングを持って引き出し、ベルトにねじれないことを確認してから、タングをバックルに“カチッ!”と音がするまで確実に挿入してください。
- ② 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。ベルトの長さは乗員の身体、シート位置に応じて自動的に調整されます。
- ③ 外す時は、バックル中央のプレス・ボタンを押せば外れ、ベルトは自動的にリトラクタに巻き込まれます。

- バックル内にコインやクリップなど異物を挿入しないでください。
- 正しく装着しないと効果が半減したり危険な場合があります。
- ベルトにほつれやすり切れがあったり、バックルが正常に作動しない場合は、ベルトを交換してください。
- 万一事故を起こした後は、必ずベルトを交換してください。
- ベルトの汚れは中性洗剤を用いて洗い落としてください。ガソリン、シンナーなどの揮発剤はベルト地を著しく弱める原因となりますので絶対に使用しないでください。
- ベルトの構成部品は分解あるいは改造しないでください。

- 走行中のシート・ベルトの装着、調整は危険です。絶対に行わないでください。
- 走行中は必ずベルトを装着してください。
- 腰部のベルトは必ず腰部の位置に装着してください。腹部では万一の時、強い圧迫を受け危険です。

シート関係

シート・ベルト [客席]



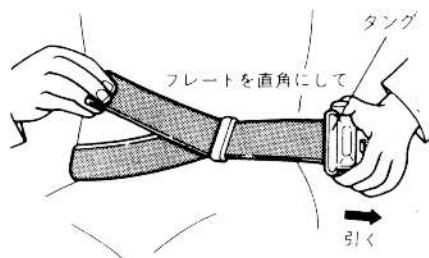
[装着および取り外し]

タングをバックルに“カチッ!”と音がするまで確実に押し込みます。

- 確実に挿入しないとシート・ベルトとしての役割を果しません。
- ベルトがねじれていると安全性が低下します。

取り外す場合は、バックル中央のプレスボタンを押してください。

走行中のシート・ベルトの装着、調整は危険です。絶対に行わないでください。

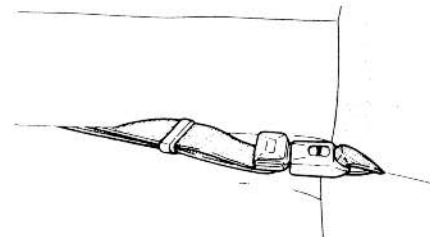


[長さの調整]

タングをベルトに直角にし、ベルトを引いて調整します。

ベルトは、体にピッタリとなるように調整してください。
正しく装着しないと効果が半減したり危険な場合があります。

- 走行中は必ずベルトを装着してください。
- 腰部のベルトは必ず腰部の位置に装着してください。腹部では万一の時、強い圧迫を受け危険です。



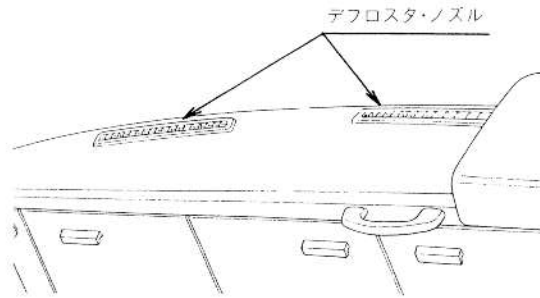
[収 納]

取り外したタングはバックルにはめておいてください。

- ベルトにほつれやすり切れがあったり、バックルが正常に作動しない場合は、ベルトを交換してください。
- 万一事故を起こした後は、必ずベルトを交換してください。
- ベルトの汚れは中性洗剤を用いて洗い落としてください。
ガソリン、シンナーなどの揮発剤はベルト地を著しく弱める原因となりますので絶対に使用しないでください。

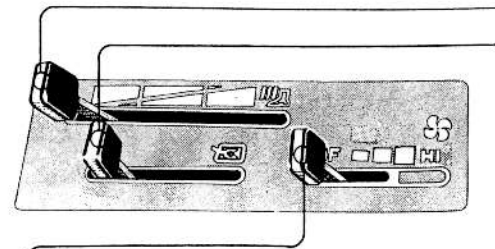
換気および暖房

ヒータ・コントロール・パネル [運転席]



ヒータはデフロスタ兼用のヒータで、ヒータ・コントロール・パネルのレバー操作により行います。

なお、このヒータは、エンジンの冷却水で空気を暖める方式ですので、冷却水温度が上がらないと温風が出ません。



ファン・スイッチ	
HI	: 強い風
■	: 中程度の強い風
■	: 中程度の風
・	: 弱い風
OFF	: 断

レバーを右にスライドすると電動ファンが作動して各吹出口から温風または風が出ます

エンジン停止やアイドリング状態で長時間にわたりファンを作動させるとバッテリー上がりの原因になりますので避けてください。

吹き出し口切り換えレバー

- ☰: フロント・ガラスへ送風
- ☞: 足もとへ送風
- ☒: 中間の送風

走行中にフロント・ガラスが曇り易い場合には、吹き出し口切り換えレバーを☰側にセットしてください。



内外切換レバー

- ☒: 内気循環
- ☞: 内外気導入

換気は、ヒータ・コントロール・パネルの内外気切り換えレバーを☞の位置にします。また、停車時には、電動ファン(ファン・スイッチ)で行います。

× 換気および暖房

ヒータ・コントロール・パネル

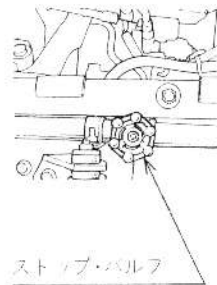
- 内外気切り換えレバーを  の位置で使用すると、室内の換気をしながらヒータ（暖房）の効果を高めることができます。ただし、この位置は高速走行時の使用は避けてください。
-  の位置での長時間使用は、室内の換気が不十分となり、ガラスが曇ったり、室内空気が汚れたりします。特に仮眠する場合は、注意してください。

リヤ・ヒータ（客席）



ストップ・バルブ

（イン）



ストップ・バルブ

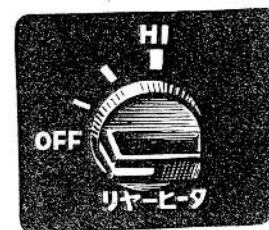
（アウト）

Stop valves for passenger heating.

し
部

ださい。（イン・アウト共）

して
雨後
てく



Passenger heating control switch.

子で、3段階に風量を切り換えることができます。

右1段階：弱

右2段階：中

右3段階：強



For optional heat pump switch fitted for extreme cold conditions.

となりスイッチ部のインジケータ・ランプが点灯しウォータ・ポンプが作動していることを表示します。「OFF」にする場合は、再びスイッチを押すと「OFF」となりインジケータ・ランプも消灯します。

〔予熱器スイッチ〕

予熱式ヒータを作動させるスイッチです。スイッチを押すと「ON」となり、予熱器が作動し、スイッチ部のインジケータ・ランプが点灯します。なお、予熱器の温水入口の水温が83℃以上になると自動的に「OFF」（ランプ消灯灯）となり、水温が80℃以下になると再び「ON」（ランプ点灯）となり予熱器が作動するようになっています。

〔予熱器付リヤ・ヒータの操作方法〕

(1) 始動

- ポンプ・スイッチ「ON」
ポンプ・インジケータ・ランプ・ランプ点灯
〔ウォータ・ポンプ作動〕



- 予熱器スイッチ「ON」
〔グロー・プラグ予熱〕



(約20秒後)

着火



(30秒～60秒後)

予熱インジケータ・ランプ点灯
〔安定燃焼〕



〔エンジン予熱〕



- リヤ・ヒータ・スイッチにより好みの風量にセット

換気および暖房

予熱器付リヤ・ヒータ（寒冷地、多雪地仕向地以外、オプション仕様）

(2) 停止換作

- リヤ・ヒータ・スイッチ「OFF」



- 予熱機スイッチ「OFF」

〔燃焼停止〕

燃焼炉内の換気



運転冷却(約3分)

予熱インジケータ・ランプ消灯

〔燃焼用モータ停止〕



- ポンプ・スイッチ「OFF」

ポンプ・インジケータ・ランプ消灯

〔ヒータ全機能停止〕

- 予熱器スイッチ「OFF」後インジケータ・ランプが消えたことを確認してから、ポンプ・スイッチおよびスタータ・スイッチを「OFF」にしてください。
- バッテリ上がり防止のため、車両側エンジン停止の状態では15分以上の予熱運転は行わないでください。
- 予熱インジケータ・ランプ点灯中は、ポンプ・スイッチを絶対「OFF」にしないでください。また、車両側のスタータ・スイッチも、必ず予熱インジケータ・ランプが消灯してから「OFF」にしてください。
- 予熱器スイッチ「OFF」後、予熱インジケータ・ランプが点灯中は、予熱器スイッチを「ON」にしてもすぐにリヤ・ヒータの運転は始まりません。一旦、予熱インジケータ・ランプが消灯した後、運転が始まります。

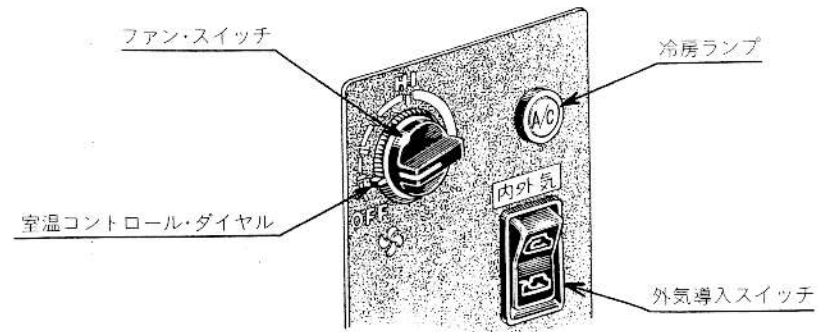
予熱器付リヤ・ヒータの詳細につきましては、別冊の「取扱説明書」をご覧ください。

× 冷房 [クーラ装着車]

クーラの取り扱い

エンジンの動力を利用した直結式バス・クーラを採用しております。

シーズン・イン時は、必ず温水ヒータのストップ・バルブが閉になっている事を確認してからクーラをご使用ください。



[ファン・スイッチ]

室内の風量調節と冷房のメイン・スイッチを兼用しています。また、風量は4段階に調節できます。

[室温コントロール・ダイヤル]

室内の温度調節を行います。右側に回すと設定温度は高くなりますのでお好みの位置にセットしてください。

[冷房ランプ]

クーラの作動状態を示すランプでコンプレッサが「ON」の時のみ点灯します。

- 冷房運転中、冷房ランプが消灯した時は、クーラ関係の異常ですので最寄りの日野サービス工場にて点検、整備を受けてください。

[外気導入スイッチ (固定窓仕様車のみ)]

スイッチを押すと内気循環に、下部を押すと外気導入に切り換えられます。

冷房〔クーラ装着車〕

クーラの取り扱い

〔操作方法〕

(1) 始 動

- ファン・スイッチ「ON」
〔エンジン・アイドリング状態にて〕
(エンジン・アイドリング回転数アップ)

冷房ランプ点灯

- ファン・スイッチにより好みの風量にセット

- 室内コントロール・ダイヤルにより好みの位置にセット

(2) 停 止

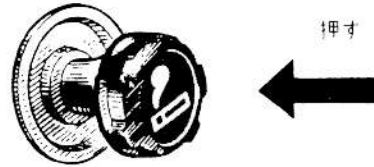
- ファン・スイッチ「OFF」
冷房ランプ消灯
〔冷房機能停止〕

- クーラの配管接続部をむやみに外したり、誤まった方法でガス充填やバルブ操作などをしないでください。クーラ配管内は高圧の冷媒ガスが入っているため非常に危険です。
- 太陽の直射を受けている場所に駐車することは、できるだけ避けてください。やむを得ず日射中に駐車した場合は、室内の換気を十分に行ったあとに、冷房運転を開始してください。

クーラの取り扱いについてはクーラ・メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

装備品の取り扱い

シガレット・ライター（オプション仕様）



スタータ・スイッチが「ACC」、または「ON」の位置で使用できます。

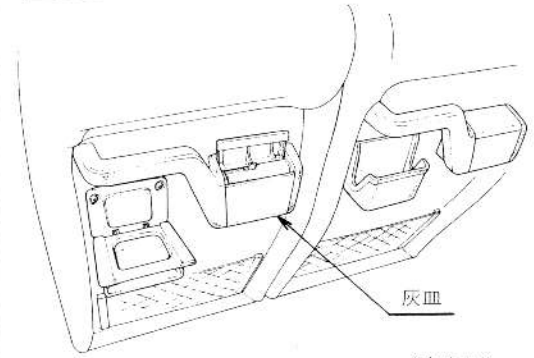
シガレット・ライターを押し込むと約10～20秒後に、赤熱して元の位置に戻ります。

タバコに火を付けた後、再使用する場合は、2～3分程度待ってから使用してください。

- 手で押さえて連続通電しないでください。
- 20秒以上経過しても元の位置に戻らない場合は、手で抜き取ってください。
- 押し込んだまま席から離れないでください。

- シガレット・ライターのシリンダにプラグを差し込んで電源を取る市販品（コーヒ・ポット、掃除機など）は配線などの過熱を招きますので使用しないでください。
- このシガレット・ライターは24V専用です。他のシガレット・ライターは絶対に使用しないでください。火災を引き起こす危険があります。
- ライターが変形すると飛び出し不良などの不具合が発生し危険です。常に正常な作動にあることを確認し、不具合があれば必ず日野純正部品のシガレット・ライター・アセンブリで交換してください。

灰 皿



〔客席用〕

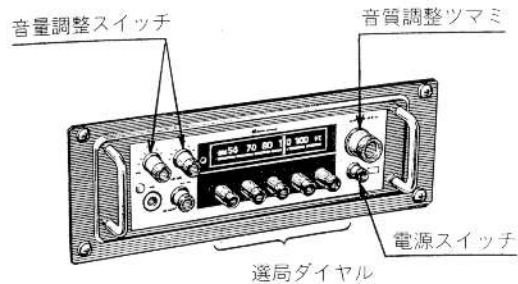
〔客席用〕

灰皿はカバーを開けてください。
取り外す場合は、本体を上方に押し上げ、引き抜いてください。

- 使用後は必ずふたを閉めてください。吸いながら延焼して火災になる恐れがあります。
- マッチ、吸がらは火のついたままで入れないでください。
- 紙くずや空箱など燃えやすいものは入れないでください。

装備品の取り扱い

ラ ジ オ



[電源スイッチ]

ツマミを押すと、「ON」、「OFF」できます。

[音量調整スイッチ]

ツマミを回すと音量が調整できます。

[音質調整ツマミ]

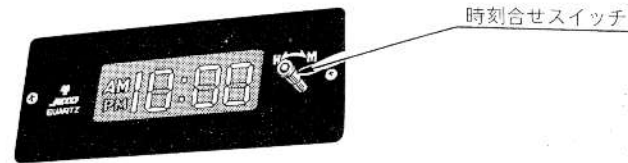
ツマミを回すと、音質が調整できます。

[選局ダイヤル]

ワンタッチで選局できます。各局のセットは次の要領で行います。

- ① セットしたいボタンを押し込みます。
- ② 選局ダイヤルを回して希望の放送局に合わせます。

デジタル時計 (ロイヤル・サルーン車以外オプション仕様)



バッテリー・リレー・スイッチが「ON」位置で時刻が表示されます。

また、時刻合せのスイッチが設けてあります。

[時刻修正]

スイッチを押し左側に回すと時間の桁が、右側に回すと分の桁が修正できます。

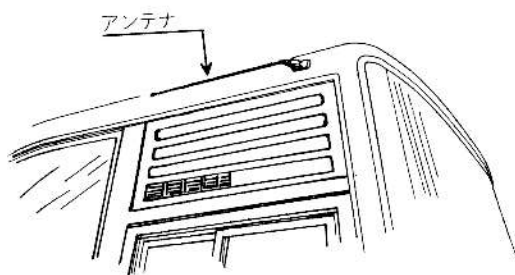
[正時合せ]

時刻表示の状態、スイッチを引くと正時合せができます。

正時合せは、分の桁が0~29分の時は切り捨て(時間桁はそのまま)、30~59分の時は切り上げ(時間桁が1桁繰り上がる)となります。

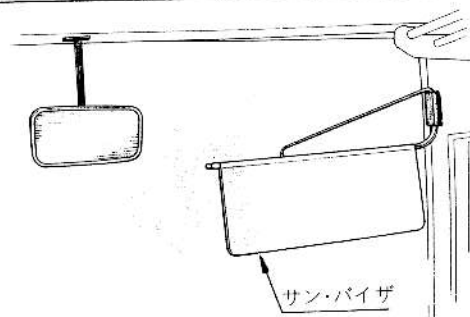
装備品の取り扱い

アンテナ



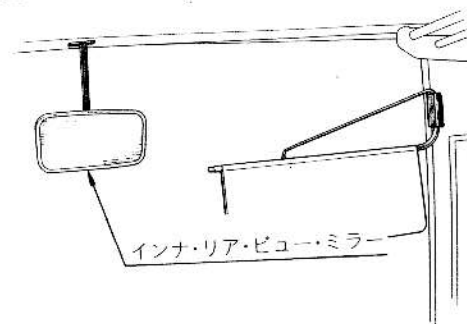
ラジオを聞く時には、アンテナを伸ばして
使用します。

サン・バイザ



直射日光から目を保護します。角度を適当
に変えて使用します。

インナ・リア・ビュー・ミラー



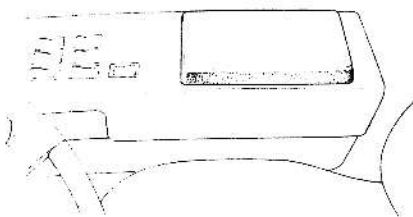
後方の確認がしやすいように調整します。

収

納

ボデー関係

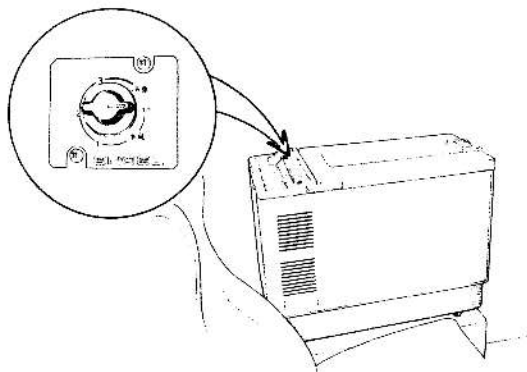
収 納 (運転席スイッチ・ボックス取付車のみ)



インスツルメント・パネル右側に収納ボックスが設けてあり、カバーを引き上げると開きます。

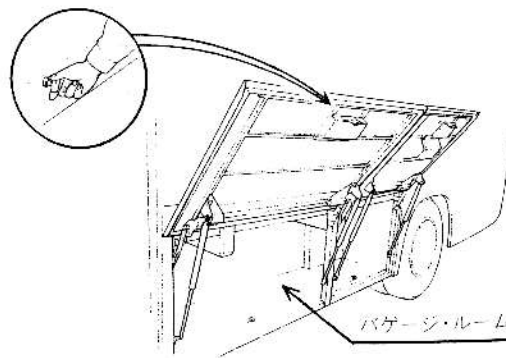
なお、カバー裏側にはポケットが設えてあります。

冷蔵庫 (ロイヤル・サルーン車)



運転席左側に冷蔵庫が設けてあります。ダイヤルを右に回すほど冷たくなります。

バゲージ・ルーム



扉を開ける場合にはキーを使用しロックを解除した後、扉を引き上げてください。閉じる場合は扉を閉めキーを使用してロックしてください。

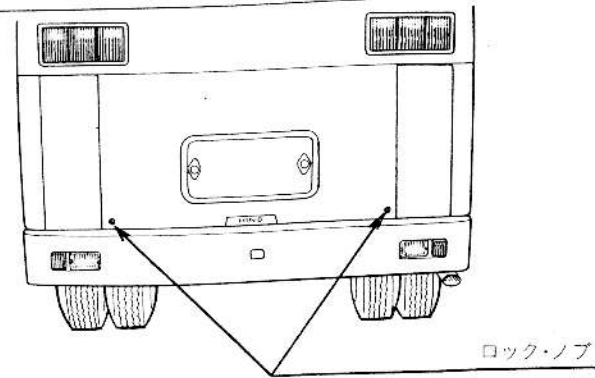
ボデー関係

エンジン・ルーム点検扉

エンジン関係の点検、整備が容易に行えるよう車両後方に点検扉を設けてあります。

またエンジン・ルーム内には次の装置が取り付けられていますので点検、整備時などにご利用ください。

- ・バッテリー・リレー・スイッチ
- ・スタータ・セフティ・スイッチ
- ・スタータ・サブ・スイッチ
- ・エンジン・ルーム
- ・ランプ・スイッチ
- ・作業用コンセント



〔車両後部左右の点検扉の開閉〕

扉の下端に設けてあるロック・ノブを右または左に90° 廻し、ロックを解除した後、扉を引くと開けることができます。

なお、閉める場合は、開けた時とは逆の順序で操作してください。

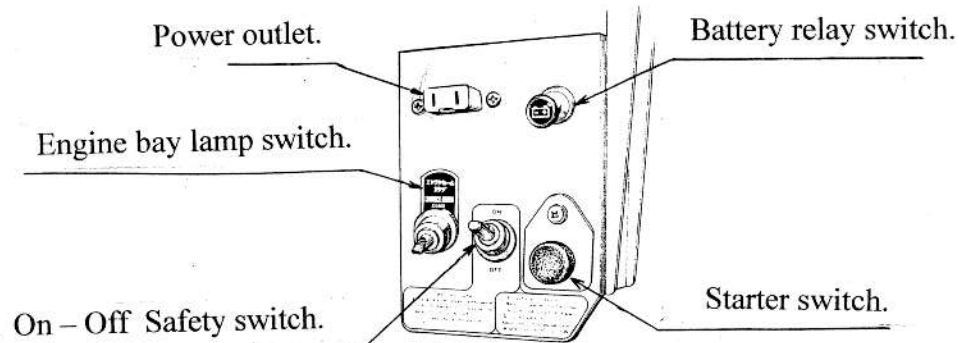
〔車両後部点検扉の開閉〕

扉の両下端に設けてあるロック・ノブを右または左に90° 廻し、ロックを解除した後、扉のグリップを握って車面上部に持ち上げると開けることができます。

なお、閉める場合は、開けた時とは逆の順序で操作してください。

ボデー関係

Secondary engine starting – Located inside engine bay.



Note: Do not crank engine for more than 15 seconds.

エンジン・ルーム内で、エンジンを始動させる場合に使用します。

スタータ・サブ・スイッチを押すとエンジンが始動しますが使用する時には次の点に十分注意してください。

なお、エンジンが冷えている時は、室内のスタータ・スイッチで予熱が必要です。

[エンジン始動前の注意]

- リヤ・スイッチ・ボックスのスタータ・セフティ・スイッチを必ず「OFF」にしてください。

When using secondary engine starting ensure drivers ignition switch is in the **off** position.

- タイヤに輪止めを掛けてください。

[始動方法]

スタータ・サブ・スイッチを押してエンジンをかけます。

スタータは15秒以上連続して使用しないでください。スタータを傷め、バッテリー上がりを招きます。

[停止方法]

室内のスタータ・キー「OFF」にしてエンジンを停止させてください。

ボデー関係

スタータ・セフティ・スイッチ

エンジン・ルーム内で点検、整備を行う場合の安全スイッチで、当スイッチを「OFF」にすることにより、室内からキー・スイッチによるエンジン始動ができなくなります。

- エンジン・ルーム内での点検、整備時は、必ずスイッチを「OFF」にしてください。
- 点検、整備終了後は必ずスイッチを「ON」に戻してください。

バッテリー・スイッチ

エンジン・ルーム内からバッテリーの「ON」「OFF」の切り換えができます。

- スwitchを「OFF」にする時は、室内のバッテリー・リレー・スイッチと同じように、ノブを左に回してから押し込んでください。

※スイッチの操作要領は26ページ参照

その他

[エンジン・ルーム・ランプ・スイッチ]
スイッチを上には倒すと「ON」となり、エンジン・ルーム・ランプが点灯します。

[作業用コンセント]

コンセントはバッテリー・リレー・スイッチに関係なく使用できます。

- コンセントの許容負荷は5Aまでです。

運行前点検項目一覧表

運行前点検は必ず行いましょう

いつでも安全で快適な運転をして戴きますために、1日1回運行前に、車両各部の点検を実施してください。

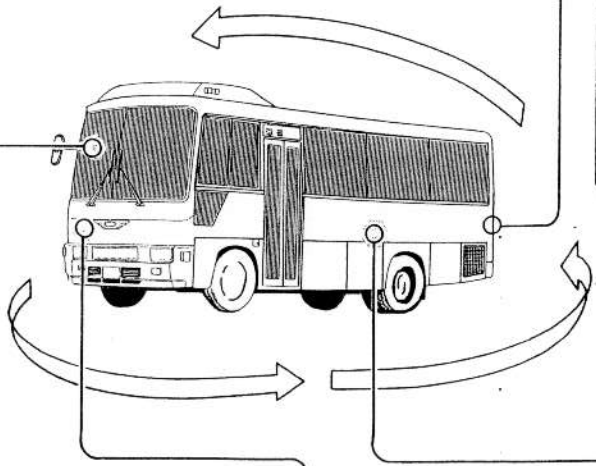
点検時、異常がある場合は最寄りの日野サービス工場で修理を受けてから走行してください。

なお、この運行前点検は、道路運送車両法により運転者に義務づけられています。

★の点検項目は、高速道路走行前の重要点検項目です。

1. 前日の異常箇所
- 前日または前回の運行で異常のあった箇所の修理

5. 後から
- ターン・シグナル・ランプ
 - ストップ・ランプ
 - バック・ランプ
 - テール・ランプ
 - パーキング・ランプ
 - ナンバ・プレート・ランプ
 - 反射器の汚れ、損傷
 - ナンバ・プレートの汚れ、損傷、取り付け状態
 - ★ エンジン・オイル量
 - ★ 冷却水量、水漏れ
 - ★ Vベルトの張り、および損傷



2. 室内
- ★ 燃料の量
 - 空気圧計の指針
 - ブレーキ・ペダルの遊び、踏み代
 - ブレーキ・バルブからの排気音
 - ブレーキの効き具合
 - エキゾースト・ブレーキの作動
 - パーキング・ブレーキ・レバーの引き代
 - バック・ミラー、反射鏡の写影の状態

3. 前から
- ヘッド・ランプ
 - ターン・シグナル・ランプ
 - ナンバ・プレートの汚れ、損傷、取り付け状態

4. 横から
- エア・タンク内の漏水
 - ブレーキ液量
 - ★ タイヤの溝の深さ
 - タイヤの空気圧
 - タイヤの亀裂および損傷

燃 料

点 検



燃料計で燃料の量が十分にあるか点検します。

- F ……満量
- E ……空量

燃料の量が少なめ（目盛り1/2程度）の時は、軽油を補給してください。

燃料の消費量は運転状態や道路状況などにより大きく変動してきます。走行中燃料切れのないよう早めに補給しておいてください。

空気圧力

点 検



空気圧計でエアの充填状態を点検します。
 アイドリング回転で6.5kg/cm²以上になったか、またウォーニング・ランプが点灯していないことを確認してください。

ウォーニング・ランプ（①）が点灯している間は絶対に走行しないでください。ブレーキが十分に効かないため危険です。

ブレーキ・ペダル

Brake pedal.



Normal free play for the brake pedal is 8 – 20mm. ダ
ス

- 遊び ……8~20mm

〔排気音〕

また、ブレーキ・ペダルを踏み込んでペダルから足を放した時に、ブレーキ・バルブの排気孔より正常な排気音がしてペダルが完全に戻るかも点検します。

ブレーキの効き具合は、エア漏れの有無などにより確認します。

点 検

Hydraulic brake reservoir.

〔効き具合〕
 エア漏れ、液漏れの有無、および走り始める前に、安全な場所で5-10km/hで走行し、ブレーキをかけ、効き具合は十分か、片効きはしていないか点検します。

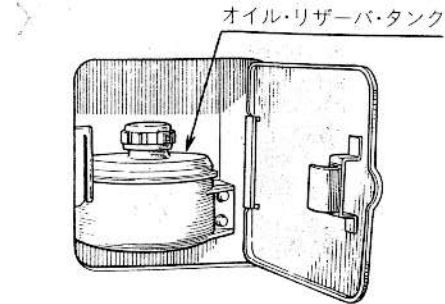
液面が、オイル・リザーバ・タンクの「MIN」～「MAX」の刻線間にあるかどうかを点検します。

不足の場合は、配管系に液漏れがないことを確認の上、ブレーキ液を「MAX」の線まで補給します。

液面が異常に減少している場合は、パイプなどからの漏れが考えられますので、最寄りの日野サービス工場で点検してください。

- 補給の際、塗装面に液が付着すると塗装面が剥がれますのですぐに拭き取ってください。

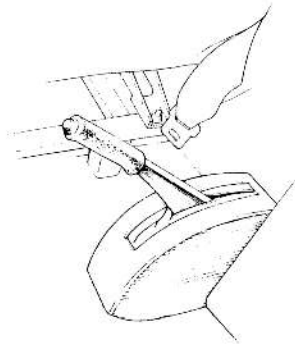
※ブレーキ液の補給は141 ページ参照



Located in right hand rear access door.

パーキング・ブレーキ

点 検



[引き代]

パーキング・ブレーキを戻した状態から静かに引き、引き代が多すぎたり少なすぎたりしないか、ノッチ音を聞いて点検します。

● レバーの引き代………3~5ノッチ

なお、レバーを引いた時、レバーが完全にロックするかを点検してください。

レバーを引いた後、スタータ・スイッチを「ON」にし、インジケータ・ランプ(P)が点灯するかどうか点検してください。

エキゾースト・ブレーキ

点 検



エンジンをアイドリング回転数にし、アクセルおよびクラッチ・ペダルが完全に戻っている状態で、エキゾースト・ブレーキ・スイッチを「ON」にした時、エンジン音が変わることを確認します。

また、この状態でアクセルまたはクラッチ・ペダルを踏み込んだ時、エンジン音が普通の状態に戻ることを確認します。

アイドリング回転数を低目にセットするとエキゾースト・ブレーキ作動時にエンジンが止まりますので注意してください。

ミ ラ ー

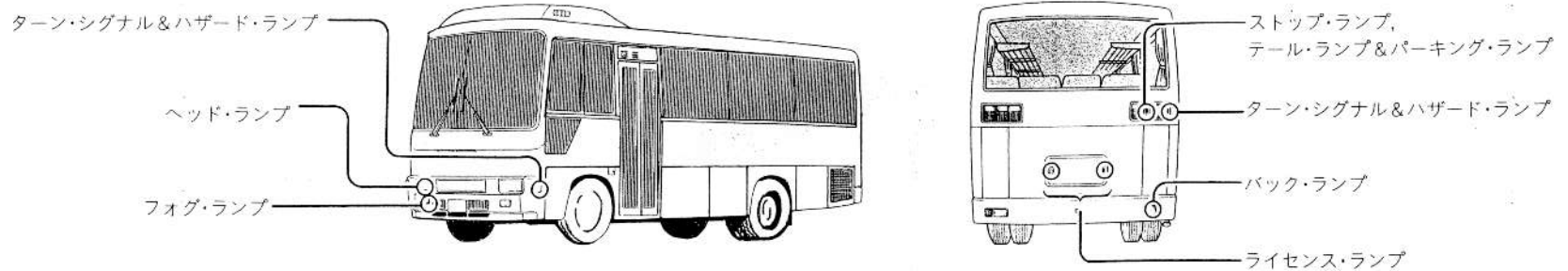
点 検

正しい運転姿勢をとり、後方や側方および直前・直左の状況が十分に確認できる位置に各ミラーが調整されているか点検します。

また、各ミラーが汚れていないかも点検してください。

ランプ類, ナンバ・プレート

点 検



[ランプ類]

- ① 各スイッチを「ON」にして各ランプが点灯, または点滅するかどうか点検します。
 - ヘッド・ランプ
 - フォグ・ランプ
 - パーキング・ランプ
 - ナンバ・プレート・ランプ
 - テール・ランプ
 - ターン・シグナル・ランプ
 - ハザード (ターン・シグナル・ランプ全数点滅)
- ② ブレーキ・ペダルを踏んだ時, ストップ・ランプが点灯するかどうか点検します。

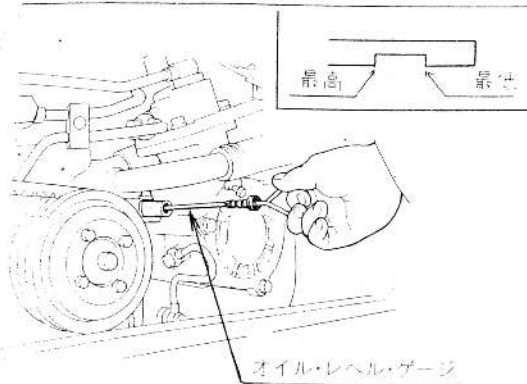
- ③ チェンジ・レバーを後退位置にした時, バック・ランプが点灯しブザーが鳴るかどうかが点検します。ただし, テール・ランプが点灯している場合はブザーは鳴りません。
- ④ 各ウォーニング・ランプおよびインジケータ・ランプの作動は正常か点検します。
 - 各ウォーニング・ランプが消えていれば正常です。同時にウォーニング・ランプ・チェック・スイッチにより球切れの有無を点検してください。
 - パーキング・ブレーキ・インジケータ・ランプはパーキング・ブレーキ・レバーを引くと点灯し, 一杯に戻した時, ランプが消えれば正常です。

- ⑤ 各ランプのレンズや反射器に汚れや損傷がないか点検します。
 - ランプやレンズに不具合がある場合は交換してください。

[ナンバ・プレート]

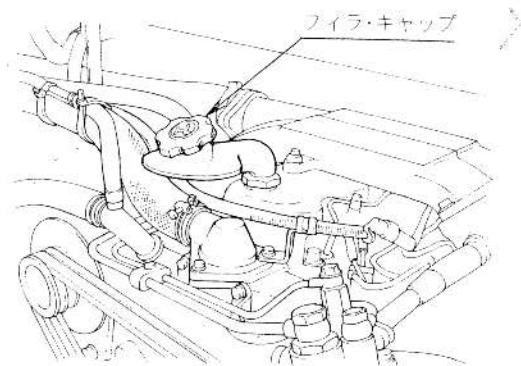
ナンバ・プレートに汚れや損傷がないか, 確実に取り付けられているか, 番号などが明瞭に識別できるかを点検します。

点 検



〔点 検〕

- ① オイル・レベル・ゲージを抜き取り、先端を布で拭きます。
 - ② 再び一杯に差し込んで抜き出し、オイルが最高(H),最低(L)間に付着するかどうか点検します。
不足している場合は、オイル・フィラから補給してください。
- 点検は水平な場所で、エンジン始動前に行ってください。傾いていたり、エンジン始動状態では正確なオイル量が測れません。
 - エンジン始動後は、エンジン停止後30分以上たってからオイル量を測ってください。

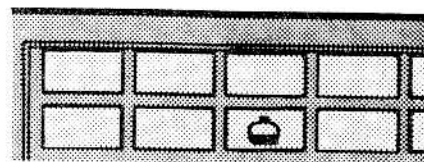


〔補 給〕


- ① フィラ・キャップの回りをよく清掃します。
- ② フィラ・キャップを取り外し、オイルを補給します。

※エンジン・オイルの交換要領は136ページ参照

Radiator level warning light.

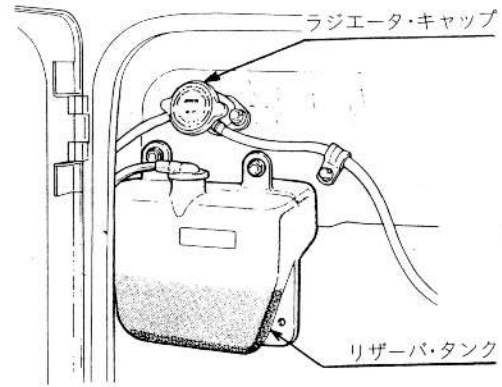


〔点 検〕

- ① スタータ・スイッチを「ON」にし、キャブ内のウォータ・レベルのランプ () が点灯するかどうか点検します。
ランプが点灯した場合、冷却水不足ですからリザーバ・タンク、ラジエータ、ホース、水パイプなどから水漏れがないかも点検してください。
- 冷却水量の点検は、エンジンが冷えている状態で行ってください。

冷却水量

点 検



【補 給】

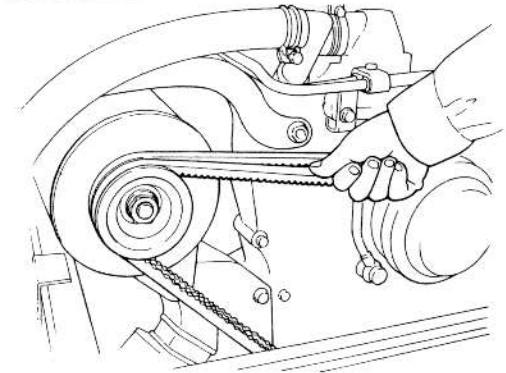
- ① エンジンを暖機運転した後、エンジンを停止させます。
- ② リザーバ・タンクのキャップを外します。
- ③ 冷却水をFULLレベルまで補給します。

冷却水には不凍液兼用のロング・ライフ・クーラント(LLC95スーパー)を用いていますが濃度がうすいと冬期に凍結したり、防錆力が低下し錆などの不具合の原因となりますので水だけの補給はしないでください。

- 冬期に入る前には、必ず最寄りの日野サービス工場で冷却水の濃度と比重点検をしてください。
- ※給水およびラジエータ・キャップの操作については95, 97ページ参照

V ベルト

Checking of V belt tensions.



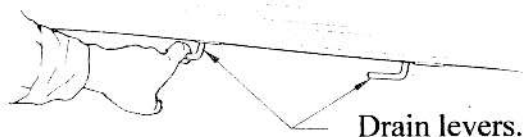
- ① ベルトの中央部を手で押して、ベルトのたわみ量が規定の範囲にあるかを点検します。

V Belt tensions.

測定位置		指で押す力 (kg)	たわみ量 (mm)	張 力 (kg)
Water pump & alternator tension		10	10~12	40~60
3KW オルタネータ	クーラント・ポンププーリ~オルタネータ・プーリの中間		11~14	40~60
Air conditioning pulley.			7~10	30~45

- ② このときベルトに損傷がないかも点検します。損傷している場合は、新品のベルトに交換してください。
- ※ベルトの張りの調整は91ページ参照

Vehicle air brake tanks.



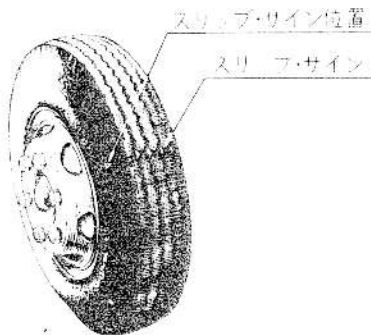
Both tanks are to be periodically drained of excess water.

エア・タンクは定期的に水分が排出されていますので水分排出が無いのが正常です。ただし、エア・タンクの温度降下が16℃以上（昼間エアを充填し、早朝ドレーンするような場合）あると、少量の水が出る場合があります。

点検時、水分、オイルなどの排出が認められた場合は、エア・ドライヤ内の乾燥剤の劣化が考えられますので、最寄りの日野サービス工場に早めにエア・ドライヤの点検、または乾燥剤の交換を行ってください。

レを

点 検



〔摩 耗〕

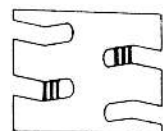
タイヤに異常な摩耗があるかどうかを点検します。

残り溝が少なくなると、タイヤのスリップ・サイン表示位置（△位置）に摩耗表示が現れます。摩耗表示が現れたら、危険ですので、新品タイヤと交換してください。

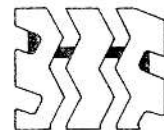
走 行 路	溝の深さ限度
一 般 路	1.6mm
高 速 道 路	2.4mm



リブ・パターン



ラグ・パターン

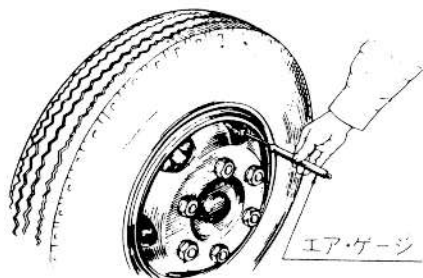


リブ・ラグ・パターン

高速道路を走行する場合は、溝の深さが2.4mm以上あることを確認してください。溝の深さが規定以下のときは危険なため走行しないでください。

タイヤ

点検



〔空気圧〕

エア・ゲージで点検します。不足の場合は充填してください。

タイヤ標準空気圧を示したコーション・プレート（標準タイヤ以外の空気圧を含め）をダッシュボード部に貼付してあります。

また巻末の「主要諸元表」にも記載してあります。

空気圧が低すぎたり高すぎると、乗心地が悪くなったり、積荷が痛みやすくなるだけでなく、特に低すぎると過熱し易く、バースト（破裂）の原因になります。

- 測定および充填時は、必ずタイヤが冷えた状態で行ってください。
- バルブ・キャップは、測定および充填後、必ず取り付けてください。

〔亀裂・損傷および異物のかみ込み〕

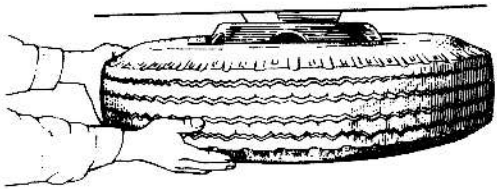
タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないか、接地面が極端にすりへっていないか点検します。

また、タイヤの溝に金属片や釘などがささっていないか、複輪間に石などがかみ込んでいないかを点検します。

タイヤに不具合がある場合は、修理あるいは新品のタイヤに交換してください。
※交換方法は107ページ参照

タイヤ

点検



[スペア・タイヤ]

スペア・タイヤが確実に巻き上げられているかどうかタイヤをゆすってみて点検し、タイヤが動く場合は確実に巻き上げてください。

- スペア・タイヤを確実に巻き上げておく。
- 走行中にスペア・タイヤが落下した場合、直ちに停車し、直ちに点検する。

4. 正しい運転操作

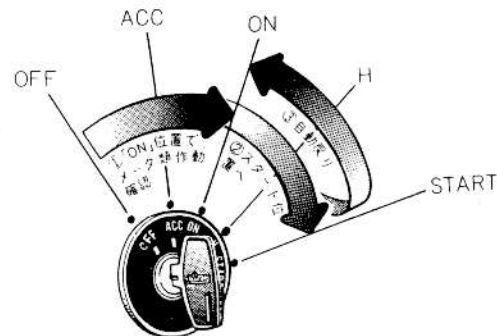
発進前の準備	68
• エンジン始動前の準備	68
• エンジンの始動方法	68
• 暖機運転	69
エンジン停止	70
• エンジンの停止方法	70
発進時の注意	71
走行時の注意	71
• 走行時の注意	71
• サービス・ブレーキの操作方法	73
• 登坂、降坂時の走行	74
• 高速道路の走行	76
• 悪路の走行	77
• 悪天候時の走行	77
緊急時の処置	78
• 走行中の異常	78
故障時の注意	79
• 停止時の注意	79
• けん引時の注意	80
消火器・緊急保安炎筒	81

発進前の準備

エンジン始動前の準備

- ① 乗車する前に、車のまわりに人や障害物がないことを確認してください。
 - ② パーキング・ブレーキ・レバーが確実に引かれていることを確認してください。
 - ③ 正しい運転姿勢がとれるようにドライバー・シート、ステアリング・ホイールを調整してください。
 - ④ 後方や側方および直前・直左の状況が十分に確認できるように、各ミラーを調整してください。
 - ⑤ 車輪に輪止めが掛けてある場合には外してください。
 - ⑥ 全てのドアをロックしてください。
 - ⑦ シート・ベルトを正しく装着してください。
 - ⑧ 不要なライトやアクセサリ類を消してください。
 - ⑨ チェンジ・レバーがニュートラル位置にあることを確認してください。
- アクセル・インタ・ロック装着車（路線仕様）のエンジン始動は扉が閉じた状態で行ってください。

エンジンの始動方法



【通常の始動方法】

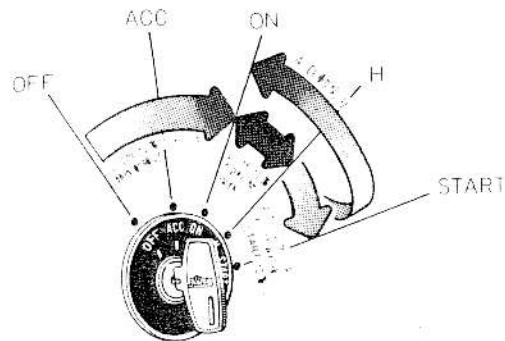
- ① バッテリー・リレー・スイッチを「ON」にします。
- ② スタータ・スイッチにキーを差し込み、「ON」の位置にして各種メータ類の作動状態を確認します。
- ③ アクセル・ペダル、クラッチ・ペダルを一杯に踏み込み、キーを「START」の位置まで回しエンジンを始動させます。

- 1回でエンジンがかからなかった場合、30秒程度待ち、バッテリーの回復を待ってから再始動させてください。

スタータは15秒以上連続して使用しないでください。スタータを傷め、バッテリー上がりを招きます。

発進前の準備

エンジンの始動方法



〔寒冷時の始動方法〕

寒冷時でエンジンがかかりにくい場合は、キーを「H」の位置にして2秒間保持し、インジケータ・ランプが点灯した後、手を離し、プレ・ヒート・インジケータ・ランプが消灯するまで待ってから（約5秒）エンジンを始動させてください。

ランプ消灯後3秒以内にスタータ・スイッチを「START」の位置にすると、エンジン回転の立ち上がりをスムーズなものにするため、アフタ・グローが自動的に作動します。

グロー・プラグは消費電力が多いため繰り返し作動させることはバッテリーの負担が大きいため、できるだけ避けてください。

暖機運転

- ① エンジンがかかったら、アクセル・ペダルを徐々に戻し、スロットル・ボタンでやや高めのアイドリング状態にして指針が動き出すまで、暖機運転をします。
なお、寒冷時は、暖機スイッチを「ON」にしてください。また、暖機運転完了後は必ずスイッチを「OFF」に戻してください。暖機運転中止、ウォーニング・チェック・スイッチを押し、ウォーニング・ランプの球切れの点検を行ってください。
- ② エンジンが暖まったら適正なアイドリング回転に戻します。

● 適正アイドリング回転：600～650rpm

● エンジンが冷えている時の始動の際、始動直後に空ふかしをしたり、その繰り返し、または高回転のまま保持するなどの操作は、エンジン本体およびターボ・チャージャの不調やトラブルの原因となるだけでなく、燃料の無駄使いにもつながりますので、避けてください。

● エンジン運転中、スタータ・スイッチは「ON」の位置以外にしないでください。

● 暖機不足による車庫内での暖機運転は避けてください。
● 排気管・マフラー付近に可燃物が無いことを確認してください。万一の場合、消火する危険があります。

エンジン停止

エンジンの停止方法

- ① エンジンを停止させる前に、アイドリング運転で3-5分程回転させます。
登坂や高速走行直後は、エンジンが高温になっていますので、アイドリング運転で十分冷却する必要があります。
- ② チェンジ・レバーをニュートラルにし、パーキング・ブレーキ・レバーを十分に引き上げます。
- ③ スタータ・スイッチを「ON」から「ACC」の位置に戻しエンジンを停止させます。
- ④ スタータ・キーを「OFF」にし、キーを取り外してください。
- ⑤ バッテリ・リレー・スイッチを左に回して押し込み「OFF」にしてください。

走行直後にエンジンを止めると高温になっているエンジン本体やターボ・チャージャなどに悪影響をおよぼすことがあります。

- 坂道に駐車する場合や、長時間の駐車および車両の点検、調整などの作業を行う場合は、危険防止のため必ずタイヤに輪止めを掛けてください。
- 走行後の排気管、マフラ付近は、高温となっていますので、駐停車時は、紙くずや枯草などの可燃物がない場所を選んでください。万一の場合、着火する危険があります。

発進時の注意

発進時の注意

- ① 空気圧計の指針が6.5kg / cm²以上を示していることを確認してください。
- ② 各ウォーニング・ランプ類が点灯していないことを確認してください。
- ③ 水温計の針が適正温度域内を示していることを確認してください。
- ④ パーキング・ブレーキ・レバーを完全に戻してください。同時にインジケータ・ランプの消灯を確認してください。
- ⑤ 発進は1速から静かに行ってください。

走行時の注意

走行時の注意

走行中次の点に注意する他、異常が認められましたら直ちに安全な場所に停車し、点検、修理を行ってください。

なお、原因が不明な時、また修理が困難な時は、最寄りの日野サービス工場にご連絡ください。

(1)スタータ・スイッチは「ON」以外にしないでください。

- ウォーニング・ランプ、インジケータ・ランプ、ブザー、メータ、ランプ類およびエキゾースト・ブレーキが作動しないので非常に危険です。
- 充電されませんので、バッテリー上がりの原因になります。また、電気部品を損傷する恐れがあります。

(2)走行中各ウォーニング・ランプ（赤ランプ）が消えているのが正常です。

点灯またはブザーが鳴りましたら、直ちに安全な場所に停車して処置してください。

(3)チェンジ・レバーはゆっくり操作します。

チェンジ・レバーを性急な強過ぎる力で操作しますと、シンクロメッシュ機構に無理を生じ、寿命を早めることがあります。従ってチェンジ・レバー操作もこの点を念頭におき、一呼吸置く感じで操作してください。

(4)急発進、急停車は緊急な場合以外はできるだけ避けてください。

急発進はクラッチの損傷やタイヤ異常摩擦を起こします。また、急停車はタイヤやブレーキ・ライニングの摩耗を早めるばかりでなく、追突される危険があります。

(5)異音、異常振動、異臭に注意してください。

走行中異常を認めた場合は、速やかに車を安全な場所に停車し、車両各部を点検してください。特に排気管、消音器が破損した場合はそのまま走行せずに最寄りの日野サービス工場に連絡の上、修理を受けてください。

走行時の注意

走行時の注意

(6)過負荷運転は行わないでください。

過負荷状態で長時間運転すると、車両各部に悪い影響をおよぼします。

(7)走行中は、絶対にエンジンを止めないでください。

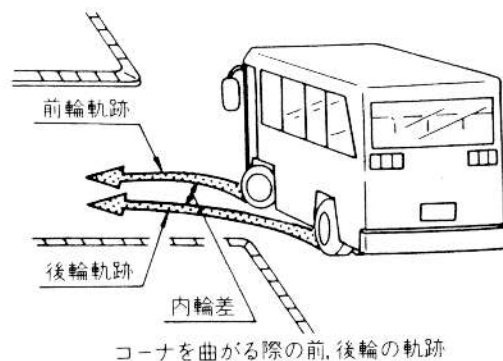
- ブレーキ用のエアが供給されないので、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。
- パワー・ステアリングが作動しない状態となり、ハンドルが急に重くなります。

(8)クラッチを切ったまま走行しないでください。

エンジン・ブレーキが効かなくなります。

(9)半クラッチは、できるだけ使わないでください。

半クラッチは、クラッチを損耗させる大きな原因です。また、走行中ペダルに足を乗せての運転は半クラッチの状態になりやすいので行わないでください。



(10)運行中のハンドル操作

- カーブを曲がる時はあらかじめ減速してください。

ブレーキを踏みながらハンドルを切ると、タイヤの摩耗を促進させ、また滑りやすい路面（濡れた路面、凍結路面、雪路など）ではスリップし、方向を失いやすいので避けてください。

- コーナを曲がる際

前輪タイヤの通った跡より後輪タイヤは内側よった位置（内輪差）を通るため、特に狭い街中などではバック・ミラーにより十分後方を確認してください。



- 左折時には十分減速し、サイド・ミラー、サイド・アンダ・ミラー、左側方確認窓により車両の直前および左側面の安全を確認してください。

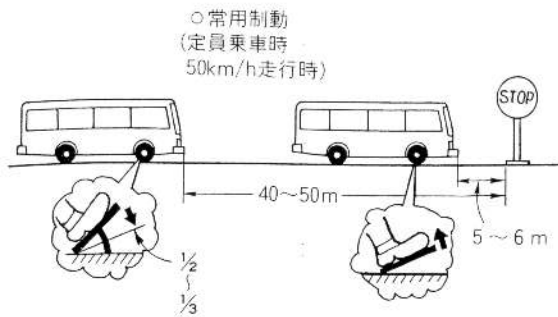
ミラーは常に規定の視界が確保できるよう調整しておいてください。

- 運行中ハンドルが急に重くなるなど異常を認めたら直ちに安全な場所に停車し、点検してください。

(11)道路の路肩はくずれ易いので、すれ違いや追い越し、または障害物を避ける時は十分注意してください。

走行時の注意

サービス・ブレーキの操作方法



この車両のサービス・ブレーキは、エア・コンプレッサから圧送された圧縮空気とオイルを併用するエア・オーバ式です。

[サービス・ブレーキの操作]

たとえば、定積載で50km/h走行時に車をスムーズに停止させる場合には次のようなブレーキ操作を行ってください。

- ① 40~50m手前でブレーキ・ペダルを全ストロークの1/2~1/3程度踏み込みます。
- ② 停止位置の5~6m手前から徐々にゆるめます。この時、ブレーキ・ペダルをゆるめずにそのまま踏み込んで行くと短距離で停車しますが、停車の際、強いショックを伴いますので御注意ください。



・圧力低下は0.2kg/cm² ・圧力低下は0.6~1.0kg/cm²

- ③ 停止地点の直前でごく僅かブレーキ・ペダルを踏み込み停車させてください。この時、ブレーキ・ペダルを踏み込まないと、目的地点に停車できず流れてしまいますので注意してください。

ブレーキ・ペダルを“バタ踏み”するとエア圧が低下し、所定の制動力が得られなくなりますのでバタ踏みは止めてください。



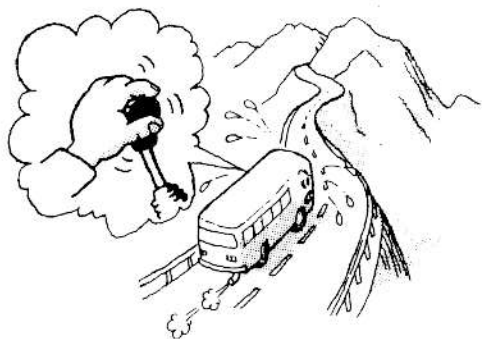
[急ブレーキ]

緊急時はブレーキ・ペダルを一杯に踏み込んでください。急ブレーキがかかり急停車します。停車時強いショックを伴いますので十分ご注意ください。

急ブレーキを常用しますと、タイヤ、ブレーキ・ドラムおよびライニングその他の部品の早期摩耗を起し、各部の寿命を非常に短くしますから、緊急時以外は使用しないよう心掛けてください。

走行時の注意

登坂、降坂時の走行



〔登り坂〕

登り坂では早めにシフト・ダウンを行い、エンジンに負荷をかけないようにしてください。



〔降り坂〕

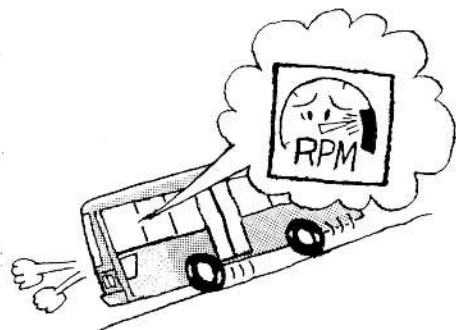
降り坂は次のことに注意してください。

- エンジン・ブレーキ、エキゾースト・ブレーキを併用し安全に走行してください。
- サービス・ブレーキの使いすぎに注意してください。

サービス・ブレーキを使いすぎると、ブレーキ装置が過熱し、フェード現象やベーパー・ロック現象を起こしてブレーキの効きが大幅に低下します。

走行時の注意

登坂、降坂時の走行



フェード現象とは

ブレーキ・ライニングの加熱によりブレーキ・ドラムとの摩擦力が著しく低下し、ブレーキの効が悪くなる現象です。

ベーパーロック現象とは

ブレーキ装置の加熱により、ホイール・シリンダ内のブレーキ液が蒸気化し、液中に気泡が生じて液圧が十分に上昇せずブレーキの効が悪くなる現象です。

- 急勾配および長い坂道を降りる時は、あらかじめサービス・ブレーキをかけ、正常に作動することを点検してください。
- 下り坂ではエンジン・オーバ・ランに注意してください。

エンジン・オーバ・ランとはエンジンおよび動力伝達装置が最高回転を超えて回転することをいい、このような状態にするとエンジン各部に無理を生じてエンジンを破損させることとなります。

- 下り坂ではエンジン回転計の指針がレッド・ゾーンに入らないようスピードを押さえてください。
- シフト・ダウンする時は十分減速してからギヤ・チェンジを行ってください。
なお、シフト・ダウンは、エンジン回転数が3,000rpmを超えない速度で行ってください。

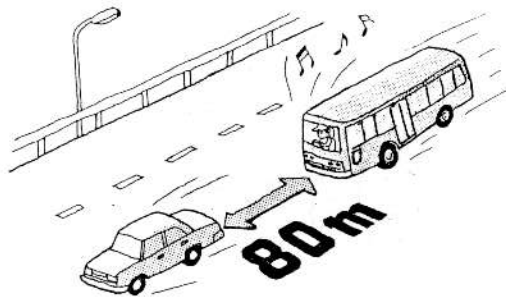
走行時の注意

高速道路の走行

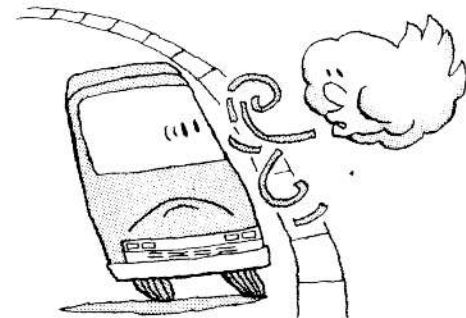
高速道路では、一般道路と比較して、ほとんど支障のないような小さな原因でも大事にいたる恐れがあります。

安全運転を心掛けるとともに、次のことを守って走行してください。

- 運行前点検を確実に行ってください。特に燃料、冷却水、エンジン・オイル、Vベルト、タイヤの点検は念入りに行ってください。
- シート・ベルトは必ず装着してください。
- 本線への進入は、ターン・シグナル・ランプで早めに合図し、加速車線で十分加速しながら、後方および本線上の車の流れを十分確認してください。
- 高速走行は、車速に対するスピード感が大幅にぶくなります。車速は常にスピード・メータにより確認してください。
- 高速では、わずかなハンドル操作でも車は大きく移動します。ハンドルは徐々に操作してください。



- 車間距離は十分にとってください。車間距離は少なくとも速度と同じだけあけてください。80km/h走行時は80m以上です。また、レーンを変更する時は、特に後続車に注意し早めに合図してください。
- 雨天時はスピードを控えめにしてください。雨天時高速で走行すると、タイヤと路面の間に入っている水が逃げ切れずにタイヤが水中に浮いたような状態となり、走行安定性が大幅に低下するハイドロ・プレーニング現象を発生することがあります。特にタイヤが摩耗している場合は、この傾向が強いため、スピードを出しすぎないように注意してください。



- 横風に注意してください。トンネルの出口付近、切り通しを出た時、横風を受けて車体が流されることがありますが、あわてずに速度を下げながら徐々に進路を修正してください。
- 急ブレーキはスピンやスリップを起こしやすく非常に危険です。急ブレーキをかける必要のない運転を心掛けてください。
- 本線から出る時は、合図を早めに行いエンジン・ブレーキ、エキゾースト・ブレーキを併用し、適宜ギヤ・シフト・ダウンしながら減速して減速車線に移動してください。なお、シフト・ダウン時オーバ・ランに注意してください。

走行時の注意

悪路の走行



ジャリ道、泥道などは低速ギヤで一定速度を保ちながら走行してください。

悪天候時の走行



- 雨は降りはじめが特に、スリップしやすく危険です。急ブレーキを避け十分注意しながら走行してください。
- 水たまりを走行しますとブレーキの効きが低下することがありますので注意してください。
- 霧の場合は、フォグ・ランプを点灯し、センタ・ラインまたは前方をよく確認し、走行してください。
- 雪または凍結路を走行する時は、タイヤ・チェーンやスノー・タイヤを装着し、スピードを控えめにしてください。

緊急時の処置

走行中の異常

万一、走行中、次のような緊急事態が発生した場合は、その状況により適切な処置を行ってください。

〔ブレーキの効が悪くなった場合〕

ブレーキ・ペダルをより強く踏み、さらにエキゾースト・ブレーキ、ギヤ・シフト・ダウン、パーキング・ブレーキを併用し、速やかに安全な場所に停車させてください。停車後、最寄りの日野サービス工場に連絡してください。

ブレーキが一系統失陥の状態では制動力が大幅に低下しています。
この状態での走行は危険ですので絶対に車を動かさないでください。

〔エンジンが逆回転した場合〕

逆回転した場合、エンジン音が変化し、排気煙がエンジン・ルーム付近から出てきます。この場合は、ブレーキおよびクラッチ・ペダルを一杯に踏み込み、スタータ・スイッチを「ACC」または「OFF」位置にしエンジンを停止させてください。

〔走行中エンジンが停止した場合〕

パワー・ステアリングが作動しなくなるため、ハンドル操作が異常に重くなります。

ハンドルを強い力で操作し、直ちに安全な場所に停車して点検してください。

〔走行中パンクした場合〕

急ブレーキを避け、ハンドルをしっかりと握り、ハザード・ランプで後続車に注意を促し、徐々にスピードを落として安全で平坦な場所に停車させタイヤの交換をしてください。

パンクしたままでの走行は避けてください。そのまま走行を続けると、タイヤがバーストして思わぬ事故を起こす恐れがあります。

※タイヤの交換要領は105ページ参照

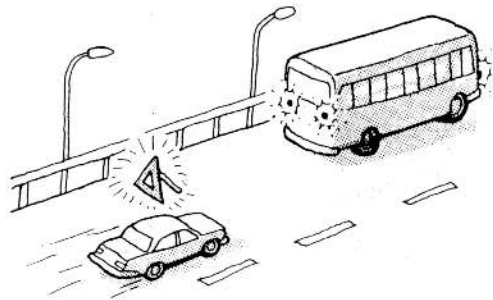
〔火災が発生した場合〕

ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、消火器などで消化してください。

※消火器の取り扱い要領は81ページ参照

故障時の注意

停止時の注意



万一、車両が故障したときは、あわてずに、ハザード・ランプを点灯させて後続車に注意を促し、徐々にスピードを落として他の交通の妨げとならないような安全な場所に停車した後、故障表示をしてください。

- トンネル内での停車は危険ですので、トンネルを出てから停車してください。
- 停車後は、必ず輪止めを掛けてください。パーキング・ブレーキが効かない故障もあります。

故障車の表示は、次のような方法があります。

- ハザード・ランプを点滅させます。
- 停止表示板を置きます。
- 赤旗の掲示または赤ランプを点灯させます。
- 白い布などを車外の目立つところに結びます。
- 場合によっては緊急保安炎筒を着火させます。

高速道路や自動車専用道路では停車していることが後続車にわかるように自動車の後方に停止表示板を置くことを法律で義務づけられています。

万一、車両故障により停車する場合は、必ず故障の表示をしてください。故障の表示をしないしていると、後続車に追突される恐れがあります。

故障箇所を点検し、修理可能の場合は、他車の通行に十分注意して作業してください。

修理が不可能のときは、最寄りの日野サービス工場に連絡してください。

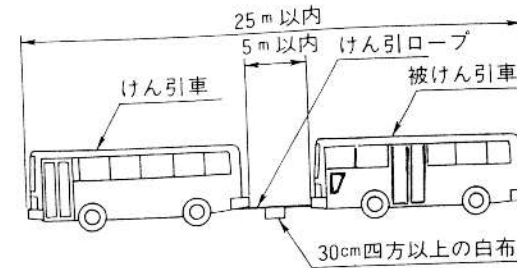
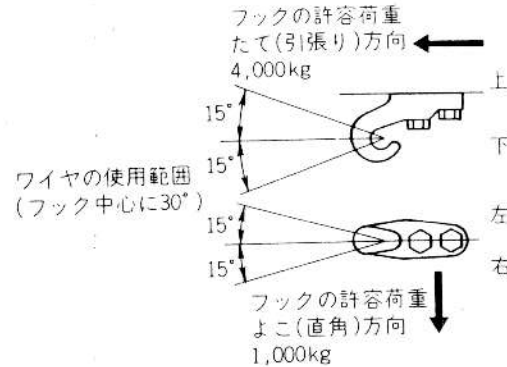
トンネル内での修理は、非常に危険ですので行わないでください。

高速道路では非常電話にて連絡しロード・サービスの指示にしたがってください。

また危険防止のための処置をしたら車内に残らずガード・レールの外に避難してください。

故障時の注意

けん引時の注意



故障車をけん引するときは、次の点に注意してください。

〔けん引前の準備〕

- けん引車と被けん引車（故障車）の車間距離を5m以内にしてください。
- けん引ロープの中間の見易い箇所に30cm四方以上の白布を付けてください。
- けん引車前端から被けん引車後端までの長さを25m以内にしてください。
- けん引ロープは強固なものを使用し、けん引車後端のフックと故障車前端のフックに外れないように掛けてください。
- けん引フックはロープの掛け方によりフックの強度が異なりますので安全のため使用範囲内（角度）でご使用ください。

- 故障車の荷物は全て降ろしてください。

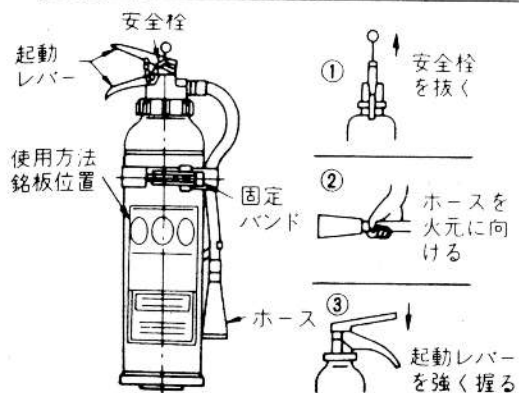
〔けん引時の注意〕

- 故障車のチェンジ・レバーをニュートラル位置にしてください。
- 故障車のエンジンは必ず回しておいてください。エンジンを止めておくとブレーキが効かなくなるばかりか、ハンドル操作が異常に重くなり危険です。
- 故障車のスタータ・スイッチは「ON」の位置にして置いてください。
- 被けん引車のエンジンが回らないときは、けん引専用車で行ってください。
- 急発進を避け、ロープをたるませないようにしてください。

- けん引専用車（レッカ車）以外でけん引するときの最高速度は30km/hです。
- 急激な力が掛かる使い方（溝に落ちた車をけん引するときなど）をする場合は、フックでのけん引を避けてアクセルなどを用いてけん引してください。
- プロペラ・シャフトを外した場合は、エンジン・ブレーキ、エキゾースト・ブレーキ、パーキング・ブレーキが効きませんので、けん引には十分注意してください。トランスミッション、ディファレンシャル・ギヤなど内部に故障がある場合は、けん引せずに、最寄りの日野サービス工場に連絡してください。

消火器・緊急保安炎筒

消火器

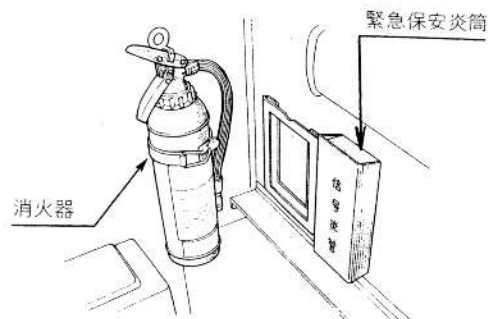


運転席付近に備え付けてあります。

この消火器は、一度作動しますと起動レバーを離しても消火剤（粉末）がなくなるまで放射します。（放射約15秒、放射距離約3～6m）

消火剤の有効期間は5年間です。有効期限を過ぎたものは消火剤を交換し、有効年月を更新してください。

緊急保安炎筒



踏み切りや高速道路での故障など非常時に使用します。発煙時間は5分間です。

- 使用有効期限が本体に記載してありますので期限が過ぎているものは新品と交換してください。
- 子供には絶対手を触れさせないでください。トンネル内では煙のため視界が悪くなり危険ですので、絶対に使用しないでください。

着火の仕方									
持ち方、置き方	<table border="0"> <tr> <td>手に持って振る時</td> <td>地上に立てる時</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>地上に置く時</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	手に持って振る時	地上に立てる時				地上に置く時		
手に持って振る時	地上に立てる時								
	地上に置く時								

〔着火方法〕

- ① 本体をひねりながらケースから取り出し、本体を逆にしてケースに差し込む。
- ② キャップ頭部のすり葉で本体の頭をこする。

- 着火すると炎と共に火の粉も出ますので可燃物がある所では使用しないでください。また、周囲の安全を確認してから使用してください。
- 着火すると炎は15cm程噴き出しますので着火の際、筒先を絶対に顔や体に向けないでください。
- ガソリンや可燃物のそばでは使用しないでください。

点検および手入れ	84
オイル・フィルタ	85
• エLEMENTの交換	85
フューエル・フィルタ	86
• エLEMENTの交換	86
エア・クリーナ	86
• エLEMENTの交換	86
• エLEMENTの取り外し	87
• エLEMENTの清掃	87
• エLEMENTの洗浄	88
• エア・クリーナの清掃	88
• エLEMENTの取り付け	89
燃料系統	90
• エア抜き	90
• フューエル・ストレーナの洗浄	90
• フューエル・タンクの点検	91
• 燃料パイプ、ホースの点検	91
Vベルト	91
ラジエータ、冷却水	93
ラジエータの取り扱い	93
• 冷却水	93

5. 点検および手入れ

• 排水	93	• タイヤ・チェーンの取り扱い	110	• ヒューズ配置	126
• 洗浄	94	ホイール	111	• ヒューズブル・リンク	126
• 給水	95	• ホイール・ナットの点検	111	• 配線関係	127
• ロング・ライフ・クーラントの注入	96	• アクスル・シャフトの点検	112	その他	128
• ラジエータ・キャップの操作	97	ステアリング	113	• 車外騒音に係わる部品の 取り扱いと点検	128
インタ・クーラ	98	シャシ・スプリング	115	• 車の手入れ	128
サービス・ブレーキ	99	バッテリー	115		
• エア・プレッシャ・ウォーニング・ スイッチの作動点検	99	• 点検	115		
• ライニングの摩耗量およびドラムとの すきま点検	100	• 充電時の注意	117		
• ライニングとドラムのすきま調整	101	• 一般的注意	117		
• ホースおよびパイプの点検	101	• ブースタ・ケーブルの取り扱い	118		
エア・ドライヤ	102	ウィンド・ウォッシャ	119		
パーキング・ブレーキ	103	• ウォッシャ液の補給	119		
クラッチ	104	ワイパ	120		
• 点検	104	• ワイパ・ブレードの交換	120		
タイヤ	105	ランプ類	121		
• ジャッキの取り扱い	105	• ヘッド・ランプの交換	121		
• タイヤの交換	105	• その他のランプ類の交換	123		
• タイヤ・ローテーション(位置交換)	108	• ランプ類一覧表	124		
• スペア・タイヤの取り扱い	109	ヒューズ、ヒューズブル・リンク、 配線関係	125		
		• ヒューズの取り扱い	125		

ここでは皆様にごできる簡単な車の手入れについてまとめてあります。

詳しい点検およびご自分で調整できないものについては、最寄りの日野サービス工場で行ってください。

〔点検、調整作業にあたっての注意〕

- エンジンを止めてください。
- トランスミッションのギヤをニュートラル位置にしてください。
- パーキング・ブレーキを確実に効かせてください。
- タイヤに必ず輪止めを掛けてください。
- 車両運行直後に作業を行う場合は、エンジン、ラジエータ、エキゾースト系などは高温になっていますので、火傷などに十分注意してください。また、これらの点検は温度が下がってから行ってください。
- パイプ類および補機類に乗らないでください。破損や故障の原因となります。
- スタータ・キーは必ず抜いて置いてください。
- バッテリ・リレー・スイッチを「OFF」にして置いてください。

- 作業終了後、エンジン・ルーム内に工具類の置き忘れがないか、また、ボロ布、紙きれなどの可燃物がエキゾースト・マニホールド、ターボ・チャージャおよび吸気口付近に置き忘れていないか点検してください。万一、可燃物をエンジン・ルームに置き忘れますと火災の原因にもなります。

- 点検および調整が終わりましたら、各機能の作動が正常であるか点検してください。

- インタ・クーラ電動ファン・モータは次の場合に作動します。

- ① バッテリ・スイッチ「ON」

- ② スタータ・スイッチ「ON」

- ③ インタ・クーラ吸気温度25℃以上

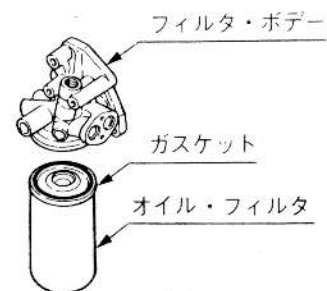
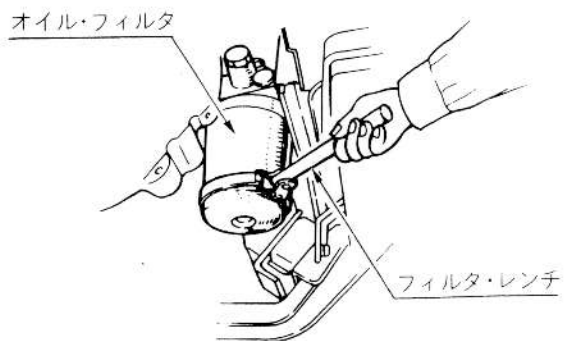
- ④ アクセル・ペダルを5秒以上踏んだ場合（アクセル・スイッチは5秒以上OFF）
従ってエンジンの作動（回転）とは無関係に作動しますので、エンジン・ルーム内での点検整備時は、必ずバッテリ・リレー・スイッチを「OFF」にしてください。

噴射ポンプはエンジンの性能、機能を左右する重要部品であり、最適な状態に調整した後封印を行っています。このため、不正に調整するとエンジンの性能、機能に重大な悪影響を与えるばかりでなく、黒煙を発生し、社会環境にも迷惑を及ぼしますので、封印は絶対にさわらないでください。

なお、封印を外したり、不正に調整を行ったために発生した故障につきましては保証をお受けできかねますのでご注意ください。

オイル・フィルタ

Oil filter.



オイル・フィルタにはカートリッジ・タイプのものを使用しており、フル・フロー・フィルタ（濾紙式）とバイパス・フィルタ（濾紙式）を一体化したオイル・フィルタを採用しています。

オイル・フィルタ・エレメントはエンジン・オイル交換時期の2回に1回交換してください。

推奨エンジン・オイル別エレメントの交換時期

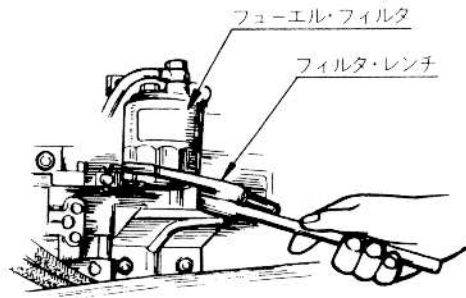
Replacement.	交換時期
Replace filter every 15,000 klms.	15,000km走行ごと

〔エレメントの交換要領〕

- ① オイル・フィルタを反時計方向に回して取り外します。
- 特殊工具のフィルタ・レンチ(09503-1080)を用いると容易に取り外せます。
- ② オイル・フィルタ・ボデー下面（オイル・フィルタ・ガスケット接触面）のゴミ、泥などの汚れをきれいに除去します。

- ③ 新品のオイル・フィルタのガスケットにエンジン・オイルを塗布し本体に組み付けてください。
- ガスケットはエレメント・キットに入っている新品の物を使用してください。
- 取り付けの際、ガスケットがねじれて破損しないよう注意してください。
- カートリッジ・エレメントの再使用は行わないでください。
- ④ フィルタの締め付けは特殊工具で行い、ガスケットがオイル・フィルタ・ボデー下面、（シール面）に接触してから3/4～1回転締め付けてください。
- ⑤ フィルタを交換した場合には、エンジン・オイルを点検してください。
- エンジンをかけ、油漏れがないか確認してください。

Fuel filter.



Fuel filter to be replaced every 20,000 klms. ジ・す。

エレメントの交換時期

交換	20,000km 走行ごと
----	---------------

〔エレメントの交換要領〕

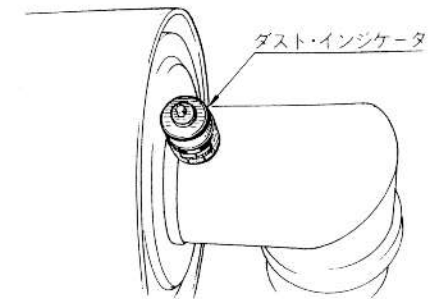
- ① エア抜きプラグをゆるめた後、カートリッジ・エレメントを反時計方向に回して取り外します。
安全のため、また地面を汚さないためにも燃料は必ず容器に受けてください。
- 特殊工具のフィルタ・レンチ(09503-1040)を用いると容易に取り外せます。
- ② 新品のフューエル・フィルタのガスケット面に燃料を薄く塗布した後、シール面に当たるまで時計方向に手で軽く回します。

- ③ この状態からさらに2/3回転位手で強く締め付けてください。
- カートリッジ・エレメントの再使用は行わないでください。
- ガスケットはエレメント・キットに入っている新品の物を必ず使用してください。
- 取り付けの際、ガスケットがねじれて破損しないよう注意してください。
- ④ 最後には燃料系統のエア抜きを行ってください。

※エア抜き要領は90ページ参照

エレメントの交換後は、エンジンの試運転を行い、フィルタまわりから燃料漏れのないことを確認してください。
燃料漏れは、火災の原因となる恐れがあります。

Air cleaner.



エア・クリーナは乾式で車両後部右側に取り出す。
Air cleaner filter to be replaced every 48,000 klms.

ダスト・インジケータは1週間に1回位点検してください。

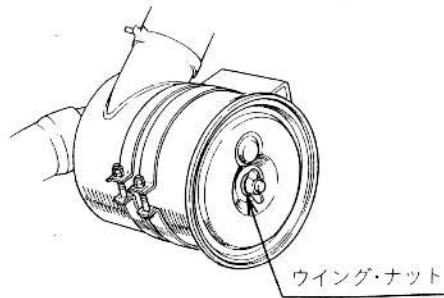
エレメントの交換時期

清掃	12,000km 走行ごと
交換	48,000km 走行ごと

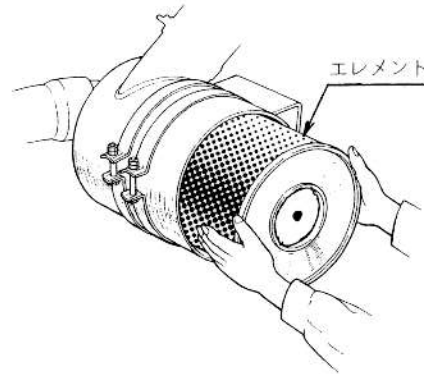
インジケータ・シグナルが赤色を表示している場合は、走行料数にかかわらずエレメントの清掃あるいは交換が必要です。

エア・クリーナ

To clean air filter.



- ① エア・クリーナ下部のウイング・ナットをゆるめてカバーを外します。
- ② エレメント下部のウイング・ナットを外した後、エレメントを取り外します。



エレメントの清掃



After removing filter gently
Clean with compressed air
then using 2 ltrs. of hot water
add 300 grams of detergent
powder gently agitate then
allow to soak for 30 minutes.

使用圧力が高すぎたり、エレメントを変形させますと、エンジン・トラブルの原因になります。

エレメントの洗浄



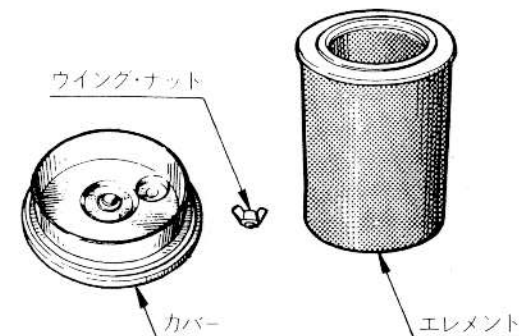
Remove filter from detergent
Water and rinse clean thoroughly.
Allow to dry before re-fitting.

ン
か
作

- ります。
- ② 洗浄液中に約30分エレメントを浸します。
 - ③ エレメントを取り出し、エレメント内面および外面を十分すすぎ洗いした後、水をよく振り切ってから乾燥させます。(使用水圧2.8kg / cm²以下)

- エレメントの水洗いの際は、特に内側がダストなどで汚れていないことを確認してください。
- 乾燥炉を用いる場合は、80℃以下で乾燥させてください。
- 生乾きのエレメントは絶対に使用しないでください。
- 乾燥したエレメントの破れ、パッキン破損および変形がないか確認してください。

エアクリーナの清掃



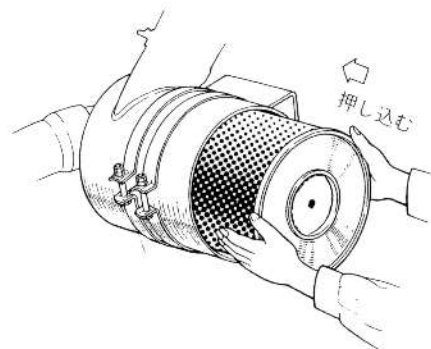
- ① エア・クリーナ・ボデー内部に付いているホコリをウエスなどで落とします。
- ② ダスト・アンローダ・バルブの破損、脱落の有無を確認してください。

- ダスト・アンローダ・バルブの破損や脱落は水、ごみなどの侵入により、エレメントの汚損の原因となります。
- エレメント交換に際しては、必ず白野純正エレメントを使用してください。イミテーション・エレメントの場合、エレメント上部パッキンがシール不良を起こしたり、締め付けによって破損し、ダスト吸い込みの恐れがありますので、使用しないでください。

エア・クリーナ

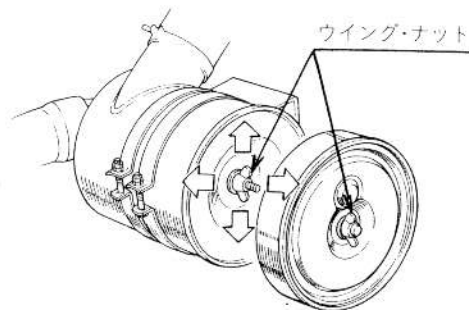
エレメントの取り付け

Air cleaner indicator.



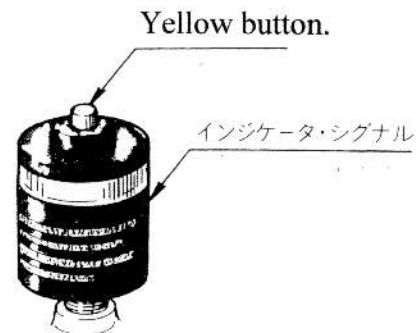
- ① 取り外しの逆の順序でエレメントを上方に押し上げ、エレメント締め付け用ウイング・ナットを確実に締め付けます。

ウイング・ナットの締め付けが不完全な場合、エレメント上部パッキン面のシール不良となり、エンジン内部へのダスト吸い込みを起し、ピストン、ライナなど早期摩耗の原因となります。



- ② エレメント取り付け後、エレメントを左右に動かし、ガタ（完全にウイング・ナットが締まっているか）がないことを確認します。
- ③ 次にカバーを取り付け、カバーに付いているウイング・ナットを手で固くなるまで締め付けてください。

カバー締め付けに際しては、カバーが傾いていないことを確認してください。傾いた状態のまま締め付けますと、走行中の振動などでカバーが元に戻り、ナットがゆるんでカバー脱落の恐れもありますので、確実に締め付けてください。

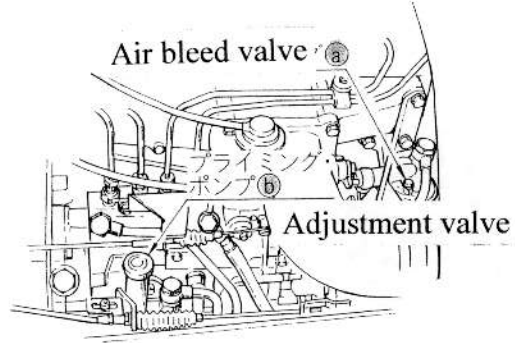


When air cleaner filter is cleaned or changed, push in yellow button if button is protruding.

ンプのゆるみなどを点検してください。破れている場合は新部品と交換してください。

また、クランプにゆるみがある場合は確実に締め付けてください。

Fuel line.



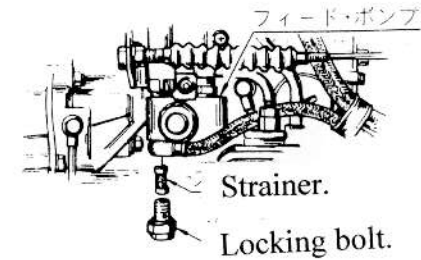
To clear air from fuel line after either cleaning the fuel filter or replacing the fuel filter, turn the adjustment valve (B) anti clockwise then pump valve 5-6 times to clear air from fuel line. When finished, push down valve and tighten in a clockwise direction.

め付けます。(気泡がなくなりますとプライミング・ポンプに手ごたえがでてきます。)

- ④ 再度①を上下に5~6回動かした後、下に押し付け、右に一杯締めてください。
- ⑤ エア抜き完了後、漏れた燃料を拭き取り、エンジンをかけて燃料が漏れていないか確認してください。

- 燃料漏れ(各パイプ、ホースの接続部を含め)は火災の原因となる恐れがあります。
- 安全のため、および地面を汚さないためにも燃料は、必ず容器に受けてください。
- 噴射ポンプ関係に異常が認められた時は、最寄りの日野サービス工場です必ず点検、調整を行ってください。

Fuel strainer cleaning.



ス
ード
取り
Clean out fuel strainer every 5,000 klms. (フィードして)

ストレーナの洗浄時期

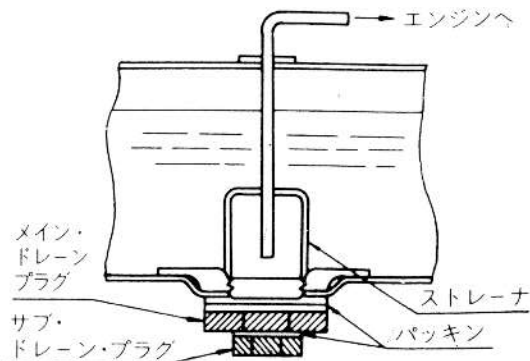
1ヵ月または5,000km走行ごと

ストレーナ取り付け後、エンジンの試運転を行い、ジョイント・ボルトまわりから燃料漏れのないことを確認してください。

燃料系統

Alternator.

Draining of main fuel tank.



分、
沈
目詰
り
の
行

Main fuel tank is to be periodically drained of excess water by loosening strainer locking bolt. Replace locking bolt fibre Seal when tank is drained.

〔排出要領〕

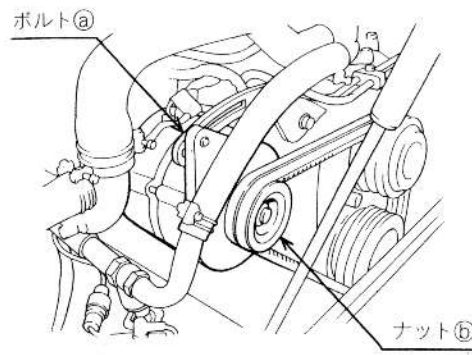
- ① サブ・ドレイン・プラグから燃料を抜き取ります。
 - ② メイン・ドレイン・プラグを取り外してタンク内の水分、沈殿物を排出してください。
- ドレイン・プラグを外した場合、パッキンは必ず新品と交換してください。

燃料パイプ・ホースの点検

燃料パイプ、ホースは保安上重要です。次の点検を行ってください。

- 接続部やクリップのゆるみを点検し、ゆるみがある場合は確実に締め付けてください。
- 他の部品との干渉、および無理な取り付けがないかを点検してください。
- 傷、錆、摩耗、ホースの劣化がないかどうか点検し、具合の悪いものがあれば交換してください。

V belt adjustment.



To hand test V belt use a pressure of 10 kg. You should get a deflection of 7-10mm. With a new V belt you should get a deflection of 6-7mm.

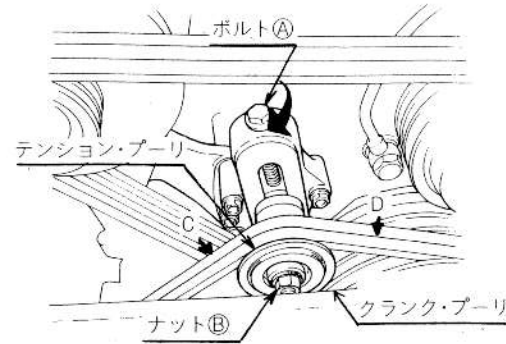
Vベルトのたわみ量と張力

	測定位置	指で押す力 (kg)	たわみ量 (mm)		張力	
			点検時	新品ベルト張り時	点検時	新品ベルト張り時
標準車	クランク・ポンプ・プーリー・オルタネータ・プーリーの中	10	10~12	10~11	40~60	50~60
3KW オルタネータ	"	10	11~14	10~11	40~60	60~70

- クランク・ポンプ・プーリー・オルタネータ・プーリーの間を10kgで押した時のたわみ測定は、特殊工具コンプレッション・ゲージ (09444-1210) を使用してください。

Vベルト

Main V belt adjustment.



- ベルト張力の測定は日本電装(株)製、ベルトテンション・ゲージ (デンソー品番: 95506-00013) を使用してください。
- ① ボルトⒶおよびナットⒷをゆるめます。
- ② オルタネータを動かし、ベルトの張りが基準値内になるように調整します。
- ③ 調整後、ボルトⒶおよびナットⒷを確実に締め付けてください。

新品のベルトに交換した場合は、ベルトの初期なじみが出ていませので100km程度走行した後、ベルトの張りを再度調整してください。

[直結クーラ・コンプレッサ・プーリ・ベルト]

- ① テンション・プーリ中間のナットBをゆるめます。
 - ② テンション・プーリのボルトAを時計方向 (矢印方向) に回すとベルトが張れます。
 - ③ 調整後、テンション・プーリ中央のナットを確実に締め付けてください。
- 締め付けトルク 700~900kgcm

Vベルトのたわみ量と張力

測定位置	指で押す力 (kg)	たわみ量 (mm)		張力 (kg)	
		点検時	新品ベルト張り時	点検時	新品ベルト張り時
直結クーラ テンション・プーリ・クランク・プーリの		7~10	6~7	30~45	45~50

When fitting a new V belt
adjust to a tension of 45-50 kg. ⁵⁵

新品のベルトに交換した場合は、ベルトの初期なじみが出ていませので100km程度走行した後、ベルトの張りを再度調整してください。

ラジエータ、冷却水

ラジエータの取り扱い

電動ファン方式を採用していますので点検、整備を行う場合は、電動ファンが作動しないように必ずスタータ・スイッチおよびバッテリー・リレー・スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

冷却水

冷却水は、ロング・ライフ・クーラント(LLC)を使用しています。冷却水の交換時にラジエータ内の洗浄も同時に行ってください。

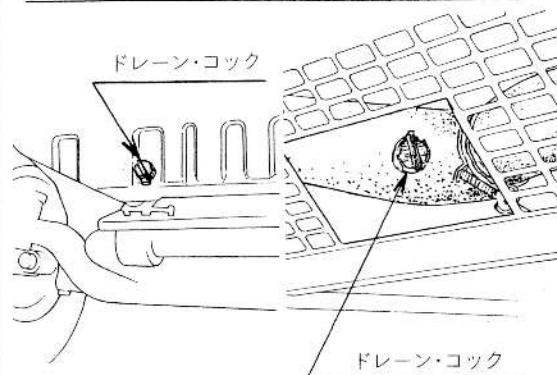
また、ラジエータ前面が泥やほこりで詰っていると冷却効率が低下したり、ラジエータ・コアの腐蝕の原因となりますので、定期的な水洗いをしてください。

冷却水には水道水(軟水)をお使いください。

推奨名柄

日野純正
ロング・ライフ・クーラント
LLC95スーパー

Vehicle radiator.

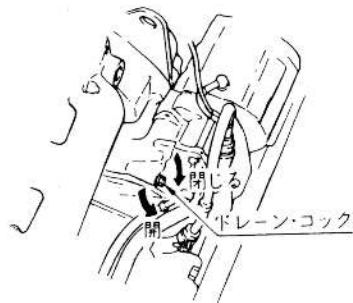


- ① When draining vehicle radiator using draining bolt, turn bolt only 5 times to achieve maximum drain flow from radiator.

- ② コックを開けます。
- ラジエータのドレーン・コックは開きすぎると脱落し、冷却水が前方に飛び出し、高温時には思わぬ火傷をする恐れがありますので5回転以上回さないでください。それ以上回しても排水量は増えません。
- ④ ドレーン・コック(3箇所)を確実に閉めます。

ラジエータ、冷却水

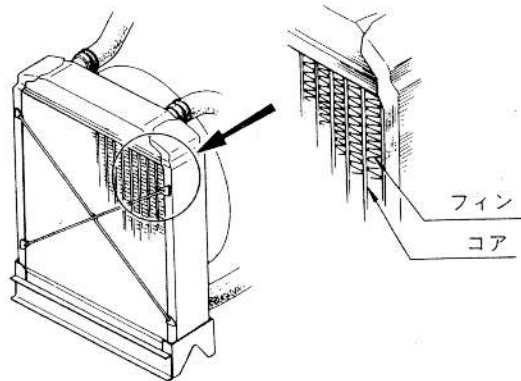
排水



排水後の水無し運転は、ウォーター・ポンプの故障、およびエンジン焼き付きなどの原因となりますので絶対に避けてください。

※ラジエータ・キャップの操作要領は97ページ参照

洗浄



〔冷却水路の洗浄〕

ラジエータおよびエンジンの冷却系統内には、湯垢や錆びがついて冷却効率を低下させますから、冷却水交換時（ロング・ライフ・クーラント使用時は2年に1回、使用していない場合は1年に2回）、洗浄剤を使って洗浄します。

洗浄剤推奨銘柄

日野純正ラジエータ・クリーナ

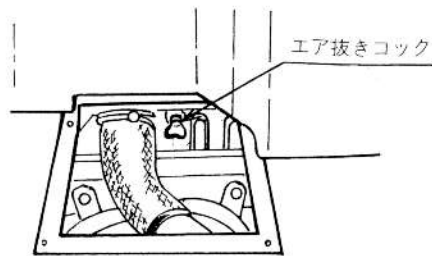
- ① 冷却水を排水した後、洗浄剤を使用して、アイドリングで約30分間洗浄した後、排水してください。
- ② 新たに水道水を給水し、さらにアイドリング回転で洗浄した後排水し、冷却水を給水してください。

〔ラジエータ・コアの洗浄〕

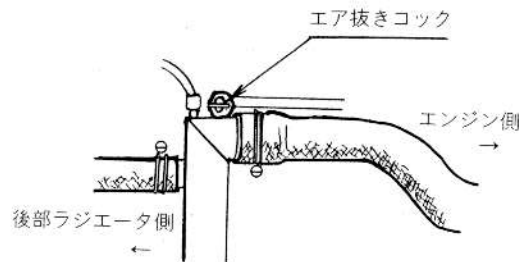
ラジエータ・コア前面に泥などが付着していると冷却空気の通風を妨げますから、水できれいに清掃し、また、フィンが変形していると冷却作用が悪くなりますから修理してください。

ラジエータ, 冷却水

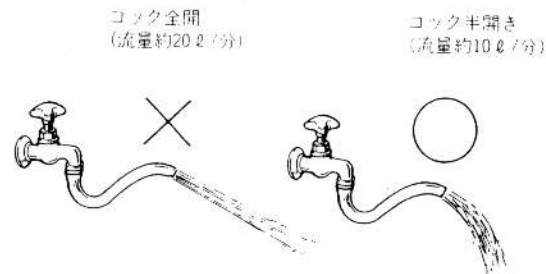
Air bleed valve vehicle radiator.



〔フロント・ラジエータ・アッパ・タンク部〕



〔ウォータ・パイプ部〕



- ① フロント・ラジエータのアッパ・タンク部およびエンジン出口側のウォータ・パイプ部のエア抜きコックを開きます。
- ② 冷却水（ロング・ライフ・クーラント＋水道水）を給水口一杯までゆっくり給水します。
 - 水タンク等を使う場合は、エアが混入しやすいので、ゆっくり注水してください。
 - 水道で給水する場合は、水道のコックを全開せずに半開きの状態で行ってください。
 - 急激に給水すると冷却配管系のエアが抜けていくかかって給水時間がかかります。
- ③ エア抜きコック部より冷却水があふれてきたら、一度給水を中断し、2～3分間放置した後、水位に変化がない事を確認してからエア抜きコックを締めてください。
- ④ 再度給水を開始し、給水口一杯になるまで給水してください。

- ⑤ ラジエータ・キャップを確実に締めてください。
- ⑥ 次にリザーブ・タンクの液面レベル「FULL」まで給水してキャップを締めてください。
- ⑦ エンジン内および配管内のエア抜きを確実にを行うためアイドリング回転を通常より若干高めにセットしてアイドリングを行い、水温を適正温度範囲まで上げ、さらに約10分間アイドリング回転させてください。
- ⑧ エンジンを止め、エンジンが冷えてからラジエータ内およびリザーブ・タンク内の冷却水量を点検し、水位が下がった分給水してください。

エアが混入していると、オーバ・ヒータ、および、ウォータ・ポンプからの水漏れなどの原因となります。

- ⑨ ラジエータ・キャップをもう一度確実に締め付けてください。
- ⑩ 最後に、フロント・ヒータの温度調節レバーおよびリヤ・ヒータのストップ・バルブを元に戻してください。

水温が適正温度以下に下がるまでは絶対にラジエータ・キャップに触れないでください。不用意にキャップを開けると熱湯が噴出して火傷をする恐れがあります。

ラジエータ，冷却水

ロング・ライフ・クーラントの注入

ロング・ライフ・クーラント混合割合表

外気温度 (℃)	-12	-15	-20	-25	-30	-35	-40
ロング・ライフ・クーラント濃度 (%)	30	35	40	45	50	55	60
ロング・ライフ・クーラント液量 (ℓ)	15	17.5	20	22.5	25.0	27.5	30.0

(冷却水量……50ℓ)

外気温度が0℃以下に下がる期間および地域では、冷却水の凍結によってエンジン、ラジエータなどが破損する恐れがありますので、冷却水にはロング・ライフ・クーラントの使用をお奨めします。

〔ロング・ライフ・クーラントの注入要領〕

- ① 冷却系統内を水道水で洗浄します。汚れがひどい場合には、日野純正洗浄剤で洗浄した後、完全に水洗いを行います。
- ② ラジエータ・コア，ホース，ドレーン・コックなどに水漏れがないか十分点検します。
- ③ ロング・ライフ・クーラントと混合する水には水道水（軟水）を使用してください。
- ④ ロング・ライフ・クーラントの混合割合は、混合割合表より使用条件に合った値を選んでください。
但し、ロング・ライフ・クーラントは30～60%の範囲で使用してください。

ロング・ライフ・クーラントと冷却水との混合割合が30%以下になると防錆効果が減少し、また60%以上では凍結防止性が低下します。

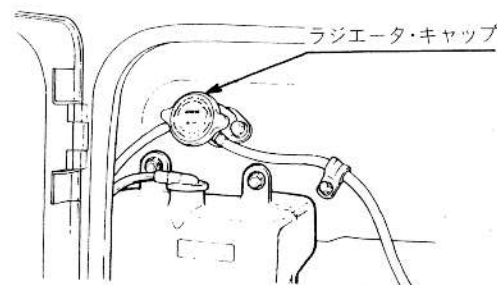
- ⑤ 給水の水面が給水口の口元で落ち着くまで行い、給水不足のないよう十分注意してください。
- ⑥ ロング・ライフ・クーラントの交換は2年ごとに行ってください。

ラジエータ，冷却水

ロング・ライフ・クーラントの注入

- [ロング・ライフ・クーラントの取り扱い時の注意]
- 毒性がありますので絶対に飲まないでください。
 - 皮膚や衣服についた場合は，すみやかに水洗いした後セッケン水で洗ってください。
 - 塗装部に付着した場合は，ただちに水洗いしてください。
 - 火気厳禁ですので注意してください。
 - ロング・ライフ・クーラントを補充する際は，最初に注入したものと同一銘柄を用い，かつ同一濃度の補充液を注入してください。
 - 水だけを補給していくとロング・ライフ・クーラントの濃度が薄くなり，凍結防止性が低下しますので，ロング・ライフ・クーラントも同時に補給し，濃度の管理を行ってください。

ラジエータ・キャップの操作



ラジエータ・キャップは加圧式ですので，常に右一杯（2段目まで）に回した状態で使用してください。

[エンジン高温時の操作]

不用意にキャップを外すと，熱湯，蒸気が噴き出し火傷をする恐れがあります。次の要領に従って操作してください。

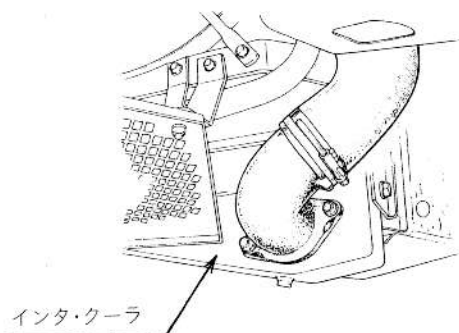
- ① 水温計がレッド・ゾーン近くを指示している場合は，エンジンをアイドリング回転にしたまま指針が適正温度域に下がるまで待ちます。

水温が適正温度以下に下がるまでは絶対にラジエータ・キャップに触れないでください。不用意にキャップを開けると熱湯が噴出して火傷をする恐れがあります。

- ② 厚手の布を数枚重ねてラジエータ・キャップにかぶせキャップを徐々にゆるめてください。著しく蒸気が吹き出る場合には，直ちにキャップを締め直し，再度減圧してください。

インタ・クーラ

Intercooler.

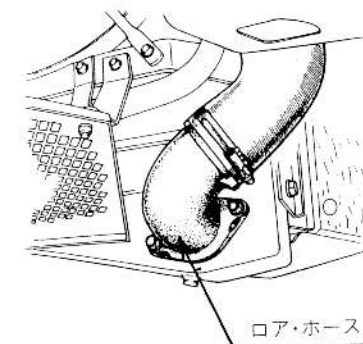
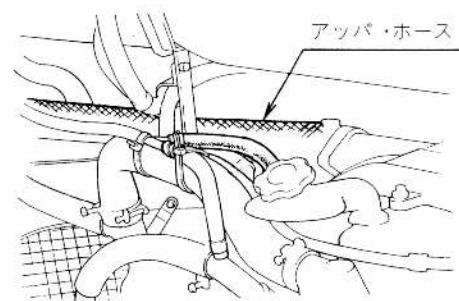


〔インタ・クーラ本体〕

インタ・クーラは、ターボ・チャージャで過給され高温になった吸入空気を冷却するための装置で後部ラジエータの前面に設けてあります。

冷却作用が低下しますと燃費などに悪影響がありますので、コア前面に泥などが付着している場合は水できれいに清掃し、またフィンが変形していると、冷却作用が悪くなりますから手直してください。

また、内部はインタ・クーラ・ホースの交換時にエア吹きして清掃してください。



〔インタ・クーラ・ホース〕

アップ・ホース、ロア・ホース共にエア漏れがあると、性能低下、燃費悪化、ひいてはエンジン・トラブルの原因となることがありますので、外周のひび割れ、亀裂、かしめ部の抜け出しなどに十分に点検してください。

点検時、異常が認められた場合は、最寄りの日野サービス工場ではホースなどの交換を行ってください。

Important.

When cleaning area around vehicle Intercooler in the engine bay you Must use compressed air.

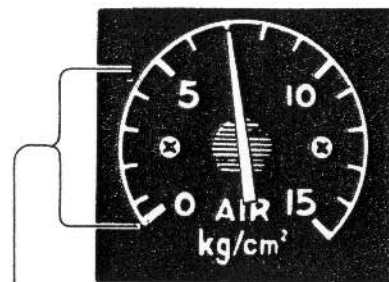
Do not use water.

サービス・ブレーキ

エア・プレッシャ・ウォーニング・スイッチの作動点検

ブレーキは保安上重要な役割りを果しており、点検を怠ったり、調整や整備を誤ると重大事故につながります。

ブレーキの点検は、別添「整備手帳」にしたがって実施し、具合が悪い場合は、直ちに最寄りの日野サービス工場で修理してください。



警報ブザーおよび
ウォーニング・ランプ点灯範囲

エア・プレッシャ・ウォーニング・スイッチの作動点検は運行前点検時、次の要領にしたがって確実に点検してください。

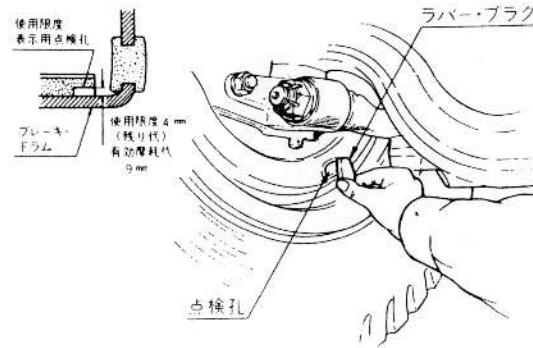
- ① エア圧が4.5kg / cm²以下の時、スタータ・キーを「ON」の位置にすると「(!)」ランプが点灯し、パーキング・ブレーキ・レバーをゆるめるとブザーが鳴れば正常です。
- ② 上記の状態ではエンジンをかけ、エア圧が4.5kg / cm²以上に上昇した時、ブザーが鳴り止み、「(!)」ランプが消灯すれば正常です。

エア圧が4.5kg / cm²以上の場合は、4.5kg / cm²に下げた上で、点検してください。

坂道などでの点検は、車両が動き出す恐れがあり危険ですので、必ず車両を平坦な場所に停車させて点検してください。

サービス・ブレーキ

Brake drum linings. きま点検



Check brake drum linings every 5,000 klms.
Standard thickness of new lining is 13mm.
Minimum thickness of worn lining is 4mm.

- プラグを外します。
- ② ラインングの端面に段差がついていますので、段差が残っているか点検します。段差がなくなっていれば、ラインングの交換が必要です。
- ③ ラインング摩耗量の点検と同時に、ドラムとラインングとのすきまが基準値内にあるかシックネス・ゲージで点検します。標準すきまを超えている場合はすきま調整を行ってください。

点検時、取り外したラバー・プラグは確実に取り付けてください。

ブレーキ・ライニングの厚さ

標準厚さ	使用限度
13.0mm	4.0mm (残り代)

Gap between brake lining and brake drum is 2-3mm.

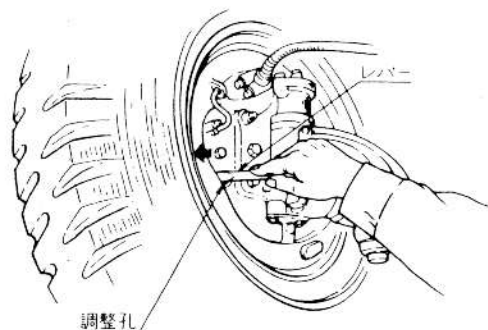
標準
0.2~0.3mm

ラインングの張り替えは最寄りの日野サービス工場で行ってください。

使用限度を超えたまま走行しないでください。限度を超えて使用すると、リベット頭部によりドラムの損傷を招くおそれがあり、またブレーキの効き具合も大幅に低下し危険です。

サービス・ブレーキ

ライニングとドラムのすきま調整



- ① 調整する車輪をジャッキ・アップします。
- ② 車輪を手で前進方向に回し、ブレーキ・ペダルを踏み回転を止めシューを落ち着かせます。
- ③ 調整孔のラバー・プラグを外し特殊工具のシュー・アジャスタ・レバー (09665-1130) を挿入し、ドラムが手でかろうじて回る程度までノッチを回転させ (矢印方向) この状態から5-7ノッチ戻し (矢印の逆方向) ます。
なお調整は1輪につき2箇所確実に行ってください。
- ④ 調整後、タイヤをまわしてブレーキをかけた時、タイヤがロックするかどうかわかるかブレーキの効き具合およびライニングの引きずりの有無を点検してください。

- 引きずりのある場合は、③の項からやり直してください。
- ⑤ 最後に安全な場所で徐行して、ブレーキ・テストを行い、ブレーキの効き具合、片効き、その他の異常がないことも確認してください。

- ジャッキ・アップ時は、必ずジャッキ・アップ軸以外のタイヤの前後に輪止めを掛けておいてください。
- ブレーキ調整は、左右輪が同じになるようにします。左右輪の調整が異なるとブレーキ片効きの原因となります。

調整時、取り外したラバー・プラグは確実に取り付けてください。

ホースおよびパイプの点検

他部と接触していないか、固定用のクリップなどがゆるんでいないか、また、傷、液漏れなどが点検し、不具合が認められましたら確実に修理してください。

また、冬期、雪道、融雪路など、乾燥路以外を走行後、および運行前点検時、フレームからホイール・シリンダ間のオイル・ホースに雪、水の付着で凍結したかたまりが付着していないか点検します。

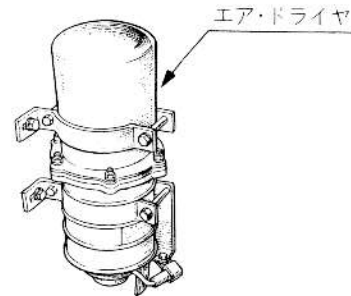
付着している場合は、ホースを傷付けないよう注意し、払い落としてください。

雪や泥などのかたまりが付着したまま走行しますとホースの破損などの原因となり危険です。

なお、ステアリングのリンク類にも付着していないか点検してください。

エア・ドライヤ

Air dryer.



エア・ドライヤは圧縮空気中に含まれている水分を乾燥剤を利用して除去し、自動的に排水するものです。

〔日常点検〕

正常に作動しているか、運行前のエア・タンク凝水点検により水が出ないことを確認してください。ただし、エア・タンクの温度低下が、16℃以上（昼間エアを充填し、早朝ドレーンするような場合）あると、少量の水が出る場合があります。

Drain excess water out of air dryer every three months or 15,000 klms.

Once per year or every 60,000 klms. overhaul dryer.

1/5以上変色している場合は、新しい乾燥剤、フィルタ、シートに交換してください。同時にOリングなど全てのゴム部品も新しいものに交換してください。

② エア・ドライヤから排出される水を良く見てください。異常にオイルが出るようでしたらエア・コンプレッサを点検してください。

〔1年または、60,000kmごとの点検〕

エア・ドライヤを分解し、乾燥剤が劣化していないか点検し、乾燥剤がオイルで1/5以上変色している場合は、新しい乾燥剤、フィルタ、シートに交換してください。同時にOリングなど全てのゴム部品も新しいものに交換してください。

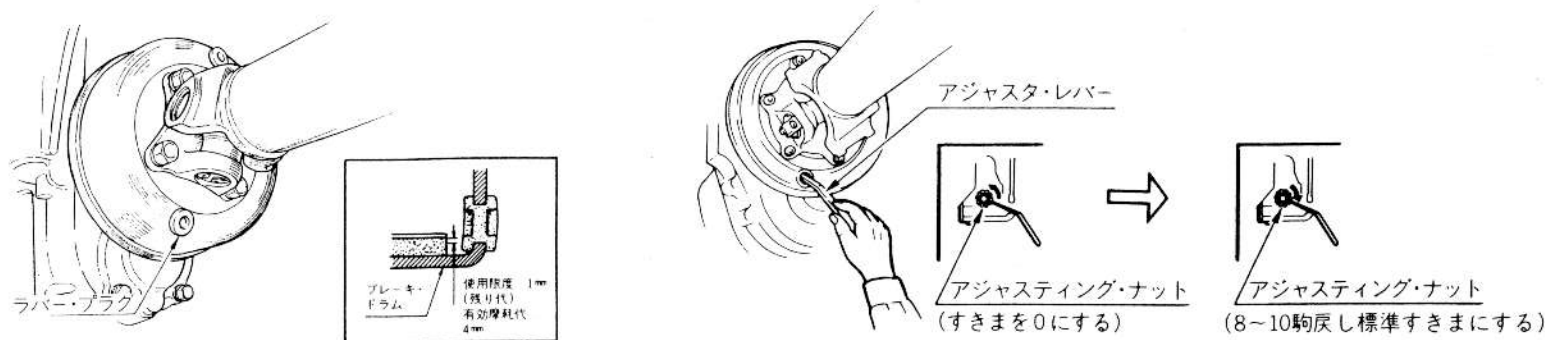
〔定期交換〕

1年または100,000km走行ごとに乾燥剤およびOリングなど全てのゴム部品を交換してください。

エア・ドライヤの分解点検、および乾燥剤、Oリングの交換は最寄りの日野サービス工場で行ってください。

パーキング・ブレーキ

点検、調整



パーキング・ブレーキ・レバーの引き代がラチェットの山数で7山以上になった場合は、ライニングの摩耗量の点検およびライニングとドラムのすきまを調整してください。

〔ライニング摩耗量の点検〕

ドラム後部の点検孔ラバー・プラグを外し、摩耗状況を点検します。

ライニングの厚さが1mmになった場合は、使用限度ですのでライニングの交換が必要です。

ライニング厚さ

標準厚さ	使用限度 (残り代)
5 mm	1 mm

〔ドラムとライニングのすきま調整〕

- ① ドラムのラバー・プラグを外します。
- ② 調整孔（点検孔）を下端の位置に合わせます。
- ③ ドライバまたは特殊工具のシュー・アジャスタ・レバーを調整孔より差し込み、アジャスティング・ナットをドラムに打刻されている矢印方向に一杯回転させドラムとライニングのすきまを0にします。
- ④ 上記状態からアジャスティング・ナットを逆方向に8～10駒戻してください。以上の調整により標準すきまが得られます

ドラムとライニングのすきま

標準すきま	調整限度
0.3～0.35mm	0.5mm

ドラムとライニングのすきま調整は、パーキング・ブレーキを開放した状態で行いますので、必ず車両を平坦な場所に停車させ、全輪のタイヤに輪止めを掛けて車両を確実に固定してから行ってください。

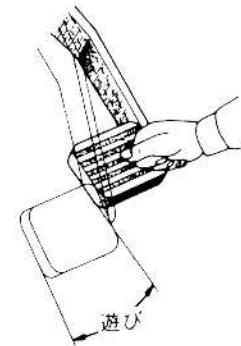
点検調整後、取り外したラバー・プラグは確実に取り付けてください。

点 検

クラッチは使用するにしたがい、クラッチ・ディスクが摩耗し、クラッチ・ペダルの遊びが少なくなり、やがてクラッチが滑るようになります。

逆に、ペダルの遊びが多すぎると、クラッチの切れが悪くなり、ギヤ・チェンジが難しくなります。

クラッチの点検は、別添「整備手帳」にしたがって実施し、具合の悪い場合は、最寄りの日野サービス工場で修理してください。



Clutch adjustment and free play.

ペダ
抗を感
代が遊

こ抵
かき

Normal clutch movement
is 40-55mm.

クラッチ・ペダルの遊び

標 準	限 度
40~55mm	30mm →

If clutch movement reaches 30mm
re-adjust clutch back to 40 – 55 mm.

【クラッチの作用】

- ① アイドリング状態で、クラッチ・ペダルを踏み込んだ時、異音がしないか、異常に重たくないか点検します。
- ② チェンジ・レバーが1速または後退の位置へ容易に変速できるか点検します。
- ③ クラッチ・ペダルを徐々に離して発進した時、滑りがなく接続がなめらかであるか点検します。

点検時、異常が認められる場合は最寄りの日野サービス工場で点検修理を行ってください。

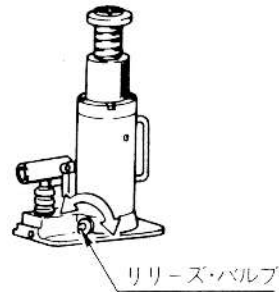
タイヤ

ジャッキの取り扱い



【ジャッキの使い方】

- 上げる場合（ジャッキ・アップ）
ジャッキ・アップ・ポイントが高い場合には、ジャッキ頭部を左に回し、伸ばします。
次にジャッキ・アップ・レバーをソケットに差し込み上下に動かすとジャッキ・アップできます。
ジャッキ・アップ時リリース・バルブを右一杯に回しておいてください。



● 降ろす場合

- ジャッキを降ろす場合は図のようにリリース・バルブを左に静かに回すとジャッキが降りてきます。
使用後、リリース・バルブを右一杯に回しておいてください。

タイヤの交換

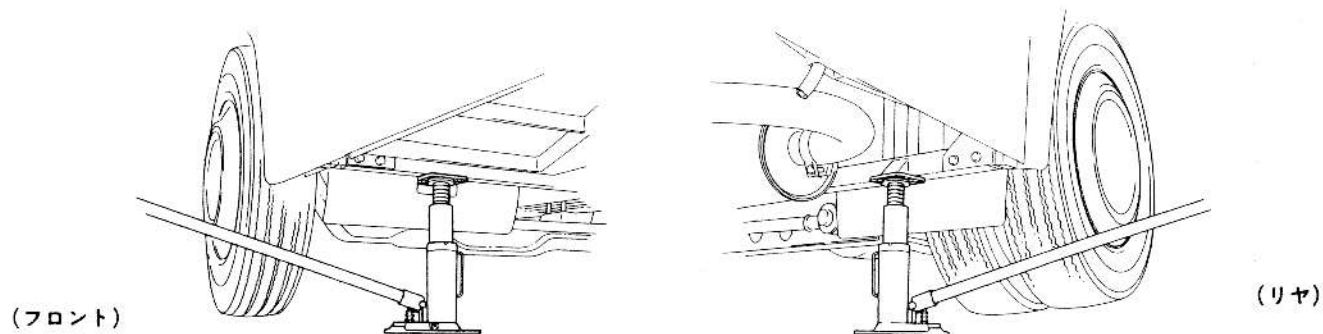
【タイヤの取り外し】

- ① フロント・タイヤを外す場合は、パーキング・ブレーキを効かせ、リヤ・タイヤに輪止めを行います。また、リヤ・タイヤを外す場合は、左右のフロント・タイヤに輪止めを行います。
- ② ホイール・レンチでホイール・ナットをゆるめます。

右側タイヤは右ねじ、左側タイヤは左ねじです。
- ③ フロント・タイヤの場合は、フロント・アクスル付近、リヤ・タイヤの場合は、リヤ・アクスル付近のジャッキ・アップ・ポイントにジャッキを掛けてアクスルをジャッキ・アップします。

タイヤ

タイヤの交換



- ④ ダブル・タイヤを外すときは、最初にアウト・ホイール・ナットを外して外側タイヤを外してから、いったん降ろし、インナー・ホイール・ナットをゆるめ、同様に内側のタイヤを取り外します。

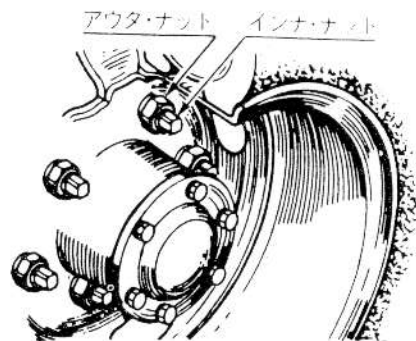
タイヤの交換は平坦地を選び、坂道および地面の柔らかい所での交換はすべったりして思わぬ事故となりますので避けてください。

- ジャッキは必ずアクスル下面のジャッキ・アップ・ポイントに当てがってください。ジャッキ・アップ・ポイント以外は危険防止のため、ジャッキを掛けないでください。
- 油脂類が付着している場合には完全に拭き取ってからジャッキを掛けてください。
- ジャッキ・アップ中は危険ですからエンジンをかけないでください。

- ジャッキ・アップ時、ジャッキがジャッキ・アップ・ポイント部に確実に掛かっていることを確かめてからタイヤを浮かせてください。
- ジャッキ・アップ時は、車両の下に入らないでください。万一、ジャッキが外れると非常に危険です。
- 長時間ジャッキ・アップしておく時は、安全のため、ブロック、角材などで車両を支えてください。

タイヤ

タイヤの交換

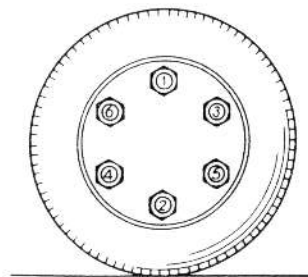


〔タイヤの取り付け〕

- ① ホイール・ボルト、ナットのねじ部およびディスク・ホイールの取り付け面をよく清掃します。また、ホイール、ボルト、ナットのねじ部が損耗しているもの、ディスク・ホイールに変形や亀裂があるものは交換してください。

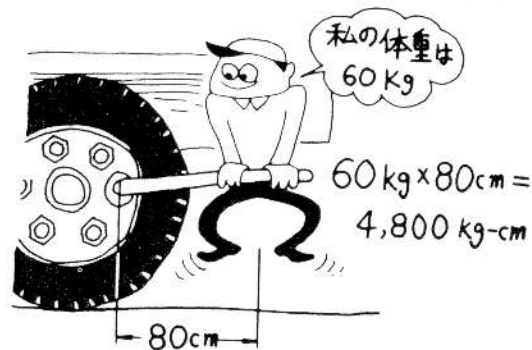
交換部品は必ず日野純正部品をお使いください。

- ② ホイール・ボルト、ホイール・ナットのねじ部およびホイール・ナットの球面部にエンジン・オイルまたはグリースを塗布してください。



対角締め締め付け順番例

- ③ ディスク・ホイールのボルト穴をホイール・ボルトに合わせながらタイヤに取り付けます。
- ④ ホイール・ボルトがディスク・ホイールのボルト穴の中央になるようにタイヤをセットし、タイヤがガタつかない程度にホイール・ナットを仮り締めします。ナットのテーパ面がディスク・ホイール側です。
- ⑤ ジャッキのリリーズ・バルブを左に回してタイヤを静かに降ろします。
- ⑥ ホイール・ナットを対角線上に2～3回に分けて締め付けます。また、ダブル・タイヤは内側タイヤ(インナ・ホイール・ナット)を締め付けてから外側タイヤ(アウト・ホイール・ナット)を締め付けてください。



- ⑦ 最後に規定の締め付けトルクにてホイール・ナットを締め付けてください。

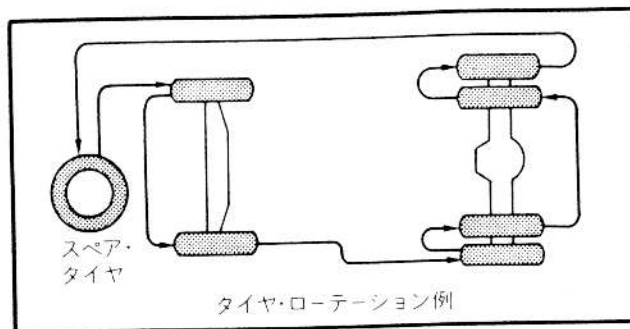
● 締め付けトルク……………4,000～4,800kgcm

ダブル・タイヤの外側タイヤを交換する時は、必ずインナ・ホイール・ナットを締め付けてから、アウト・ホイール・ナットを締め付けてください。

タイヤの交換

- ホイール・ナットを締め付ける場合は、ねじ部の泥などを十分落とし、ホイール・ボルト、ホイール・ナットのねじ部およびホイール・ナットの球分部にエンジン・オイルまたはグリースを塗布してから締め付けてください。
- タイヤ交換後は、初期なじみがありますので、50~100km走行後に規定締め付けるトルクで増し締めを行ってください。

Tyre rotation.



タイヤは道路の状況、ブレーキ操作などによりそれぞれ異なった摩耗をします。したがって、タイヤの摩耗を均等にし、寿命をのばすために5,000km走行ごとに位置交換をしてください。

〔タイヤ位置交換の注意〕

- 配置換えは、以前の回転方向と逆になるように取り付けてください。
- 新品タイヤは発熱しやすく、摩耗が進みやすいため、荷重の少ない前輪側に2本1組で取り付けてください。

- タイヤは傷などのないもの、さらにホイール・バランスを取ったものを使用してください。
- 同一軸には、必ず同じ形式のタイヤを使用します。同一軸内で異なる形式のタイヤを使用すると、制動時などに車両が左右に流れたりハンドルを取られたりする原因となります。
- 時々ディスク・ホイールを組み換えて、タイヤを裏返しにしてください。
- ダブル・タイヤに組み付ける際は、外径差の許容範囲内とし、外径の小さいタイヤを内側に組み付けてください。

内側と外側タイヤの外径差

バイアス・タイヤ (一般)	ラジアル・タイヤ
8mm以内	6mm以内

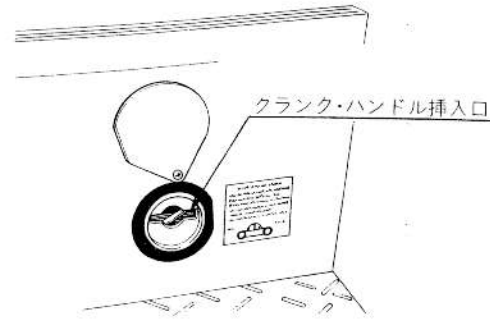
タイヤ

タイヤ・ローテーション (位置交換)

構造の違うタイヤ (バイアス・タイヤとラジアル・タイヤなど) の混用装着はしないでください。
混用すると操縦性、安定性が非常に悪く危険です。

タイヤ・ローテーション後は、初期なじみがありますので、50~100km走行後、規定締め付けトルクでホイール・ナットの増し締めを行ってください。

スペア・タイヤの取り扱い

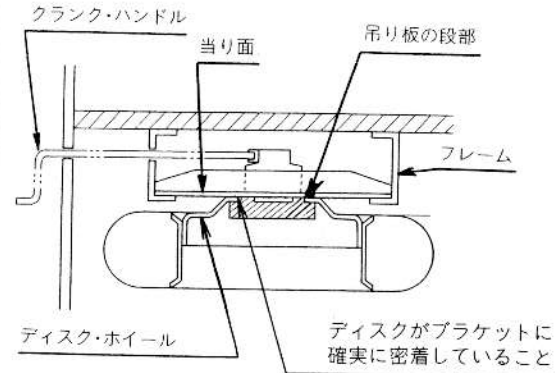


〔スペア・タイヤの脱着要領〕

キャリアのスクリュにハンドルを差し込み、左に回せばスペア・タイヤが降ります。

スペア・タイヤをキャリアに取り付ける時は次の点に注意します。

- ① ディスク・ホイールは凸側を上にして、キャリア吊板のつめを、しっかりと合わせます。
- ② 巻上げる時はチェーンがねじれていないことを確認します。ねじれたままタイヤを取り付けると、走行中にチェーンがゆるむことがあります。
- ③ 巻上げ後、キャリア・ハンドルを30~40kgの力 (大人の片手で力一杯) で締め上げて、タイヤを固定します。



- ④ スペア・タイヤを取り付けた後、足で強く押してガタのないことを確認します。

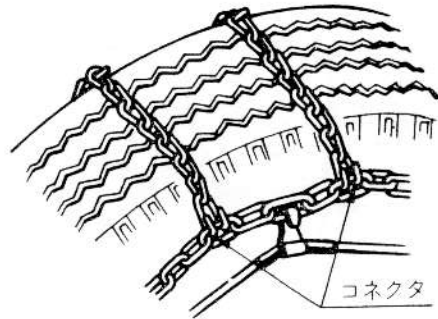
ガタがある時は、ブラケットや吊板の変形など異常がないことを確認し、再度締め上げてください。

なお、吊り板やビーム (ブラケット) がタイヤ接地などにより変形した場合は、締め付けが不完全となり、スペア・タイヤの脱落につながるため、必ず正常品と交換してください。

締め付けが不完全ですと走行中の振動でゆるみ、スペア・タイヤが「ガタ」ついたり、落下することがありますので十分注意してください。

タイヤ

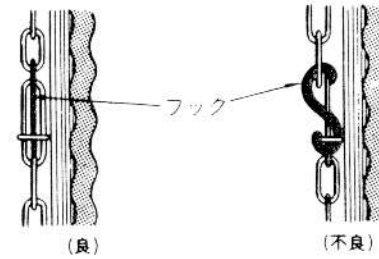
タイヤ・チェーンの取り扱い



雪道や凍結した路面または泥濘地を安全に走行するためには、タイヤ・チェーンの装着が必要です。

〔取り扱いについての注意〕

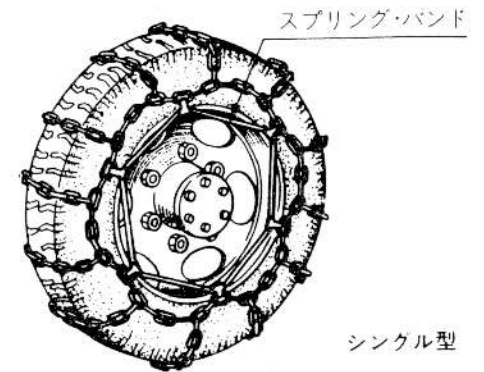
- タイヤ・チェーンを取り付ける前にチェーンの傷、摩耗について点検してください。
- タイヤ・チェーンは必ずタイヤと同じサイズのものを使用し、駆動輪に装着してください。
- タイヤ・チェーンはゆるみのないように取り付け、5～10分走行後にゆるみがないか点検し、走行中は常にタイヤ・チェーンの取り付け状態に留意してください。



- タイヤ・チェーンはコネクタの折り曲げ部がタイヤの外側に向くよう取り付けてください。
- 内側フックはチェーンの環が余らないように掛け、内側チェーンのたるみをなくしてから外側フックを掛けます。

フックはタイヤ側面に対し、フックが平になるように掛け、またチェーンのねじれ、曲がりについても注意します。

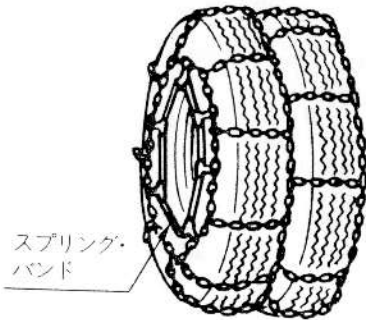
またチェーンが余った時は、端末をワイヤなどで固定し他の部位と接触するのを防いでください。



- スプリング・バンドは外側チェーンに対し3ヶ所以上バランスが取れるように掛けてください。
- ダブル・タイヤに使用する場合は、安全性からもトリプル・チェーンを使用してください。

タイヤ

タイヤ・チェーンの取り扱い

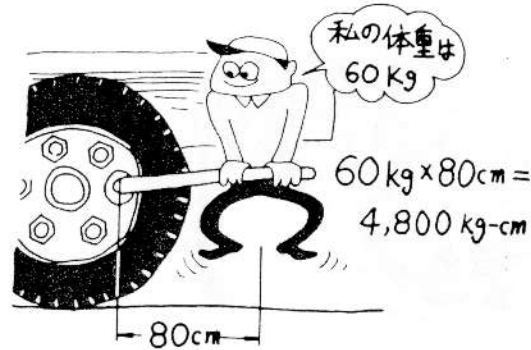


トリプル型

タイヤ・チェーンを装着すると、大きな駆動力は得られますが、横すべり防止には効果がありませんので注意してください。

ホイール

ホイール・ナットの点検



1カ月ごとにホイール・ボルトおよびホイール・ナットの締め付け状態を点検してください。

ディスク・ホイールやホイール・ボルト、ホイール・ナット交換後およびタイヤ・ローテーション後は、初期なじみがありますので、50~100km走行後、規定締め付けトルクで増し締めを行ってください。

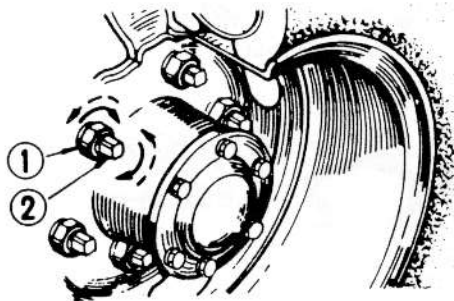
[ホイール・ナットの点検]

ホイール・ナット（前輪）およびホイール・ナット・インナ、アウト（後輪）にゆるみがないかをホイール・ナット・レンチを使って点検します。

[点検要領]

- 前輪（シングル・タイヤ）
ホイール・ナット①を規定トルクで締め付けます。
- 締め付けトルク……4,000~4,800kgcm
- 後輪（ダブル・タイヤ）
 - ① アウト・ホイール・ナット①をゆるめます。
 - ② インナ・ホイール・ナット②を締め付けます。
 - ③ アウト・ホイール・ナット①を締め付けます。
- 締め付けトルク……4,000~4,800kgcm

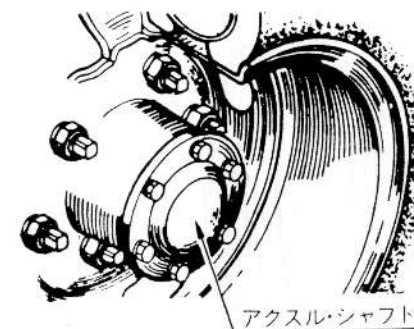
ホイール・ナットの点検



- ホイール・ナットおよびホイール・ナット・インナ、アウトのねじは、車の右側のは右ねじ、左側のは左ねじになっていますので、締め付け方向に十分注意してください。
- ホイール・ナットを締め付ける場合は、ねじ部の泥などを十分落とし、ホイール・ボルト、ホイール・ナットのねじ部およびホイール・ナットの球面部にエンジン・オイルまたはグリースを塗布してから締め付けてください。

- ホイール・ナットのゆるみおよびナットの締め過ぎは折損やディスク・ホイールに亀裂を生じ、脱輪の原因ともなりますので十分注意してください。
- ダブル・タイヤの点検の時は、アウト・ホイール・ナットだけでなくインナ・ホイール・ナットも忘れずに締め付けてください。

アクスル・シャフトの点検



[アクスル・シャフトの取り付けボルトの点検]

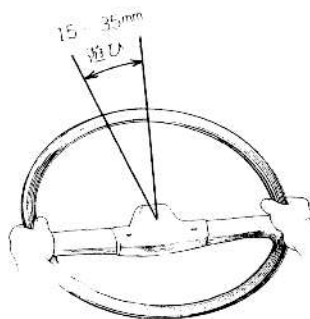
1ヵ月ごとにアクスル・シャフトのボルトにゆるみがないか点検してください。

- 締め付けトルク……………870~1100kgcm

ステアリング

Steering wheel.

ステアリングは、ブレーキと共に保安上重要な役割を持っています。点検時、異常が認められた場合は直ちに最寄りの日野サービス工場で修理してください。

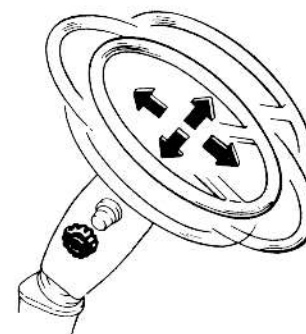


Free play should be
between 15 - 35mm.

標準	15~35mm
限度	50mm

- ① 前車輪を直進方向に正しく向けてから、ステアリング・ホイールを左右に軽く回して遊びを点検します。

ハンドルの遊びは、必ずエンジンをかけた状態で点検してください。



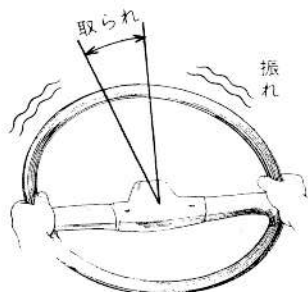
- ② 次に、ステアリング・ホイールを前後、左右、上下に動かして、大きなガタがないかを確認します。

ティルトおよび上下調整機構付きのため、若干のガタはありますが異常ではありません。

アジャスタブル・ノブは確実に締め付けられているか確認してください。

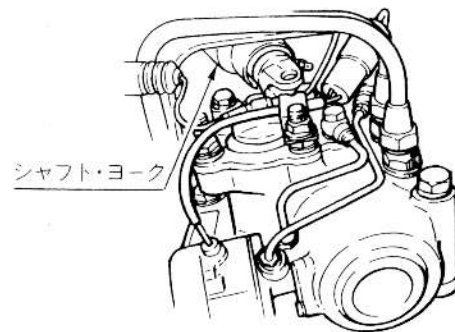
ステアリング

点 検



〔ハンドルの揺れ，取られ〕

ハンドルが異常に振れたり，左または右方向に取られたり，また異常に重くないか点検します。



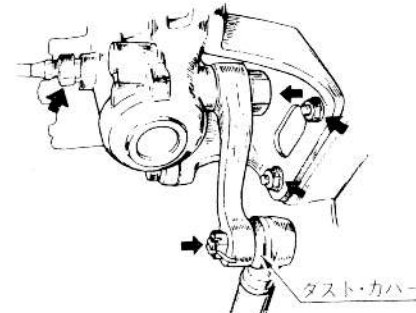
〔ギヤ・ボックスおよびシャフト・ヨーク関係〕

取り付け部のゆるみ，パイプ類からの油漏れ，ウォーム・シャフトのヨーク締め付けナットのゆるみおよびスプラインの給脂状態とガタの有無を点検します。

なお，スプライン部給脂後，最初のステアリング・ホイールの高さ調整は，多少重くなりますが異常ではありません。

〔オイル・パイプおよびオイル・ホース関係〕

他部と接触していないか，また傷，液漏れはないか十分点検してください。

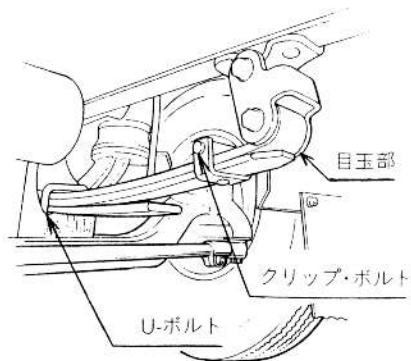


〔各部の損傷および亀裂〕

ステアリング装置に亀裂，摩耗および変形などがないか目視で点検します。

ダスト・カバーに摩耗や外れがあると内部のグリースが流れたり，汚れたりして関連部品の機能，寿命に影響しますので不具合が認められた場合には速やかに最寄りの日野サービス工場で点検，修理を受けてください。

点 検

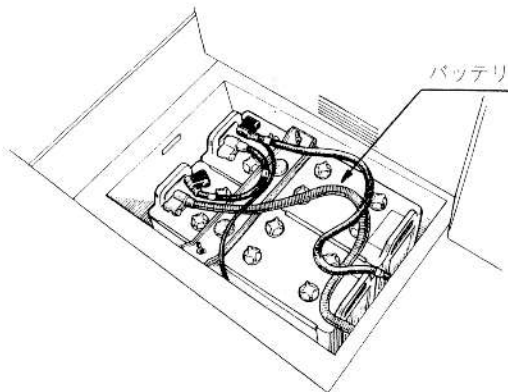


シャシ・スプリングの不具合は、乗り心地、走行安定性に悪影響をおよぼします。

3カ月ごとに、シャシ・スプリング回りに異常がないか点検してください。

- ①Uボルトのゆるみ
- ②リーフの折損
- ③クリップ・ボルトの脱落
- ④ショック・アブソーバの油漏れ
- リーフのNo.1とNo.2の目玉部にすきまがないものは折損と判断されます。
- インタ・リーフの摩耗限度は、先端厚み（うすいところ）が0.6mmになったら交換が必要です。

点 検



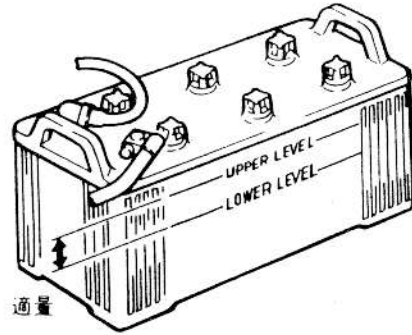
この車の電気装置は12Vのバッテリーを2個直列に接続した24Vでマイナス・アース式を採用し、走行中オルタネータ（発電機）で充電されるようになっています。

バッテリーを長もちさせるため、1カ月ごとに（夏は2週間ごと）液量を、3カ月ごとに比重を点検してください。

- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くでは火気を使用したり、火花を飛ばさないようにしてください。バッテリーに引火しますと爆発する恐れがあり、非常に危険です。
- バッテリー液は希硫酸ですから、皮ふや衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。もし、皮ふや衣服に付着した時は石けんで十分洗い、また万一、眼に入った時は直ちに清水で十分洗ってから医師の治療を受けてください。

バッテリー

点検



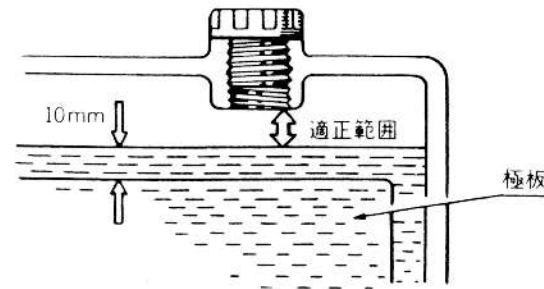
〔液量〕

液面がケース側面の「UPPER」、「LOWER」レベル・ラインの間であれば正常です。

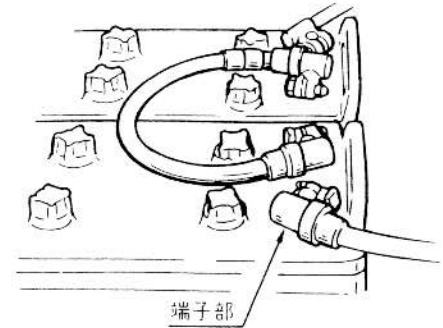
不足の場合は補充液または蒸留水を補給してください。

なお、レベル・ラインが1本のものもありますが、この時は「LOWER」レベルを示しています。

また、レベル・ラインがないバッテリーは極板上10mm以上あれば正常です。補給する時はケース下面に液面が接するまで入れてください。



- 補充時、「UPPER」レベルを超えないよう注意してください。
- 補充した時は、必ず充電（走行）してください。特に冬期はバッテリーが凍結する恐れがあります。



〔端子部〕

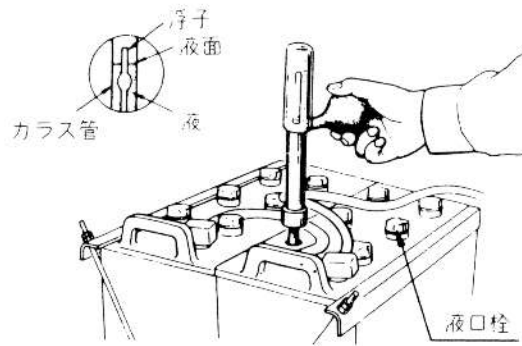
端子のゆるみ、および腐蝕したりしていないか点検します。

端子部が腐蝕して白い粉が付着している時は、湯で洗いきよく拭きとってから薄くグリースを塗布してください。

点検、清掃後、ゆるみが生じないように確実に端子を締め付けてください。

バッテリー

点 検



【比 重】

バッテリーの比重は比重計で測定します。比重が低い場合は、充電してください。

バッテリー標準比重………1.270～1.290

比 重 (液温20℃)	
1.300以上	高すぎ (調整する)
1.220～1.300	良 好
1.100～1.220	不 足 (充電する)
1.100未満	低すぎ (充電後再測定)

比重が1.300以上のときは、最寄りの日野サービス工場で調整してください。

充電時の注意

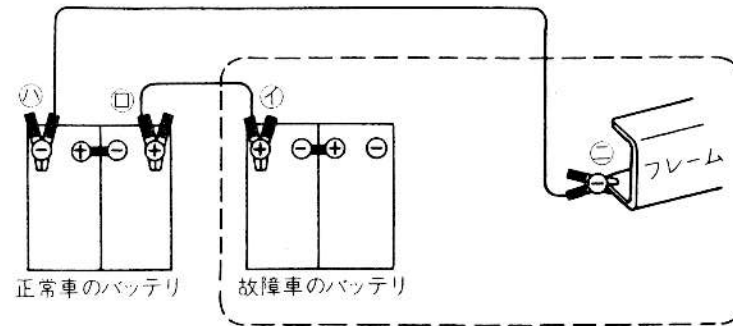
- 充電器で充電する場合は、バッテリーを車両から取り外すか、またはバッテリー端子を外し液口栓を外してから、風通しの良い所で行ってください。
- 急速充電する場合は、必ずバッテリー端子を外してください。外さないとオルタネータのダイオードが焼損することがあります。
- 充電器のクリップをバッテリー端子に接続したり取り外す時は、充電器のスイッチを切ってください。
- バッテリーを車両に取り付ける時は、ガタ付きがないように取り付けてください。取り付けが不完全ですと走行中の振動でケースや極板を傷めることがあります。また、バッテリー・コードの端子と接続部外回りに、オイルかグリスを薄く塗っておくと腐蝕されにくくなります。

一般的注意

- バッテリーを含め電気系統の点検、整備を行う場合は、安全のためスタータ・スイッチや他のスイッチを「OFF」にした後、⊖端子を外してから行ってください。
- ⊖側が接続されていると、工具などが⊕端子と車体に触った時にショートして危険ですし、電気系統の故障の原因になります。
- 電解液は希硫酸ですから皮ふや衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。
- バッテリーを取り外す時は、必ず⊖側端子（アース側）から、取り付けの時は⊖側端子を最後にしてください。
- バッテリーの⊕端子と⊖端子を逆に接続しないでください。極性を逆にすると過大電流が流れオルタネータのダイオードや車体配線が焼損することがあります。
- バッテリーから直接12Vの電源を取り出さないでください。また、24Vの電気負荷を追加する場合は、最寄りの日野サービス工場にご相談ください。
- バッテリーは常に清潔にしておいてください。汚れたままにしておくと、電解液中に不純物が混入して極板を傷めたり、蓋上面でリーク（漏電）し、バッテリーの寿命を短くすることがあります。

バッテリー

ブースタ・ケーブルの取り扱い



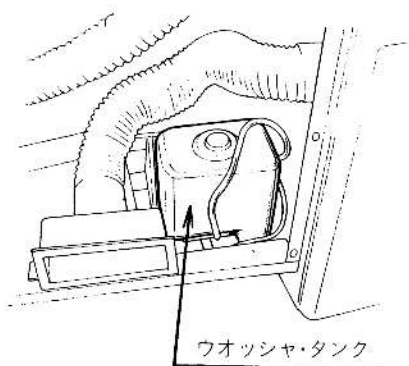
バッテリー上がりによりブースタ・ケーブルで他車のバッテリーと接続してエンジンを始動させる時は、必ず次の順序で注意深く行ってください。

- ① 良好なバッテリーを有する車両のエンジンを停止させます。
- ② ①のように赤色ブースタ・ケーブルのクリップを放電バッテリーの⊕端子につなぎ、他方を⊖のように正常車のバッテリー⊕端子にしっかり接続します。
- ③ もう一本の黒色ブースタ・ケーブルの⊖クリップを③のように正常車の⊖端子につなぎ、最後に他方を⊖のように故障車のエンジン・ブロックかバッテリーからできるだけ離れたフレームに接続します。
最後の接続時にはスパークしますからバッテリーよりできるだけ離れた位置に取り付けます。
- ④ 接続後、故障車のエンジンを始動させます。寒冷時でエンジンがかかりにくい時は、正常車のエンジンを始動させ数分たってから故障車のエンジンを始動させてください。
- ⑤ エンジン始動後、ブースタ・ケーブルを接続の逆の順序で取り外してください。

ウインド・ウォッシャー

Window washer tank.

ウォッシャー液の補給



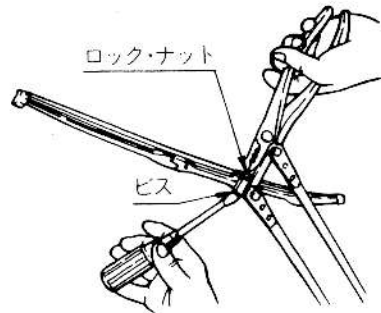
〔補給要領〕

タンク上部のキャップを外し、ウォッシャー液を補給します。

ウォッシャー液の原液と水との希釈割合は外気温により異なりますので、次の割合を参考にしてください。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1:水2	-10℃程度
寒冷地の冬期	原液1:水1	-20℃程度

ウォッシャー液の原液には揮発剤が含まれていますので火気には注意してください。



〔取り外し〕

- ① ワイパ・アームを軽く手前に起こします
- ② ワイパ・ブレードをはめ込んであるアーム先端ブラケットのロック・ナットをゆるめ、ブレードをアームより取り外します。

ブレードを取り外したままアームを倒したり、ワイパを作動させると車体やウィンド・ガラスに傷が付く恐れがあります。

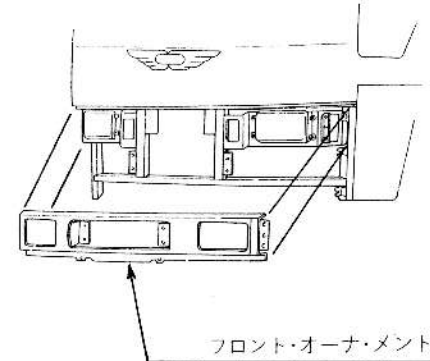
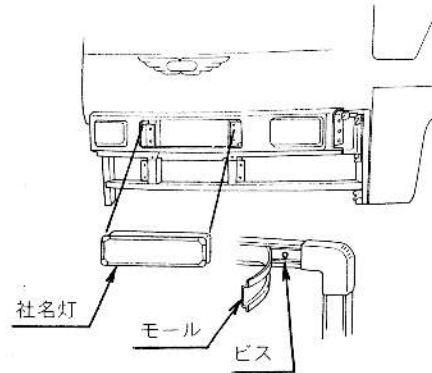
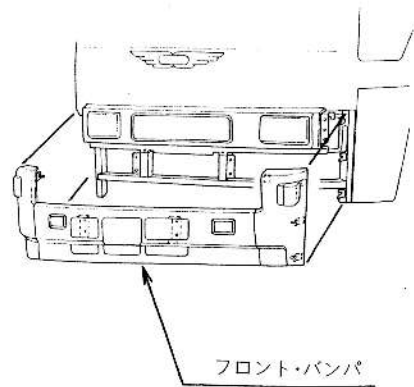
〔取り付け〕

ブレードの取り付けは、取り外しの逆順に行ってください。

- 取り付け後、ウィンド・ウォッシャを併用し、ワイパを作動させ、払拭状態を確認してください。
- 交換部品は、日野純正部品を使用してください。

ランプ類

ヘッド・ランプの交換



〔取り外し〕

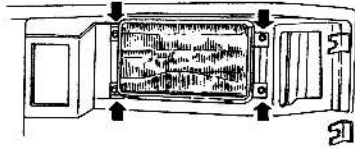
- ① コンビネーション・ランプ取り付けボルト4本外した後、ランプ後部のソケットを抜き取りコンビネーション・ランプを取り外します。
- ② フロント・バンパの取り付けボルト12本を取り外した後、フォグ・ランプのソケットを抜き取り、フォグ・ランプ付きでフロントバンパを取り外します。

- ③ 社名灯装着車の場合は、社名灯の四すみのモールをはがし、取り付けビス4本をゆるめ社名灯を取り外します。

- ④ 次にフロント・オーナ・メントの取り付けボルトをゆるめ、オーナ・メントを取り外します。

ランプ類

ヘッド・ランプの交換



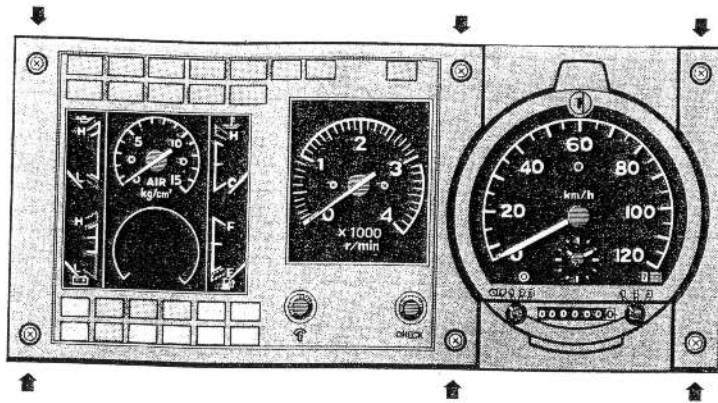
- ⑤ 電球の周囲4本のボルトをゆるめて取り外した後、ヘッド・ランプを手前に引き出し、後部のソケットを抜き取ります。

[取り付け]

取り外しの逆の順序で行います。

ランプ類

その他のランプ類の交換



各ランプのバルブは、レンズおよびリムを締め付けているビスをゆるめて取り外した後、バルブを押しながら左に回せば取り外せます。

なお、レンズを取り付ける時は水滴が入らないようパッキンを密着させて取り付けてください。

バルブはランプの種類により異なりますので、バルブが切れた場合、同じワット数のものを使用してください。

メータ・パネルの4本のビスを外すと、メータの照明ランプおよびウォーニングおよびインジケータ・ランプ類が交換できます。

ランプ類

ランプ類一覧表

ランプ類の交換を行うときは、必ず、スタータ・スイッチおよびその他のスイッチを「OFF」にしてから行ってください。

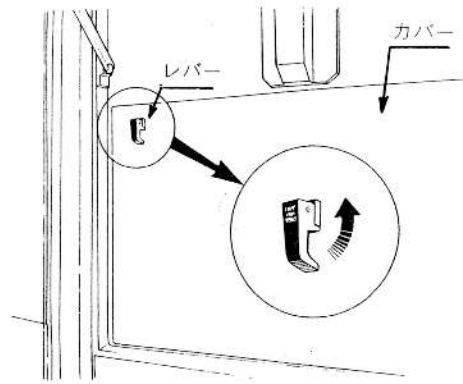
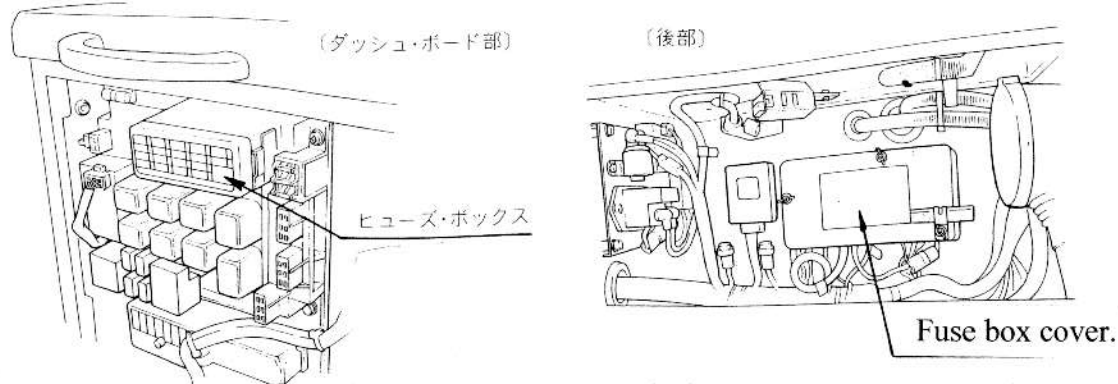
ランプ類は必ず規定ワット数のものを使用してください。

規定ワット数以外のものを使用しますとレンズやケースの変形および火災の原因になります。

Warning light wattages.		容 量
1	Head lamp.	24V-75/70W
2	Fog lamp.	24V-35W
3	ウインカ・ランプ	24V-25W
	Combination warning light. キング・ランプ (フロント)	24V-5W
4	サイド・ウインカ	24V-5W
	Warning light. オイル・プレッシャ、エア・プレッシャ、ウォータ・レベル、ブレーキ レベル、ストップ・ランプ、オーバ・ヒート、インタ・クーラ・オー バ・ヒート、チャージ	24V-1.4W
5	Indicator light. パーキング・ブレーキ、ターン・シグナル、ブレ・ヒート、ハイ・ビー ム、エキゾースト・ブレーキ、ドア・タンク、ステップ確認、エアコン	24V-1.4W
6	Instrument lights.	24V-3W
7	Passenger lighting.	24V-24W,6W
8	Indicator lamp. (リヤ)	24V-25W
9	Stop light. Parking light. Reversing light.	24V-25W/10W
10	Number plate light. Parking light.	24V-35W
11	Parking light.	24V-12W
12	Heater control light. ランプ	24V-1.4W

ヒューズ, ヒューズブル・リンク, 配線関係

Main fuse Box.



ヒューズ・ボックスは、ダッシュ・ボード左側下部にあります。

また、ヒューズは車両後部右側の電装品ボックスに設けてあります。

- ヒューズ交換の場合は予めバッテリー・リレー・スイッチ、およびその他のスイッチを「OFF」にしてください。

なお、ハザード、タコグラフのヒューズには、バッテリー・リレー・スイッチを「OFF」にしても電気がきていますので、このヒューズを取り外してください。

- ヒューズ切れの有無の点検は、ヒューズを取り外さないと確認できません。該当すると思われるヒューズを取り外して確認してください。

- Located behind passenger side front cover.

- ヒューズ類は必ず規定のアンペアのものを使用してください。また、ヒューズの代わりに針金や銅線を使うことは絶対にしないでください。規定アンペア以外のものを使用しますと火災の原因となる恐れがあります。
- 何度もヒューズが切れる場合は、速やかに最寄りの日野サービス工場にて点検、修理を受けてください。

なお、車両後部の電装品ボックスを開ける場合は、レバー2箇所を一旦真横にした後、垂直に立て、ロックを解除した後、カバーを引き上げると開けることができます。

Spare fuses are located in the fuse box inside rear engine bay on RHS.

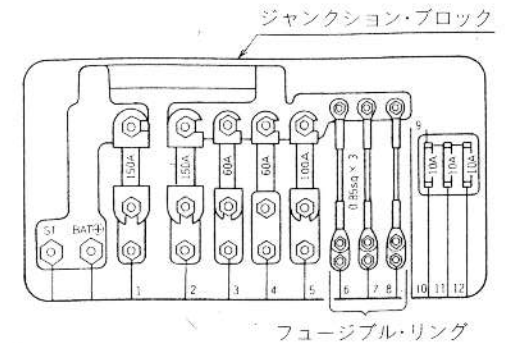
ヒューズ, ヒュージブル・リンク, 配線関係

Fuse box layout.

ラジオ ステレオ シガライタ	1 10A	予備(OPT) パワー ステアリング	2 10A	ヘッドランプ メイン(右)	3 10A	スタークセイ フティSW	4 10A	エンジン ストップ	5 10A
ワイパ ウォッシャ	6 10A	メータ バックランプ EXH.ブレーキ	7 10A	ヘッドランプ メイン(左)	8 10A	フォグランプ	9 10A	ヒータ	10 15A
ストップ ランプ	11 10A	レギュレータ	12 10A	ヘッドランプ ディマ(右)	13 10A	テール,ライセンス クリアランスラ	14 10A	ヒューズ 抜き	19
ターニング ナルランプ	15 10A	エア ドライヤ	16 10A	ヘッドランプ ディマ(左)	17 10A	予備	18 10A		

指定のヒューズ以外は使用しないでください。

Main fusible links.



1. Radio, stereo, cigarette lighter.
2. Spare & power steering.
3. RHS headlight.
4. Starter safety switch.
5. Engine stop switch.
6. Wiper / washer.
7. Instrument panel, rear light, exhaust brake light.
8. LHS headlight.
9. Fog lights.
10. Heater.
11. Stop light.
12. Battery regulator.
13. RHS headlight dimmer.
14. Number plate light, tail light, clear lense light.
15. Turning indicators.
16. Air dryer.
17. LHS headlight dimmer.
18. Spare.
19. Fuse tool.

Important.
If fusible link melts, call auto electrician to locate cause.

Located in spare fuse box on RHS of rear engine bay.

ヒュージブル・リンクが溶断した時は直ちに最寄りの日野サービス工場にご連絡の上点検, 修理を受けてください。
ヒュージブル・リンクが溶断した時は被覆の一部が溶断時の熱でふくれたり, 溶けていますので判断できます。

ヒューズ、ヒューズブル・リンク、配線関係

配線関係

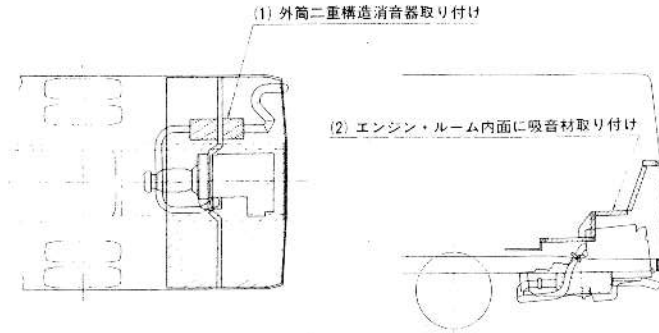
〔配線関係の注意〕

- 追加配線は行わないでください。
やむを得ず燈火器などを追加する場合は、最寄りの日野サービス工場を実施してください。
- 配線止めのクリップなどが正しく止められているかどうか点検してください。
配線の折れ曲がり、損傷、かみ込みなどは十分注意してください。
- 配線関係の不具合がある場合は速やかに最寄りの日野サービス工場で点検、修理を受けてください。

〔無線機関係の取り扱い〕

- 無線機を取り扱う場合は、申請し免許を受けることが定められています。
- 型式検定合格の無線機を使用する場合は、操作のための資格は必要としませんが、無線機の取り付けによる車両電子機器への悪影響も考えられますので最寄りの日野サービス工場でご相談の上実施してください。
- 通常車両無線機の電源は12V方式のため24Vの当車両には直接取り付けることはできませんのでご注意ください。

車外騒音に係わる部品の取り扱いと点検



〔車外騒音低減部位に関する取り扱い〕

- ① 上図部位については、保安基準で決められた規制値を満足させるために取り付けられたものであり、故意に改造とか取り外さないようにしてください。

なお、整備のため、取り外した場合は、必ず元通りに取り付けてください。

- ② これらの部位は本来の機能を果たすため損傷、腐蝕などによる機能劣化を防止するために「整備手帳」に従って点検してください。
- ③ マフラおよび排気管が損傷または腐蝕したりすると消音機能が低下する恐れがありますので点検し、異常がある場合は交換してください。

車の手入れ

車の外観を常に美しく保ち、性能、機能を十分発揮し、長くご使用戴くために次の手入れを行ってください。

〔洗車〕

ホースなどで水を掛けながら汚れを落としてください。

ボデー回りだけでなく、タイヤ・ハウス、フレーム、シャシ・スプリング、ブレーキ・パイプなども十分に洗ってください。

- 特に、塩害（海水）や薬害（凍結防止剤など）を受けやすい道路を走行した後は、良く洗車してください。

〔補修塗装〕

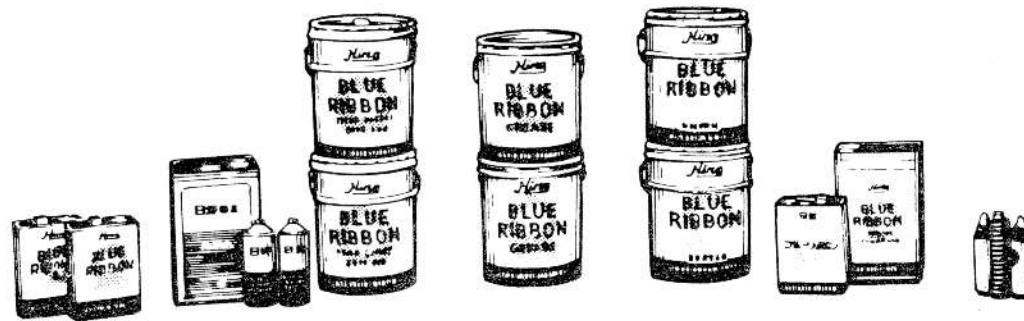
常に錆の発生の有無を点検し、錆のある場合は、きれいに除去し、補修塗装を実施してください。

また、月に1度程度のワックス掛けをお奨めします。

6. 給油および給脂

純正油脂類	130
油脂一覧表	131
給脂図	135
エンジン・オイル	136
• 交換	136
• 補給	137
トランスミッション・オイル	138
• 点検	138
• 交換	138
リヤ・アクスル・オイル	139
• 点検	139
• 交換	140
ブレーキ・フルード	141
• 点検, 補給	141
クラッチ・フルード	141
• 点検, 補給	142
パワー・ステアリング・オイル	143
• 点検, 補給	143
• 交換	143

純正油脂類



オイルおよびグリースの定期的な補給、交換は、車両の性能維持、寿命延長、事故防止などのために非常に重要ですので確実に実施してください。

日野純正油脂類は、これらの車両性能を満足するように作られておりますので、定期的な油脂類の補給、交換時は、日野純正油脂類の使用を推奨します。

〔オイルの補給および交換時の注意〕

- オイルの補給、交換後は、フィラ・プラグやドレーン・プラグ回りに付着したオイルをよく拭き取り、オイル漏れがないか必ず点検してください。
- オイル交換時は排油の受皿を必ず準備してください。
- 廃油は空地や溝などに絶対捨てないでください。
- 回りにたれたオイルは必ず拭き取っておいてください。そのままにしておくと火災発生の原因にもなり危険です。

〔給脂時の注意〕

- グリースが不足していると、早期摩耗により、各部からのガタや異音発生および焼き付きの原因となりますので常にグリースが保持されるようにしてください。
- 車両のシャシ部への給脂は原則としてシャシ下側から行ってください。

給油箇所	交換時期			指定〔推奨〕油脂名	容 量
	点検	補給	交換		
①エンジン・オイル・パン	運行前		7,500km	エンジン・オイル 日野純正 ブルーリボン・ビッグエクストラ CD級 (API分類) のSAE10W-30 ブルーリボン・ビッグ・スーパ (CD級) CD(API分類) のSAE20W-20 " " SAE30 " " SAE40	最高:7.5ℓ 最低:4.5ℓ 全油量:9.5ℓ
②トランスミッション・ケース	5,000km	5,000km	6ヵ月または 30,000km	ギヤ・オイル 日野純正 ブルー・リボン・ギヤ・オイル GL-3 (API分類) のSAE90	約5.5ℓ
③リヤ・アクスル・ハウジング	5,000km	5,000km	6ヵ月または 30,000km	ギヤ・オイル 日野純正 ブルーリボン・スーパ・ハイボイド ギヤ・オイル GL-5(API分類) のSAE90	約5ℓ
④パワー・ステアリング・オイル ・リザーバ	1ヵ月または 5,000km		1年または 60,000km	P・Sオイル 日野純正 ブルー・リボンATF (デキシロン・タイプ)	約3.5ℓ
⑤ブレーキ・オイル・リザーバ	運行前		1年	ブレーキ・クラッチ液 日野純正 ブレーキ&クラッチ・フルード 〔ゴールドen・クルーザ#1200〕	約1.1ℓ
⑥クラッチ・オイル・リザーバ	運行前		1年	ブレーキ・クラッチ液 日野純正 ブレーキ&クラッチ・フルード 〔ゴールドen・クルーザ#1200〕	約0.11ℓ
⑦クラッチ・リリース・スリーブ およびリリース・シャフト		5,000km		シャシ・グリース 日野純正 ブルーリボン・シャシ・グリース	適 量
⑧クラッチ・ペダル・シャフト	備考: 分解整備時				適 量

油脂類一覧表

給 油 脂 箇 所	交 換 時 期			指 定〔推 奨〕油 脂 名	容 量
	点 検	補 給	交 換		
⑨トランスミッション・コントロール・レバー		1年または 30,000km		シャシ・グリース 日野純正 ブルーリボン・シャシ・グリース	適 量
⑩エンジン・コントロール・ケーブル・ジョイント		1カ月または 5,000km			適 量
⑪プロペラ・シャフト・スプライン・ヨーク		4,000km			適 量
⑫ステアリング・シャフト・スプライン	1,000km	5,000km			交換：30cc 補給：15cc
⑬ステアリング・シャフト・ボール・ベアリング			1 年		適 量
⑭アクセル・ペダル・ピン		1カ月または 5,000km			適 量
⑮キング・ピン（アッパ・ロア）		6カ月または 30,000km			適 量
⑯スプリング・ピン（リヤ）		1カ月または 1,000km			適 量
⑰パーキング・ブレーキ・レバー・ピン		1カ月または 5,000km			適 量
⑱フロント・ホイール・ハブ			30,000km		リチウム系ベアリング・グリース 日野純正 ブルーリボン・ベアリング・グリース

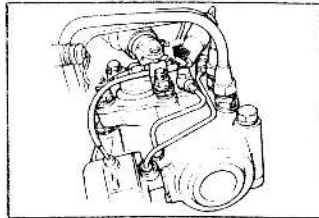
給油箇所	交換時期			指定〔推奨〕油脂名	容 量
	点検	補給	交換		
● リヤ・ホイール・ハブ			30,000km	リチウム系ベアリング・グリース 日野純正 ブルーリボン・ベアリング・グリース	420g (一輪)
● プロペラ・シャフト・ユニバーサル・ジョイント		4,000km			適 量
● クーラント・ポンプ・プーリ (直結クーラ付車のみ)		1カ月または 5,000km			適 量
● スタータ・ベアリング	備考：分解点検洗浄後給脂			〔リチウム系ベアリング・グリース〕 協同油脂マルテンブSRL	適 量
● スタータ・リダクション・ギヤ、 スタータ・ピニオン・クラッチ	備考：分解点検洗浄後給脂			〔極圧グリース〕 協同油脂マルテンブMS-2	適 量
● スタータ・メタル	備考：分解点検洗浄後給脂			〔高温グリース〕 日石パイロノック	適 量
● オルタネータ・ベアリング	備考：分解点検洗浄後給脂			〔耐熱グリース〕 日石カルテックスSR1-2	適 量
● サービス・ブレーキ・レッジ面 など		30,000km		日野純正 ブレーキ・グリース (コスモ石油：アンチメルト2号)	適 量
	備考：分解点検洗浄後給脂				適 量
● パーキング・ブレーキ・レッジ 面など	備考：分解点検洗浄後給脂			〔昭シエル：バリエントM-3号〕 日 石：サマーノック2号 富士興産：シネックス2号 曙ブレーキ：AKB100	適 量
● クラッチ・ダイヤフラム・スプリング 先端部	備考：分解整備時				適 量
● クラッチ・スプライン・ハブとトランス ミッション・インプット・シャフト・ス プライン	備考：分解整備時			耐摩耗性グリース 日野純正 バリエント-S	適 量

油脂類一覧表

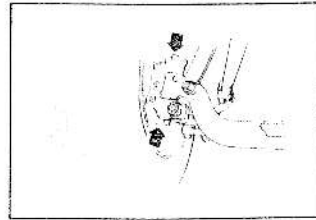
給 油 脂 箇 所	交 換 時 期			指 定〔推 奨〕油 脂 名	容 量
	点 検	補 給	交 換		
⑩ プロペラ・シャフト・スパイダ 端面	備考：分解整備時			日野純正 二硫化モリブデン・グリース	適 量
⑪ プロペラ・シャフト・ベアリン グ・ケース内面	備考：分解整備時			住鋳潤滑 モリBLグリース	適 量
⑫ タイロッド・ボール・ジョイント	備考：ダスト・カバー交換時			日野純正 二硫化モリブデン・グリース	6 g
⑬ ドラッグ・リンク・ボール ジョイント	備考：ダスト・カバー交換時			[エッソ・ビーコンQ2]	6 g
⑭ ブレーキ・ホイール・シリンダ・ピスト ン外周, ブーツ・シール溝部, アジャ スティング・スクリュのネジ部	備考：分解整備時			日野純正 ラバー・グリース (ニグループRX2)	適 量
⑮ ホイール・シリンダ摺動部など	備考：分解整備時			防錆油 [CCI#20 (中央化学)]	適 量
⑯ エア・マスタ・パワー・シリン ダ内面およびパワーピストン・ ラバー・パッキン摺動面	備考：分解整備時			エア・マスタ・ペースト 自動車機器指定 9323-4080 (自動車機器品番)	20 g

給 脂 図

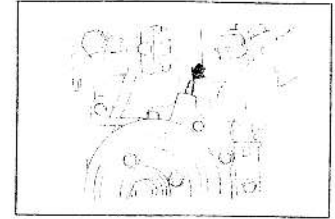
- (注) 1. イラストの白抜き数字は前項の給脂箇所欄の数字です。
 2. このイラストはグリース・ニップルのある箇所のみですので、
 分解整備および組み立て時の給油脂は最寄りの日野サービス
 工場にご相談ください。



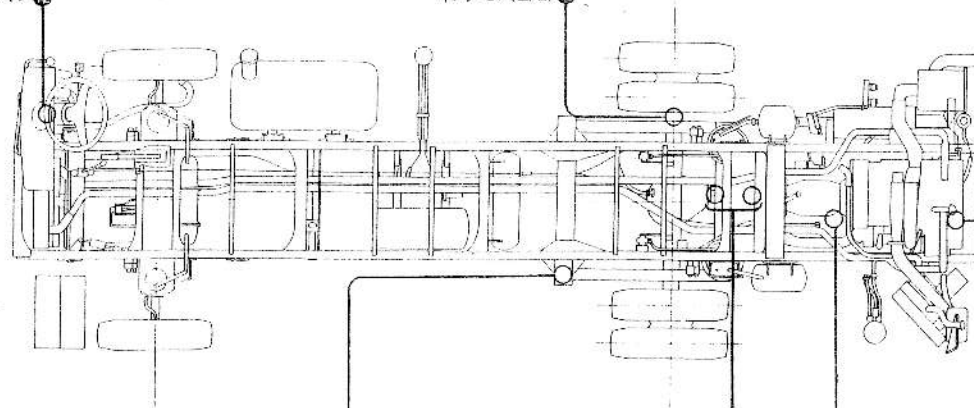
ステアリング・シャフト・スプライン ⑫



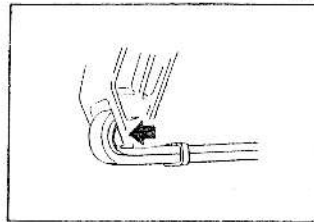
キング・ピン(右) ⑬



⑭ クラント・ポンプ・ブーリ(直結クラ付のみ)

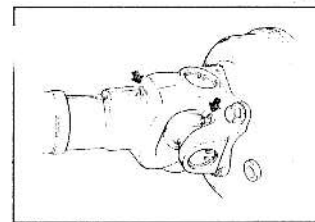


スプリング・ピン(リヤ, 左右) ⑮

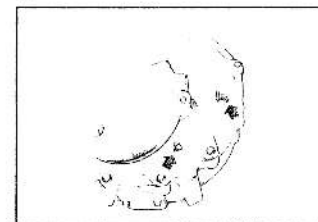


プロペラ・シャフト・スプライン・ヨーク ⑯

プロペラ・シャフト・ユニバーサル・ジョイント ⑰



⑱ クラッチ・リリース・スリーブ、リリース・シャフト



エンジン・オイル

エンジン・オイルは、熱や酸化に対し安定しており、温度による粘度変化が少ないことが必要です。

日野純正エンジン・オイルは、これらの性能を満足するように作られていますので、車両の使用条件により、適正なオイルを使用してください。

また、夏と冬とでは粘度の異なったものを使用する必要があります。次の表により適正なオイルを選んで使用してください。

日野純正エンジン・オイルは、最寄りの日野サービス工場でご購入ください。

日野純正エンジン・オイル

オイルの名称	API分類
ブルーリボン・ビッグ・スーパー	CD級
ブルーリボン・ビッグ・エクストラ	
ブルーリボン・ビッグ・ワン	CC級

エンジン・オイルの粘度分類と使用温度

名称	ブルーリボン・ビッグ・スーパー (CD級)			ブルーリボン・ビッグ・ワン (CC級)	ブルーリボン・ビッグ・ワン (CC級)		
	#20W } 20	#30	#40		#10W } 30	#20W } 20	#30
使用温度範囲(°C)	-25 } 20	0 } 40	0 } 以上	-30 } 40	-25 } 25	0 } 40	0 } 40

- ターボ付きエンジン・オイルはAPI分類CD級を使用してください。

交 換

交換時期については、使用するオイルの種類によって異なりますので新車1,000km走行時に交換した後は次の表にしたがって交換してください。

推奨エンジン・オイル別交換時期

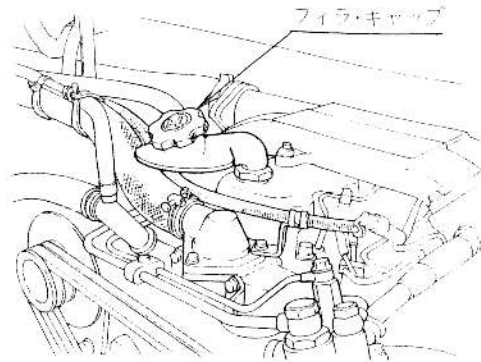
オイルの種類	交換時期
ブルーリボン・ビッグ・スーパー (CD級)	7,500km走行ごと
ブルーリボン・ビッグ・エクストラ (CD級)	

ただし、上記推奨オイル以外のブルーリボン・ビッグ・ワン(CC級)を使用する場合は、交換時期を5,000km走行ごとにしてください。

- エンジンを高回転、高負荷で多く使用している場合はオイルの劣化も早まります。オイル・レベル点検時、オイルが著しく汚れている時は、走行軒数にかかわらず、早目に交換してください。
- オイル交換の2回に1回は、オイル・フィルタ・エレメントも必ず交換してください。

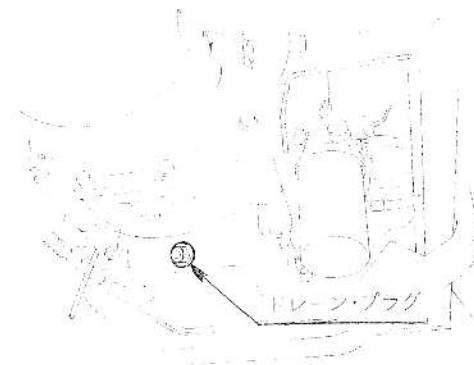
エンジン・オイル

交 換



【交換要領】

- ① ロッカ・アーム・カバーにあるフィラ・キャップおよびオイル・パンのドレーン・プラグを外します。
給油口のフィラ・キャップは左に回すと外すことができます。
- エンジンを暖めると容易に排油できます。ただし、走行直後に行きますと、エンジン・オイルが高温になっていて火傷をする恐れがありますので、少し時間をおいて温度を下げた後から行ってください。
- ② 完全に排油した後、ドレーン・プラグを確実に締め付けてください。
- ドレーン・プラグのガスケットは、必ず新品を使用してください。

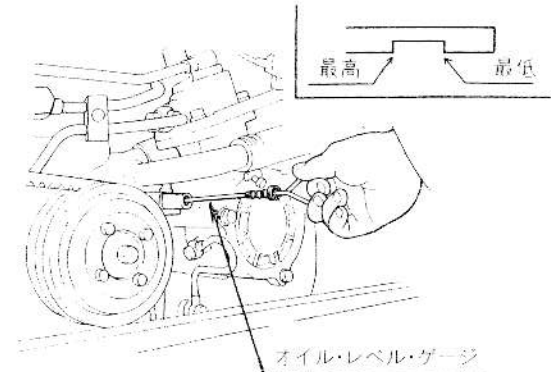


- ③ ロッカ・アーム・カバーにある給油口より給油します。
- ④ 給油後、10分位してから、レベル・ゲージで油量を確認してください。

オ イ ル 量

全 油 量	9.5 ℓ
最 高	7.5 ℓ
最 低	4.5 ℓ

補 給



- オイル・レベル・ゲージにより油面の位置を判断し、不足の場合はロッカ・アーム・カバーの給油口から補給してください。
- レベル・ゲージの上部の刻印以上に補給しないでください。
 - エンジンは停止させ、30分以上経過後にオイル・レベル・ゲージで点検してください。
 - 補給後のオイル・レベルの点検は、補給後10分間以上経過後、油面が安定してから行ってください。
 - オイルの補給は、こぼさないよう十分注意してください。

トランスミッション・オイル

トランスミッションの各ギヤには大きな負荷がかかりますので、良質のギヤ・オイルを使用する必要があります。

これらの箇所には日野純正ギヤ・オイルを推奨します。

ギヤ・オイル推奨銘柄

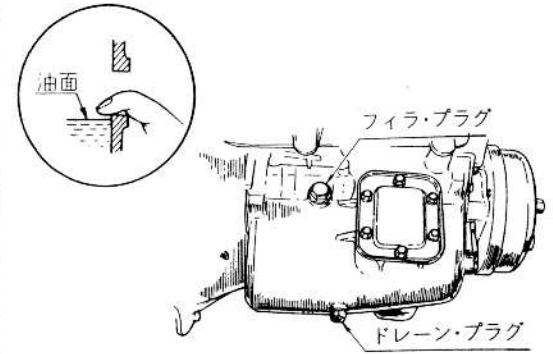
ブルーリボン・ギヤ・オイル
GL-5 (API分類)のSAE90

点 検

点検は1ヵ月または5,000km走行ごとに行います。

- ① トランスミッション・ケース左側のフィラ・プラグを外します。
- ② オイルがフィラ・プラグのねじ穴下面（この位置がオイル・レベル）まであるか点検します。不足している場合はフィラ・プラグから補給してください。

交 換



交換は新車1,000km走行時、その後6ヵ月または30,000km走行ごとに行います。

- ① ギヤ・ケース下部のドレーン・プラグおよびフィラ・プラグを外します。
 - 走行直後に排油すると容易に行えます。
 - ドレーン・プラグはマグネット式になっていますので、マグネットに付いた鉄粉は除去してください。
- ② 完全に排油した後、ドレーン・プラグを確実に締め付けます。
 - ドレーン・プラグのガスケットは、必ず新品を使用してください。
- ③ フィラ・プラグ穴下面までオイルを給油してください。

交 換

ディファレンシャルの各ギヤには大きな荷重がかかりますので良質のギヤ・オイルを使用する必要があります。

これらの箇所には日野純正ギヤ・オイルを推奨します。

ギヤ・オイル推奨銘柄

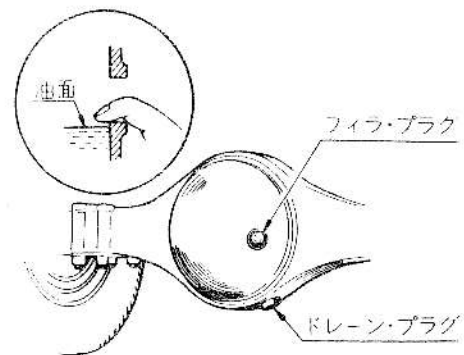
ブルーリボン・スーパー・ハイポイド・ギヤ・オイル
GL-5 (API分類) のSAE90

オイル量

オイル量

約5.5ℓ

点 検



点検は1ヵ月または5,000km走行ごとに行います。

- ① リヤ・アクスル・ハウジング後部のフィラ・プラグを外します。
- ② オイルがフィラ・プラグのねじ穴下面（この位置がオイル・レベル）までであるか点検します。不足している場合はフィラ・プラグから補給してください。

交 換

交換は新車1,000km走行時、その後は6ヵ月または30,000km走行ごとに行います。

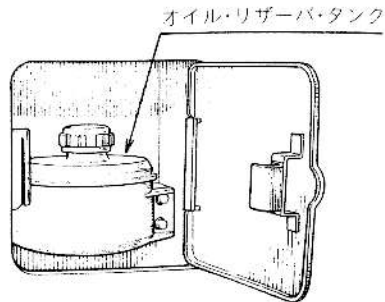
- ① ハウジング下部のドレーン・プラグおよびフィラ・プラグを外します。
 - 走行直後に排油すると容易に行えます。
 - ドレーン・プラグはマグネット式になっていますので、マグネットに付いた鉄粉は除去してください。
- ② 完全に排出した後、ドレーン・プラグを確実に締め付けます。
 - ドレーン・プラグのガスケットは、必ず新品を使用してください。
- ③ フィラ・プラグねじ穴下面までオイルを給油してください。

オ イ ル 量

オ イ ル 量
約5.0 ℓ

ブレーキ・フルード

点検、補給



車両右側の側面に設けてあるリザーバ・タンクの液レベルを点検し、不足の場合は配管系に液漏れがないことを確認の上「MAX」の線まで補給します。

ブレーキ・フルードは長時間使用すると水分吸収により沸点が大幅に低下し、ベーパーロックが発生しやすくなって危険です。

12か月ごとに必ず純正品の新しいブレーキ・フルードと全量交換してください。なお、ブレーキ・フルードの交換は最寄りの日野サービス工場で行ってください。

ブレーキ・フルード推奨銘柄

ブレーキ&クラッチ・フルード
〔ゴールデン・クルーザ # 1200〕

〔ブレーキ・フルード取り扱い時の注意〕

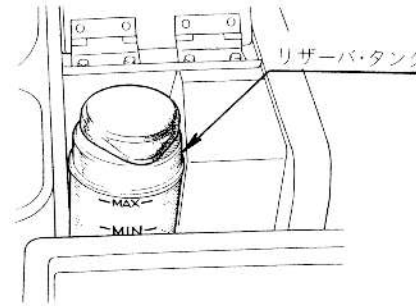
- キャップを外す際はキャップ周辺を清掃してください。
- リザーバ・タンクのストレーナに異物が付着している場合は洗浄してください。
- リザーバ・タンクに異物が沈殿している場合は最寄りの日野サービス工場にて点検修理してください。

点検、補給

- 補給時に使用する容器などに汚れがないかを点検し、汚れている場合は洗浄してから使用してください。
- 補給の際、塗装面に液が付着すると塗装面が剥がれますのですぐ拭き取ってください。
- リザーバ・タンクには液面レベル警報用のスイッチが組み込まれていますので、点検、補給に際しては損傷させないように注意してください。
- ブレーキ・フルードは吸湿性が強いいため、取り扱いにご注意ください。
- リザーバ・タンク・ホースに亀裂および傷がないか点検し、不具合があるものは早めに最寄りの日野サービス工場で交換してください。

液面が異常に減少する場合はパイプなどからの漏れが考えられますので点検してください。

点検、補給



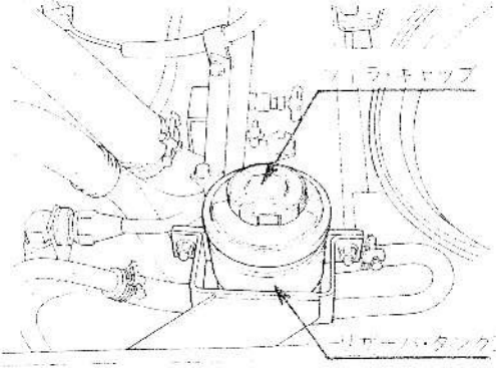
インストルメント・パネル右端の点検口により点検します。

液面がリザーバ・タンクの刻線面「MIN」～「MAX」にあれば正常です。

不足の場合は、クラッチ・フルードを「MAX」の線まで補給してください。

12か月ごとに必ず純正品の新しいクラッチ・フルードと全量交換してください。フルードの交換は、最寄りの日野サービス工場で行ってください。

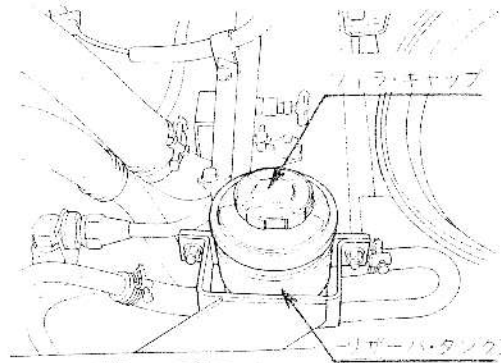
●クラッチ・フルードには、ブレーキ&クラッチ・フルードを使用しています。前述の「ブレーキ・フルードの取り扱い時の注意」を参照してください。



ミラ・キヤツブ

リターバ・タンク

点検、補給



1カ月または、5,000km走行ごとにオイル・タンクのフィル・キャップを開けて、レベル・ゲージで油面を点検します。油面がゲージの上部刻線まであれば正常です。

不足の場合は、ゲージの上部刻線まで補給してください。

また、同時にオイルの汚れ具合についても点検し汚れている場合は交換してください。

パワー・ステアリング・オイル推奨銘柄

ブルーリボン・ATF

- 異常にオイルが不足するようであれば油漏れによるものですから最寄りの日野サービス工場で点検、修理をしてください。

- フィラ・キャップを外す際は、キャップ周辺を十分に清掃し、タンク内にゴミや水などが入らないようにしてください。ゴミや水が入ると、作動不良（ハンドルひっかかり、効き不良など）の原因になります。

交 換

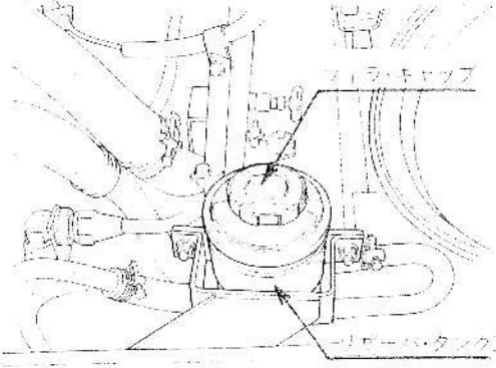
新車5,000km走行時、その後は1年または60,000km走行ごとに行ってください。

また、オイル・フィルタは、オイル交換ごとに交換してください。

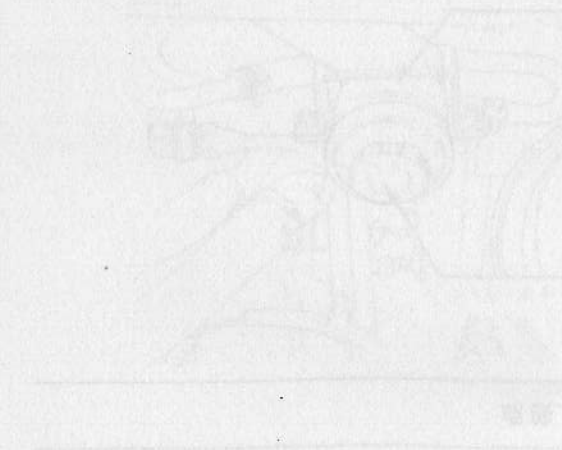
なお、オイルの交換は、最寄りの日野サービス工場で行ってください。

オイル量

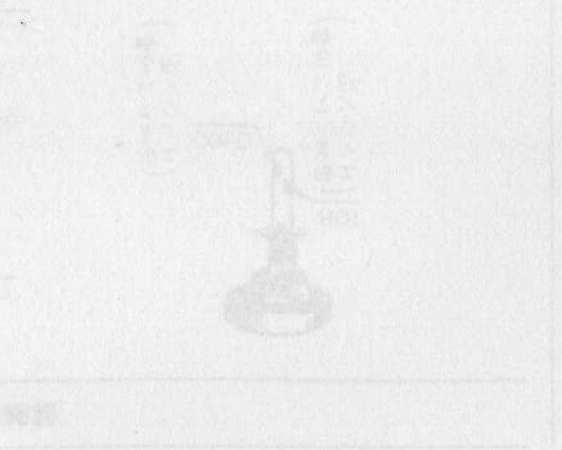
約3.5ℓ



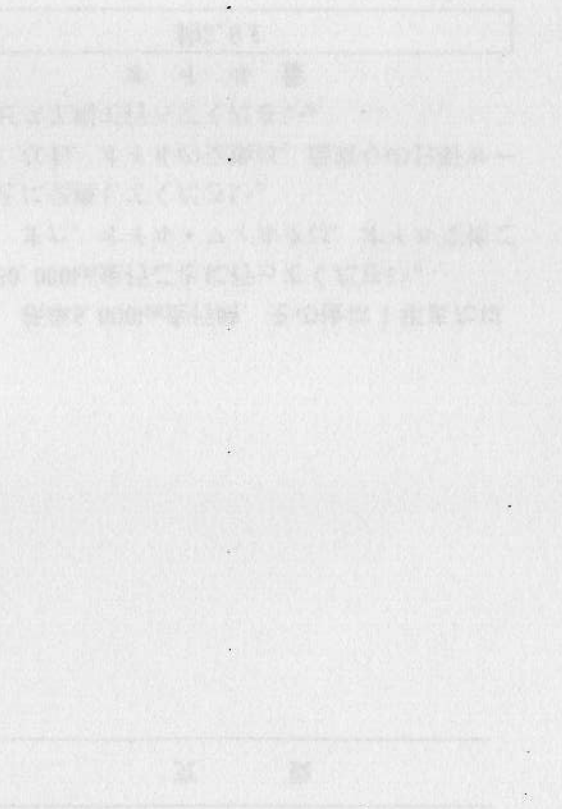
1. 試料の採取と保存
 2. 試料の乾燥と重量測定
 3. 試料の溶解と分析



4. 試料の分析結果の整理と報告
 5. 試料の分析結果の比較と評価



6. 試料の分析結果の整理と報告
 7. 試料の分析結果の比較と評価



品名

種類



品名: 電球
種類: 電線
仕様: ...

数量: 100個

品名: ...
仕様: ...

品名: ...
仕様: ...

数量: 50個

品名: ...
仕様: ...

7. 不調に対する処置

正しい運転操作と日常の点検、手入れを確実に行っていけば故障はほとんど起こりません。定期的な点検、整備をぜひ実施してください。

万一、不調が発生した場合は、早めに発見するよう心掛け、大きな故障にならない前に確実に修理してください。

次のような故障が発生した場合は、表に従って点検、処置してください。原因が不明な時、またご自分で修理できない場合は最寄りの日野サービス工場で点検、修理を受けてください。

不調の現象

原因となった整備不良など

適切な処置

エンジンがかからない

または回転が低い場合
スターターが回らないま

回る場合
スターターが正常に

- バッテリーが放電していませんか 充電するか交換してください。
- バッテリー端子の外れ、ゆるみ、腐蝕はありませんか 腐蝕部を完全に清掃後確実に取り付けてください。
- アースが外れていませんか 確実に取り付けてください。
- エンジン・オイルの粘度が高すぎませんか 適正オイルと交換してください。

- 予熱操作は正しいですか 正しく操作してください。
- 燃料はありますか 燃料を補給してください。
- 燃料フィルタが汚れていませんか 洗浄するか交換してください。
- 燃料が凍結していませんか 燃料パイプをお湯（60℃以下）で暖めてください。
- エア・クリーナが詰まっていますか 洗浄するか交換してください。

低速回転が不調で止まりやすい

- アイドリング回転が低くありませんか スロットル・ボタンにて調整してください。（正しいアイドリング回転数：600～650rpmです。）
- 燃料はありますか 燃料を補給してください。
- 燃料フィルタが汚れていませんか 清掃するかまたは交換してください。
- エア・クリーナが詰まっていますか 洗浄するかまたは交換してください。

力がない

- 燃料フィルタが汚れていませんか 洗浄するかまたは交換してください。
- エア・クリーナが詰まっていますか 清掃するかまたは交換してください。
- また、ホースがつぶれていませんか
- 燃料は軽油ですか 軽油に交換してください。

國

史

考

高

陽

不調の現象

原因となった整備不良など

適切な処置

エンジン・オイルの消費量が多い

- 使用オイルは適正ですか
- オイルの量が多すぎませんか
- オイル漏れがありませんか
- オイルの交換時期が遅すぎいませんか
- オイル・フィルタの目詰まりがありませんか
- 暖機運転をしていますか

-正規オイルに交換してください。
-正規オイル量にしてください。
-ボルト・ナットのゆるみの場合は増し締めしてください。
-正規通りに交換してください。
-新品のエレメントに交換してください。
-正規通りに行ってください。

ハンドルの戻りが悪い

- ステアリング各部の給油脂は十分ですか

.....給油, 給脂してください。

ハンドルが重い

- タイヤ空気圧が低くありませんか
- パワー・ステアリングのオイルは不足していませんか

-正規の空気圧にしてください。
-給油してください。

走行中ハンドルが振れる

- ホイール・ナットがゆるんでいませんか
- ステアリング関係の連結部にゆるみはありませんか
- タイヤのバランスはどうですか
- タイヤの空気圧の不均一または不足していませんか
- タイヤ偏摩耗はありませんか
- パワー・ステアリング回路に空気が混入していませんか

-増し締めしてください。
-増し締めしてください。
-バランスを取ってください。
-正規の空気圧にしてください。
-タイヤを交換してください。
-エア抜きをしてください。

不調の現象

原因となった整備不良など

適切な処置

ブレーキの効きが悪い

- シュー・ギャップは適正ですか 正規の値に調整してください。
- ブレーキ液系統にエアが入っていませんか エア抜きを完全にしてください。
- ブレーキ系統にエア漏れオイル漏れはありませんか ゆるみの場合は増し締めしてください。それでもとまらない場合は最寄りの日野サービス工場へ
- ライニングが使用限度に達していませんか ライニングを交換してください。
- ライニング表面に油脂類が付着していませんか 油脂類の除去, またはライニングを交換してください。

ブレーキが引きずる

- シュー・ギャップは適正ですか 正規の値に調整してください。

ブレーキが片効きになる

- シュー・ギャップは適正ですか 正規の値に調整してください。
- タイヤ空気圧が不均一ではありませんか 正規の空気圧にしてください。
- タイヤ摩耗が不均一ではありませんか タイヤを交換してください。

パーキング・ブレーキの効きが悪い

- シュー・ギャップは適正ですか 調整してください。
- ライニングが使用限度に達していませんか ライニングを交換してください。
- ライニング表面に油脂類が付着していませんか 油脂類の除去, またはライニングを交換してください。

エア圧が減少する

- ブレーキ系統にエア漏れはありませんか ゆるみの場合は増し締めしてください。それでもとまらない場合は最寄りの日野サービス工場へ

ブレーキ液が減少する

- ブレーキ系統に液漏れはありませんか ゆるみの場合は増し締めしてください。それでもとまらない場合は最寄りの日野サービス工場へ

不調の現象

原因となった整備不良など

適切な処置

しばしばバッテリー
が放電する

- バッテリー端子の腐蝕、外れ、ゆるみがありませ
んか……………腐蝕部を清掃し、確実に取り付けてください
- Vベルトのゆるみまたはすべりはありませんか……………正規に調整するかまたはベルトの交換をしてください
- バッテリー液が不足していませんか……………補給してください
- バッテリーに寿命がきていませんか……………バッテリーを交換してください
- 燈火器類ほか電気装置のスイッチが入れたまま
になっていませんか……………確実に切るよう心がけてください
- オルタネータは発電していますか……………オルタネータの発電状態を点検してください

ランプがつかない

- 電球が切れていませんか……………電球を交換してください
- ヒューズが切れていませんか……………ヒューズを交換してください。交換後さらにヒュー
ズが切れる場合は最寄りの日野サービス工場へ
- 各部のアース不良はありませんか……………確実にアースしてください

ターン・シグナル・ランプ
の点滅がおかしい

- いずれかのバルブが切れていませんか……………バルブを交換してください
- ワット数の違うバルブを使用していませんか……………正規ワット数のバルブと交換してください

走行中車両が異常
に振動する

- プロペラ・シャフトの各連結部のナットがゆる
んでいませんか……………増し締めしてください
- プロペラ・シャフトの振れが大きくありません
か……………最寄りの日野サービス工場へ
- プロペラ・シャフトのユニバーサル・ジョイン
トにガタがありませんか……………最寄りの日野サービス工場へ
- ボデー・マウント・ラバーのボルトがゆるんで
いませんか……………増し締めしてください

不調の現象

原因となった整備不良など

適切な処置

走行中異音が出る

- タイヤの空気圧は不足していませんか
(ウォーン音) 正規の空気圧にしてください
- タイヤに異物が噛み込んでいませんか
(ウォーン音) 異物を取り除いてください
- ホイール・ナットはゆるんでいませんか
(ガタガタ音) ゆるんでいる場合は増し締めしてください
- ファン・ベルトはゆるんでいませんか
(ギューン音) ベルトの張りを正規に調整してください
- エンジン・オイルは不足していませんか
(エンジン音が全体にうるさい) 補給してください
- パワー・ステアリングの液は不足していませんか
(ギューン音) 補給してください

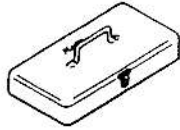
8. 付図・付表

搭載工具	154
主要諸元表	155
ブレーキ系統図	157
電気配線図	158

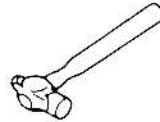
搭載工具

日常の点検および調整に必要な一般工具は、下記の通りツール・ボックスに格納してあります。

- ツール・ボックス



- ハンマ



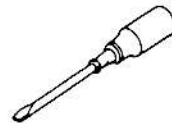
- クランク・ハンドル



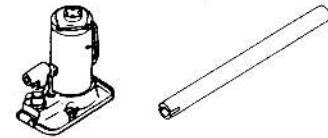
- オープン・エンド・レンチ・セット



- マイナス・ドライバ, 大, 中



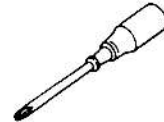
- オイル・ジャッキ&レバー



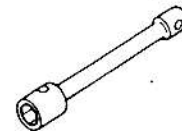
- モンキ・レンチ



- プラス・ドライバ



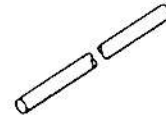
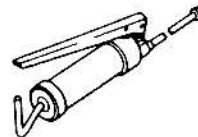
- ホイール・ナット・レンチ&レバー



- プライヤ



- グリース・ガン



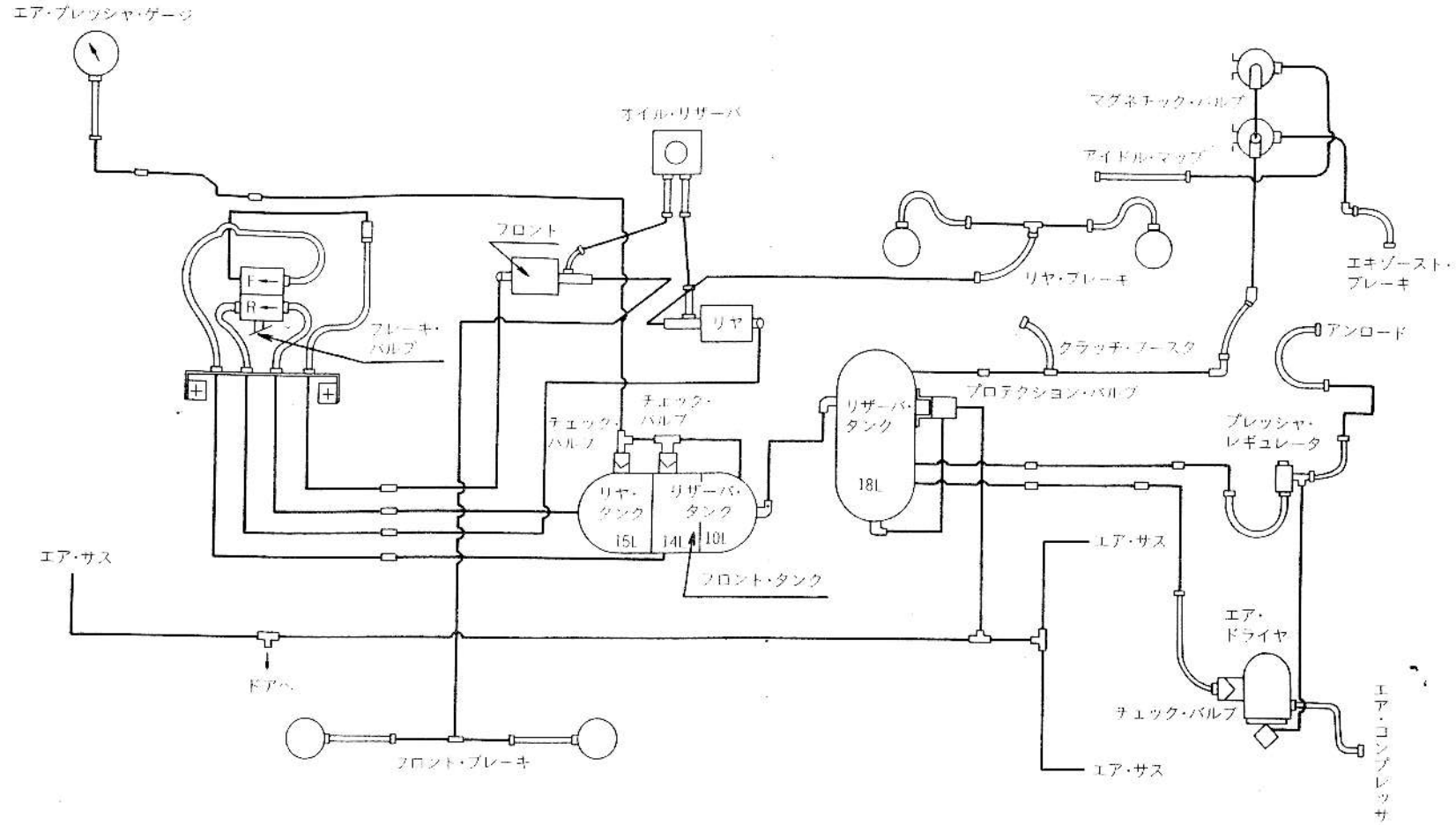
主要諸元表

項 目		P-RH160AA							
		デラックス		スーパー・デラックス		ロイヤル・サルーン			
寸	全 長 (mm)	6,990							
	全 幅 (mm)	2,300							
	全 高 (mm)	2,840	3,050						
	ホイール・ベース (mm)	3,670							
	トレッド	前輪 (mm)	1,880	1,900	1,880	1,900	1,880		
		後輪 (mm)	1,720	1,740	1,720	1,740	1,720		
法	最低地上高 (mm)	175							
室内寸法	長さ (mm)	6,365			6,350				
	幅 (mm)	2,120							
	高さ (mm)	1,925			1,905				
乗 車 定 員 (名)		29 (28 + 0 + 1)					28 (26 + 0 + 2)	25 (24 + 0 + 1)	
重 量	空 車 時 重 量 分 布	前 (kg)	1,520	1,660	1,680	1,690	1,680	1,760	1,760
		後 (kg)	3,550	3,680	3,720	3,890	3,880	3,900	3,860
	車 輛 重 量 (kg)	5,070	5,340	5,400	5,580	5,560	5,660	5,620	
	定 員 乗 車 重 量 分 布	前 (kg)	1,840	1,980	2,000	2,010	2,000	2,025	2,030
		後 (kg)	4,825	4,955	4,995	5,165	5,155	5,175	4,965
	車 輛 総 重 量 (kg)		6,665	6,935	6,995	7,175	7,155	7,200	6,995
性 能	最高速度(推定) (km/h)	115 (110)			110 (100)				
	登 坂 能 力 (tanθ)	0.44 (0.51)			0.45 (0.51)				
	最小回転半径 (mm)	6,100							
	最大安定傾斜角度 (計算値)	左 (度)	42°	40°	41°	40°	41°	40°	
右 (度)		42°	40°	41°	40°	41°	40°		
舗装平坦路最大荷重時燃費 (60km/h)		9.0							
エ ン ジ ン	型 式	W04C-T1型							
	燃 焼 室 型 式	直接噴射式							
	内 径 × 行 程 (mm)	104.0×113.0							
	総 排 気 量 (cc)	3,839							
	圧 縮 比	18.5							
	最 高 出 力 (ps/rpm)	165/3,000							
最 大 ト ル ク (kgm/rpm)	42.0/1,800								

車 型		P-RH160AA		
項 目		デラックス	スーパー・デラックス ロイヤル・サルーン	
エ	機関寸法(長×巾×高)(mm)	827×684×800(851×697×800)		
	機関整備重量(kg)	398(435)		
ン	圧縮圧力(kg/cm ² -rpm)	33~36 350		
	スタータ(V-kW)	24-4.5		
ジ	オルタネータ(V-A)	24-110		
	バッテリー(V-Ah×数)	12-120×2(20時間率容量)		
ン	燃料タンク容量(ℓ)	150		
	クラッチ型式	乾燥、単板、ダイヤフラム式		
シ	トランスミッション型式	常時噛合式(2速以上シンクロメッシュ式)		
	変速比	第1速	6.881	
		第2速	4.155	
		第3速	2.380	
		第4速	1.402	
		第5速	1.000	
	後退	6.077		
ファイナル・ギヤ型式	ハイポイド・ギヤ			
ヤ	減速比	4.333(4.875)		
	フロント・アクスル型式	逆エリオット形		
	リヤ・アクスル型式	全浮動軸管式		
	ステアリング型式	ボール・ナット式(インテグラル式パワー・ステアリング付)		
シ	サービス・ブレーキ型式	空気油圧複合式、前後2リーディング		
	パーキング・ブレーキ型式	機械式推進軸制動内部拡張形		
	シャシ・スプリング(長×巾×厚-枚数)(mm)	前	空気ばね(150×1-2、高×段×個数)、板ばね1.200×70× $\begin{cases} 10-1 \\ 8-1 \\ 13-1 \end{cases}$	
		後	空気ばね(230×1-2、高×段×個数)、板ばね1.162.5×80×(32-2)(テーパ)	
	フレーム型式	コ型断面梯子形		
タイヤ	サイズ	7.50 16 12PR(7.50R 12PR, 225/80R17.5 14PR)	7.50R16-12PR(225/80R175 14PR)	
	空気圧(kg/cm ²)	6.00, (6.50, 7.00)	6.50(7.00)	
ディスク・ホイール・サイズ	6.00GS×16SDC(6.00×17.5 15" DC, 225/80R175の場合)			

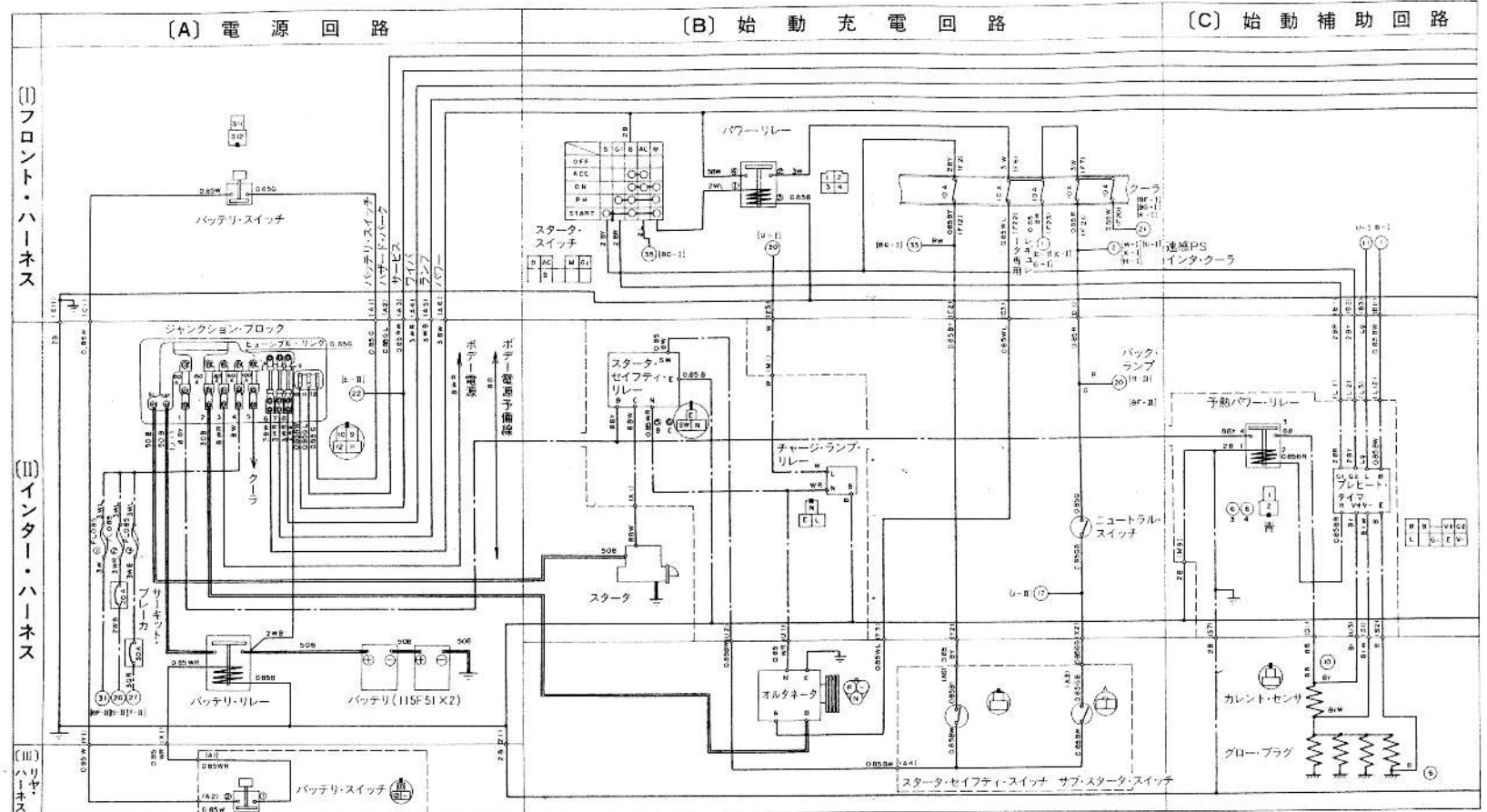
(注)1、本仕様は予告なく変更することがあります

ブレーキ系統図



電気配線図

1/9

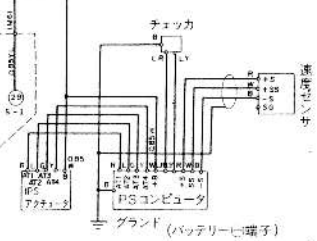
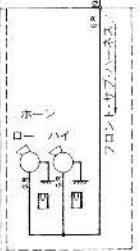
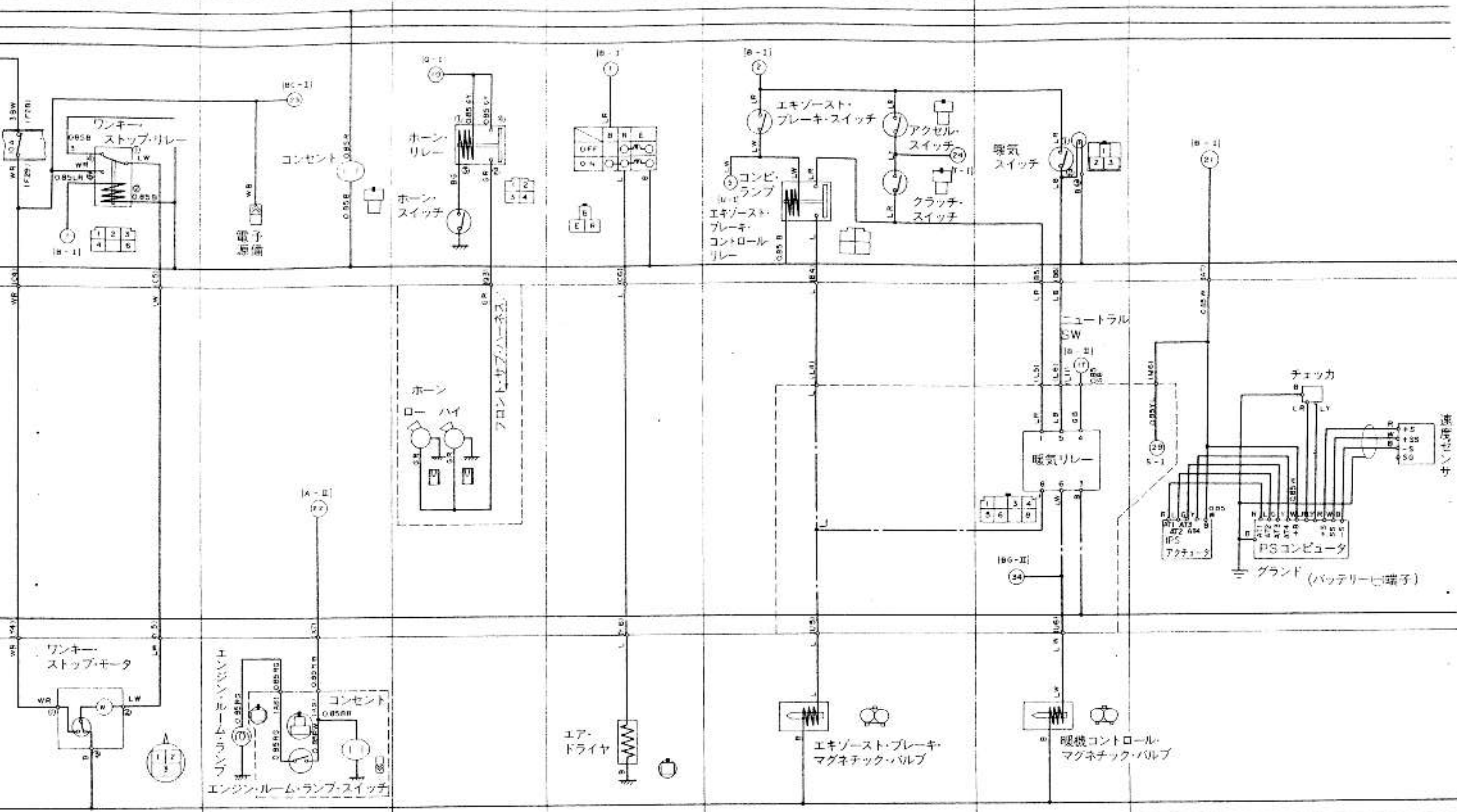


(D) ワンキー・ストップ回路 (E) サービス電源回路 (F) ホーン回路 (G) エア・ドライバ回路 (H) エキゾースト・ブレーキ回路 (J) 暖気コントロール回路 (K) 速感 PS 回路

(I) フロント・ハーネス

(II) インター・ハーネス

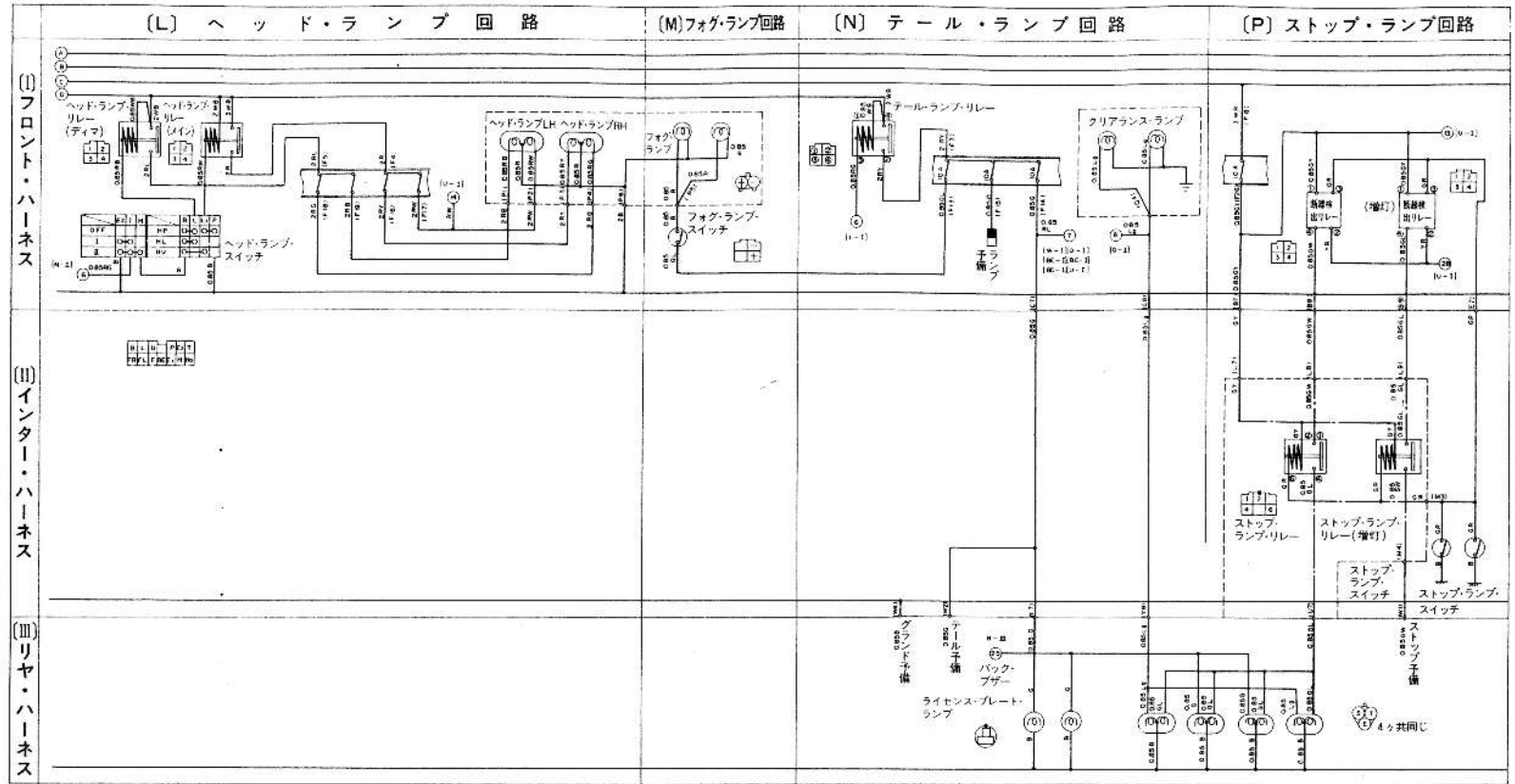
(III) リヤ・ハーネス

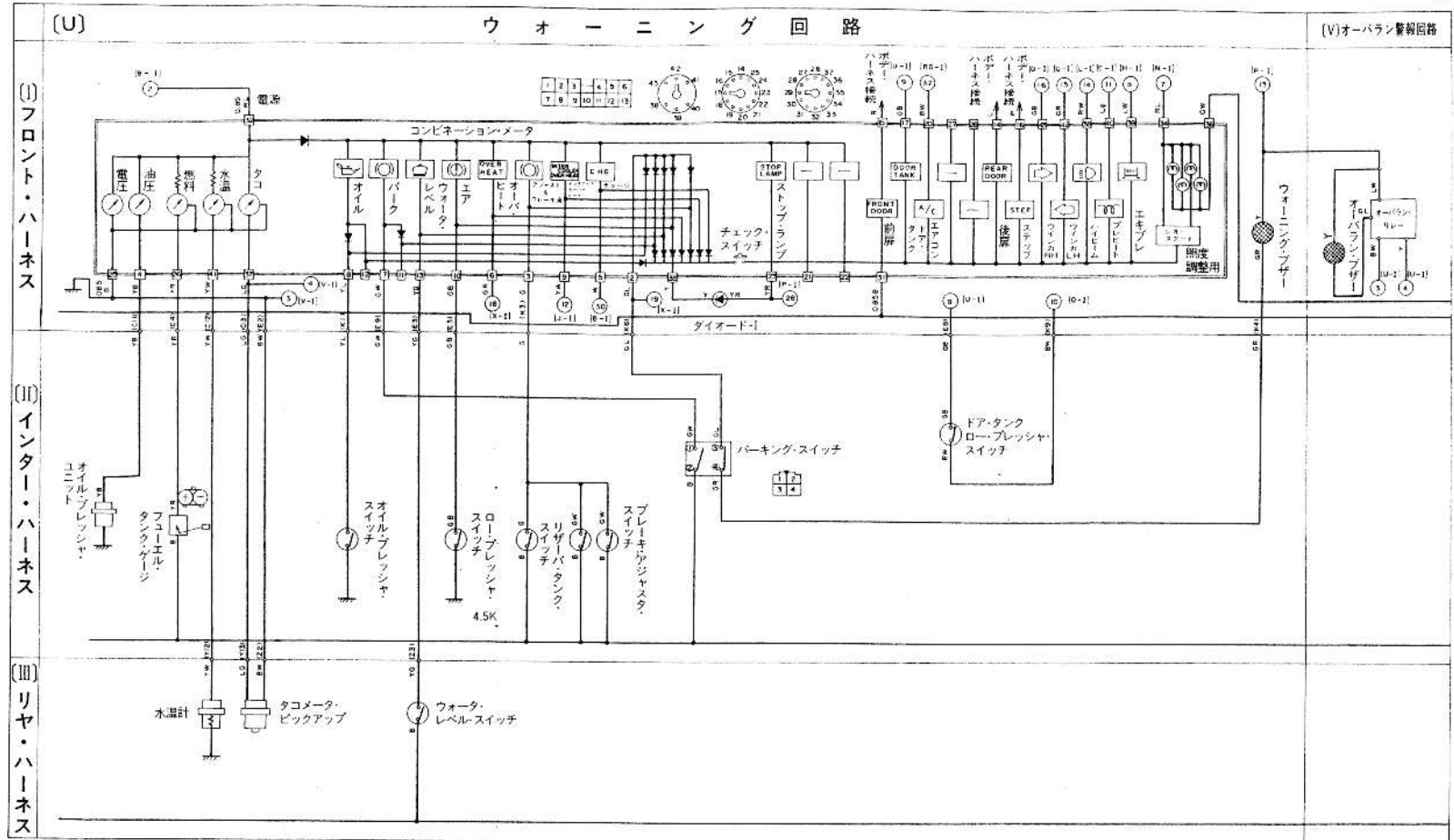


≡ グラウンド (バッテリー端子)

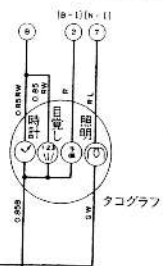
電子ランプ

電気配線図

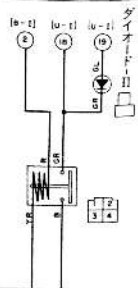




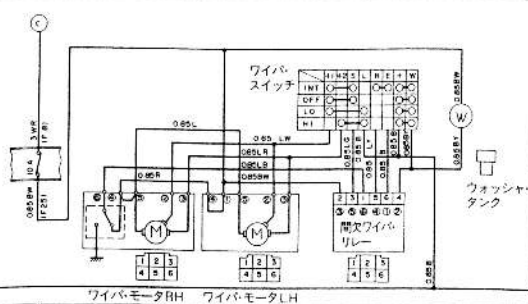
[W] タコグラフ回路



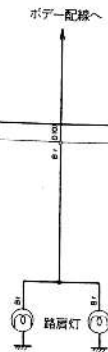
[X] オーバーヒート警報回路



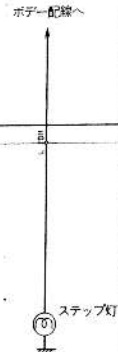
[Y] ワイパ回路



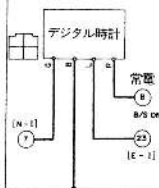
[BA] 路肩灯回路



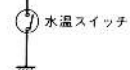
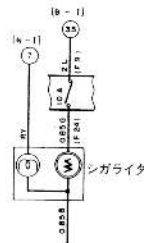
[BB] ステップ灯回路



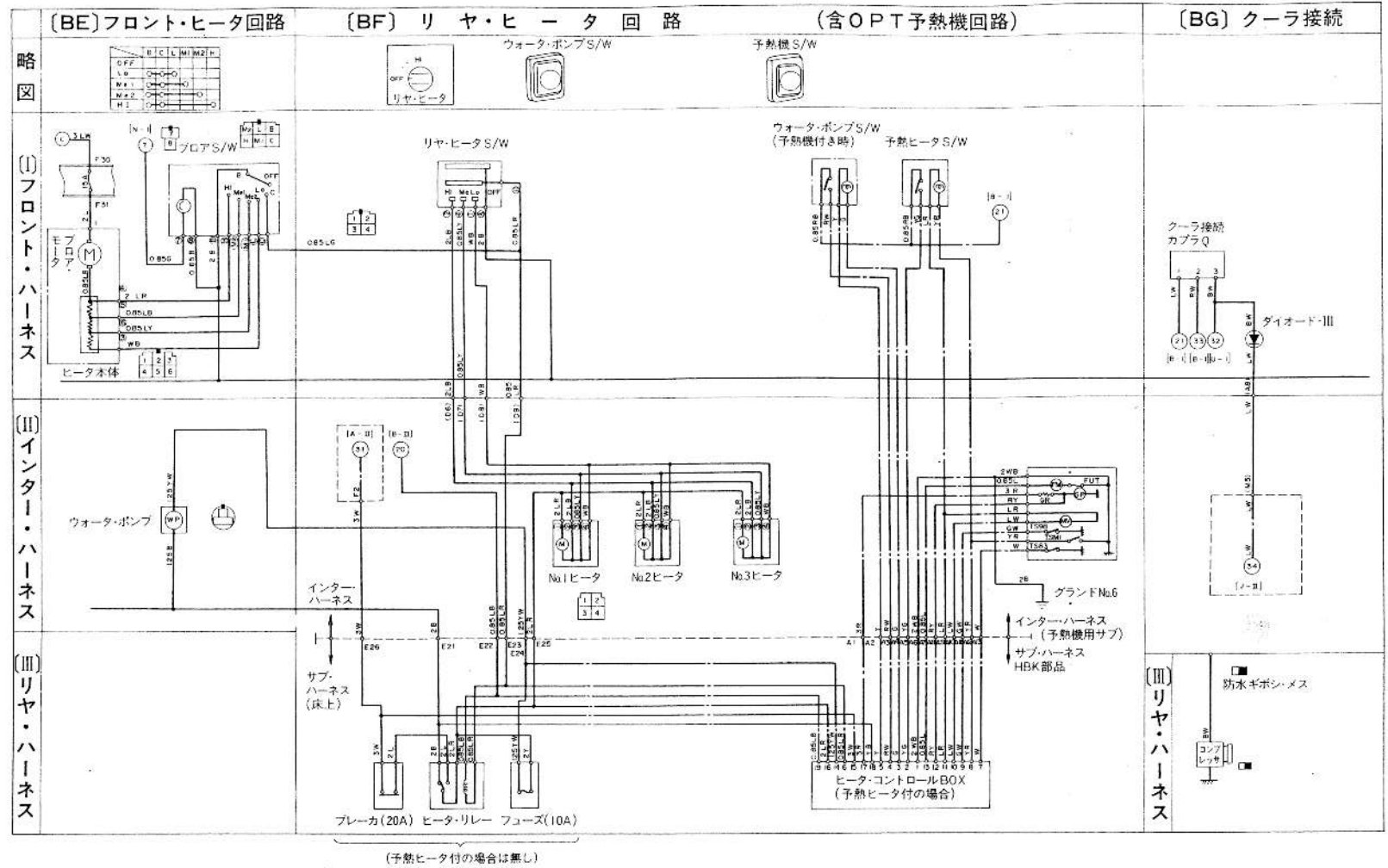
[BC] デジタル時計回路



[BD] シガライタ回路



電気配線図



インパネ内各電装品へ

カブラQ

カブラP

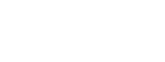
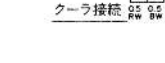
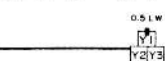
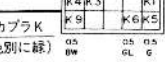
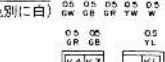
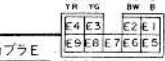
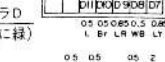
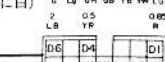
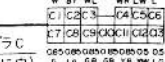
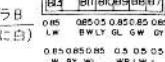
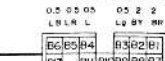
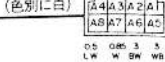
カブラP

カブラQ

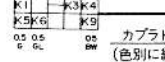
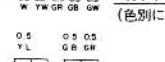
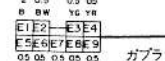
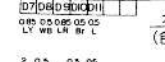
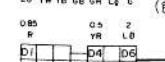
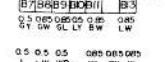
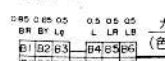
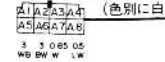
F.O.H床下へ

床下ハーネス

3 0.85 0.85 0.85
WR RW GL G



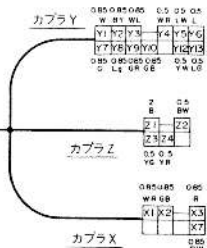
0.85 0.85 0.85 3
G GL RW WR



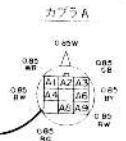
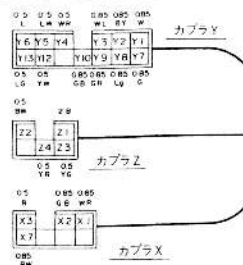
クーラ接続

OPT.
予熱機ハーネスへ

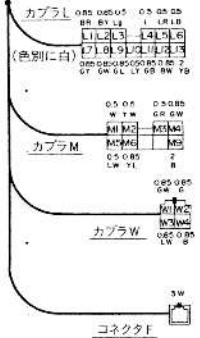
インタ・ハーネス



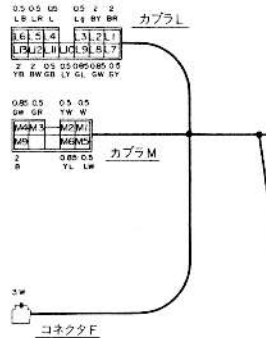
リヤ・ハーネス



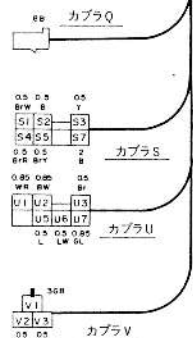
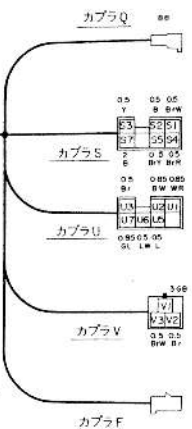
インタ・ハーネス



電装品BOXサブ・ハーネス



リヤ・ハーネス

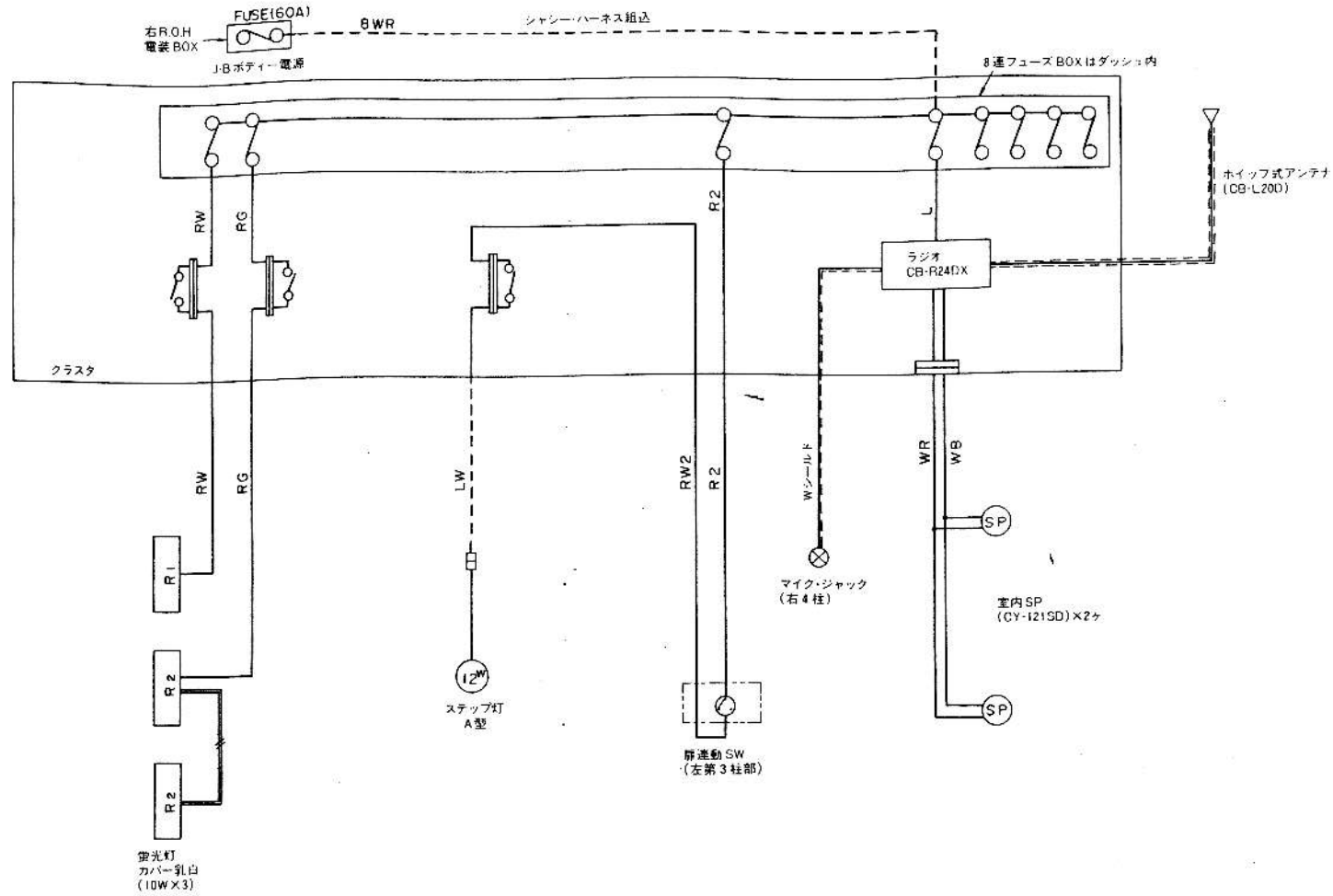


リヤ電装品ボックス内各電装品へ

スタータ・ケーブルに結合

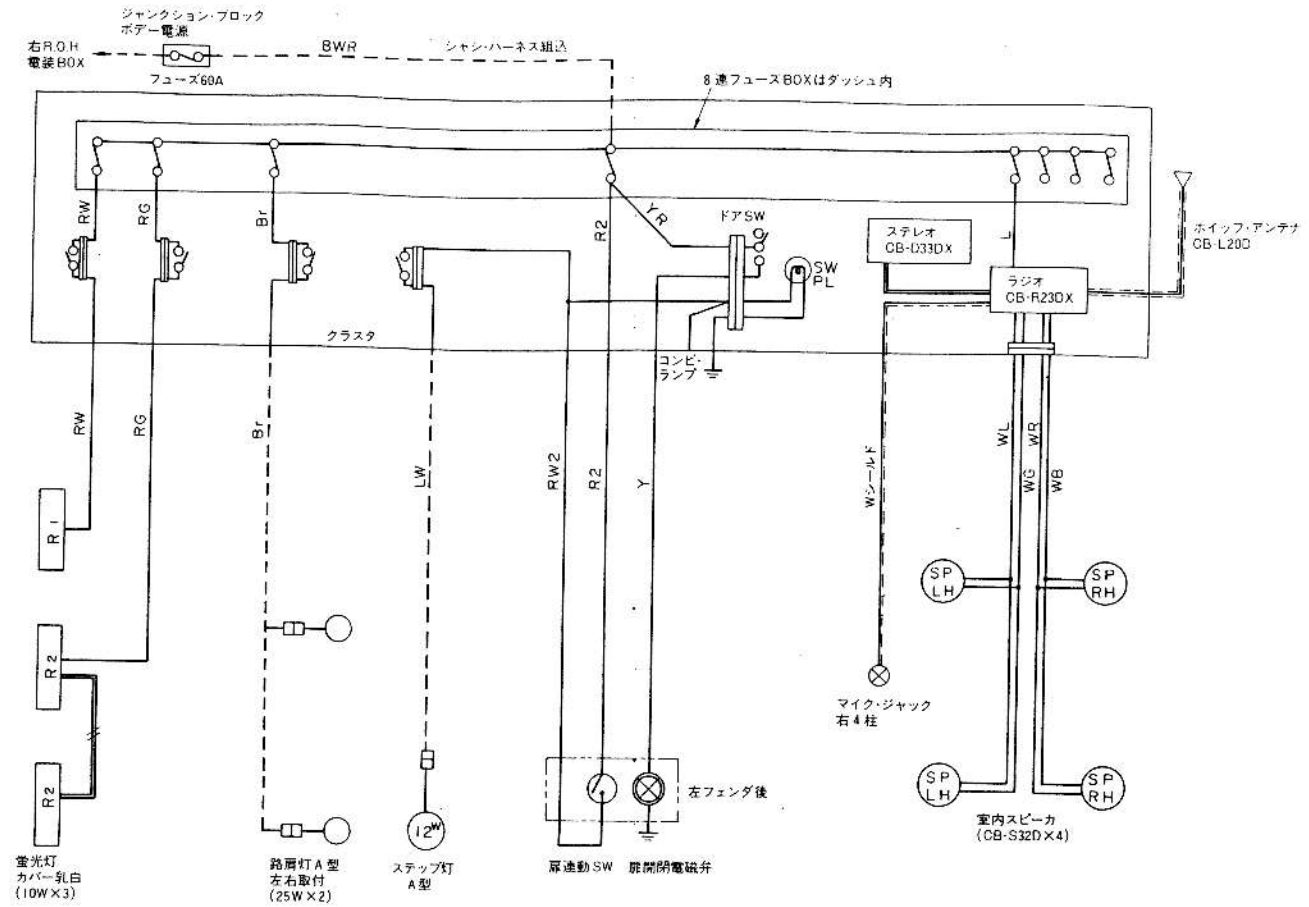
E/Gルーム内各電装品へ

電気配線図



デラックス仕様 (ボデー関係配線)

電気配線図



スーパー・デラックス仕様 (ボデー関係配線)

